

平成23年度

浜松市文化財調査報告

2013

浜松市教育委員会

例 言

1. 本書は、浜松市教育委員会(市民部文化財課が補助執行)が主に平成 23 年度に実施した市内文化財調査の報告書である。
2. 試掘・確認調査は、国の補助金を得て実施した調査、市単独費で実施した調査、原因者負担で実施した調査があり、本書には工事立会に伴う成果も含めた。
3. 本書は、第 1 章に本発掘調査概要、第 2 章に試掘・確認調査概要、第 3 章に試掘・確認調査報告、第 4 章に分布調査報告、第 5 章に詳細報告、第 6 章に文化財年報を掲載した。第 1 章の本発掘調査概要は、平成 23 年度に実施した本発掘調査、第 2 章の概要は、平成 23 年度に実施した試掘・確認調査、第 3 章の報告は、平成 23 年度に実施した試掘・確認調査のうち、特筆すべき遺跡についてその概略を掲載した。第 4 章の分布調査報告には、平成 23 年度に実施した分布調査の内容を掲載した。第 5 章の詳細報告には、平成 9 年に実施した天竜区水窪町所在の宝平遺跡に関わる確認調査報告を掲載した。第 6 章の文化財年報は、平成 23 年度における浜松市の文化財保護事業の概要を掲載した。
4. 本書の執筆と編集は、浜松市文化財課が行った。
5. 本書にかかわる遺跡の調査記録と出土品は、浜松市埋蔵文化財調査事務所 で保管している。

平成 23 年度 浜松市文化財調査報告

目 次

例 言

第 1 章	本発掘調査概要	1
第 2 章	試掘・確認調査概要	5
第 3 章	試掘・確認調査報告	27
第 4 章	分布調査報告	87
第 5 章	詳細報告	91
	宝平遺跡確認調査報告	92
第 6 章	文化財年報	109
	平成 23 年度 文化財保護事業報告	
	1 文化財保護・活用事業報告	110
	2 文化財の新指定等	119
	3 浜松市伝統芸能の集い	123
	4 第 18 回全国山城サミット連絡協議会 浜松大会	131

第1章

本発掘調査概要

(平成23年度)



本発掘調査 位置図

本発掘調査一覧

№	遺跡名	調査原因	調査面積 (㎡)	調査結果	位置図
	所在地	調査月日			担当
23-1	梶子遺跡13次 中区南伊場町	住宅建設 5月～2月	整理作業	敷智郡家と密接にかかわる自然流路、伊場大溝を全面にわたり発掘調査した。木簡3点や大量の墨書土器など、豊富な文字資料が出土した。	P2 井口智博
23-2	梶子遺跡14次 中区南伊場町	工場立替 5月～3月	1,870	縄文～中世の集落跡。奈良～平安の官衙跡。弥生時代後期の小穴、古墳時代前期の溝、平安時代の井戸、鎌倉時代、戦国時代、江戸時代の土坑などを検出した。	P2 井口智博
23-3	宮竹野跡遺跡6次 東区宮竹町	市道改良 7月	100	弥生～中世の集落跡。奈良時代の溝、鎌倉時代の井戸などを検出した。長上郡家にかかわる施設が一部およんでいる可能性が指摘できる。	P2 首藤久士
23-4	郷々平古墳群3次 北区都田町	施設建設 8月～12月	1,250	前方後円墳（3号墳）を含む古墳時代中期後葉の古墳群を確認した。3号墳は全長22mの前方後円墳で、埴輪を伴う。馬形埴輪は完形で復元できるもので、県内でも屈指の良好な資料群が得られた。	P2 関根章義
23-5	中屋遺跡9次 浜北区根堅	携帯鉄塔新設 9月	22	鎌倉時代の堀をもつ居館跡の調査。中世の造成土と小穴などを確認した。	P2 首藤久士
23-6	浜松城跡6次 中区元城町	史跡整備 8月	12	天守門復元にかかわる石垣土塁内の調査。石垣の裏込めが比較的良好な状態で遺存していることを確認した。	P2 首藤久士
23-7	浜松城跡7次 中区元城町	確認調査 12月	200	浜松城公園の再整備にかかわる確認調査。二の丸と御誕生場の落差および二の丸に位置する近世の包含層を確認した。御誕生場で確認した井戸は16世紀後半に掘るもので、徳川家康在城期のものである可能性が高い。	P2 影山重広

平成23年度 刊行報告書一覧

№	遺跡名	報告書名
23-1	梶子遺跡13次	梶子遺跡13次
23-2	梶子遺跡14次	平成24年度 発行予定
23-3	宮竹野跡遺跡6次	宮竹野跡遺跡6次
23-4	郷々平古墳群3次	郷々平古墳群
23-5	中屋遺跡9次	中屋遺跡9次
23-6	浜松城跡6次	浜松城跡6次
23-7	浜松城跡7次	浜松城跡7次



23-1 梶子遺跡13次



23-2 梶子遺跡14次



23-3 宮竹野跡遺跡6次



23-4 郷ヶ平古墳群



23-5 中屋遺跡9次



23-6 浜松城跡6次



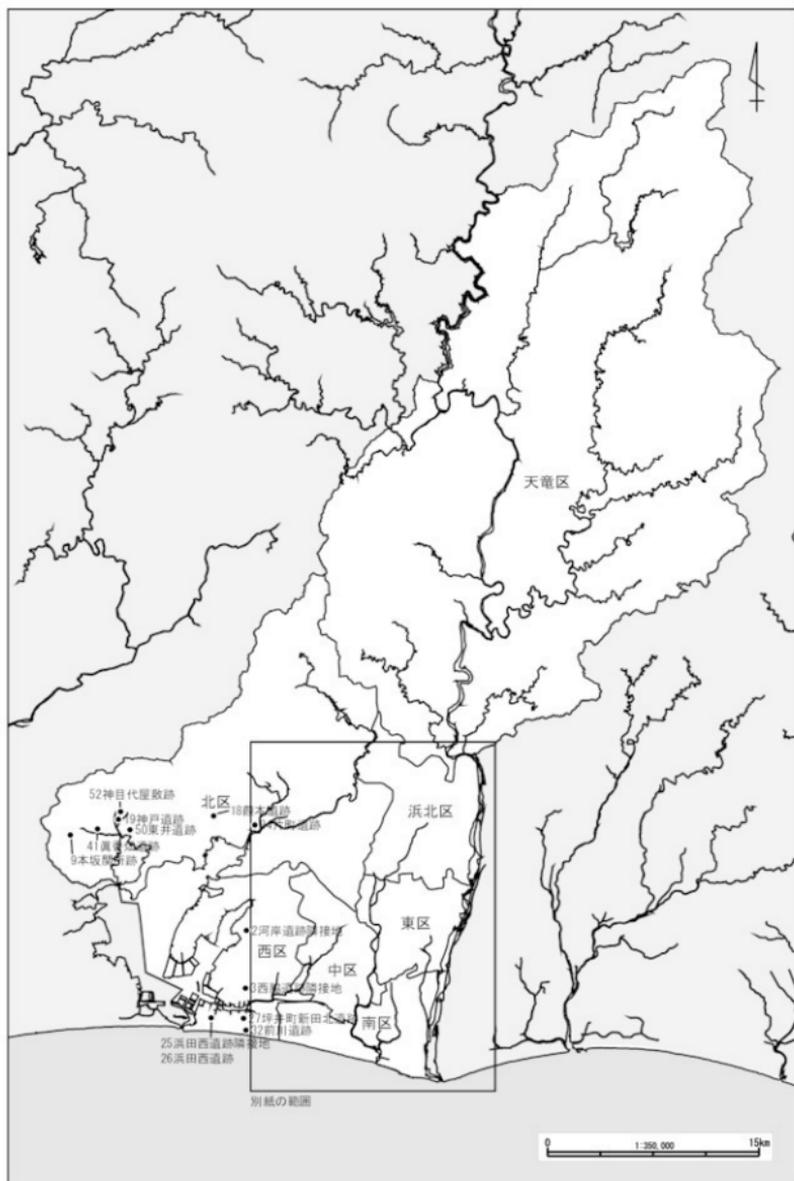
23-7 浜松城跡7次

本調査の写真

第2章

試掘・確認調査概要

(平成23年度)



試掘・確認調査 位置図(1)



試掘・確認調査 位置図(2)

試掘・確認調査一覧(1)

年度	№	遺跡名	所在地		調査		掲載ページ	
					面積(m ²)	概要	位置図	
平成 23 年度	23- 1	若林町村西遺跡	南区	若林町	5	10	13	
	23- 2	河岸遺跡隣接地	西区	伊左地町	6	10	13	
	23- 3	西脇遺跡隣接地	西区	志都呂町	12	10	13	
	23- 4	ハツ面遺跡	東区	豊町	4	10	13	
	23- 5	国方遺跡	西区	篠原町	8	10	13	
	23- 6	梶子北遺跡	中区	西伊場町	12	10	13	
	23- 7	井村遺跡	南区	若林町	12	10	14	
	23- 8	梶子遺跡	中区	南伊場町	44	10	14	
	23- 9	本坂開所跡	北区	三ツ日町本坂	21	10	14	
	23-10	鳥居松遺跡	中区	森田町	60	10	14	
	23-11	増楽町村北遺跡	南区	増楽町	25	10	14	
	23-12	増楽遺跡	南区	増楽町	8	10	15	
	23-13	芝本遺跡	浜北区	於呂	12	10	15	
	23-14	中村遺跡	中区	東伊場	15	10	15	
	23-15	百々原遺跡	天竜区	渡々島	36	10	15	
	23-16	宮竹野原遺跡隣接地	東区	和田町	20	10	15	
	23-17	高塚遺跡	南区	高塚町	20	10	15	
	23-18	蔵本遺跡	北区	細江町気賀	12.5	10	16	
	23-19	神戸遺跡	北区	三ツ日町岡本	65	11	16	
	23-20	宮前遺跡	東区	豊町	10	11	16	
	23-21	笠井遺跡	東区	笠井町	12	11	16	
	23-22	村東遺跡	南区	東若林町	4	11	16	
	23-23	大平遺跡	西区	入野町	30	11	16	
23-24	三永遺跡	中区	西伊場町	5	11	17		
23-25	浜田西遺跡隣接地	西区	舞阪町浜田	4.5	11	17		
23-26	浜田西遺跡	西区	舞阪町浜田	8	11	17		

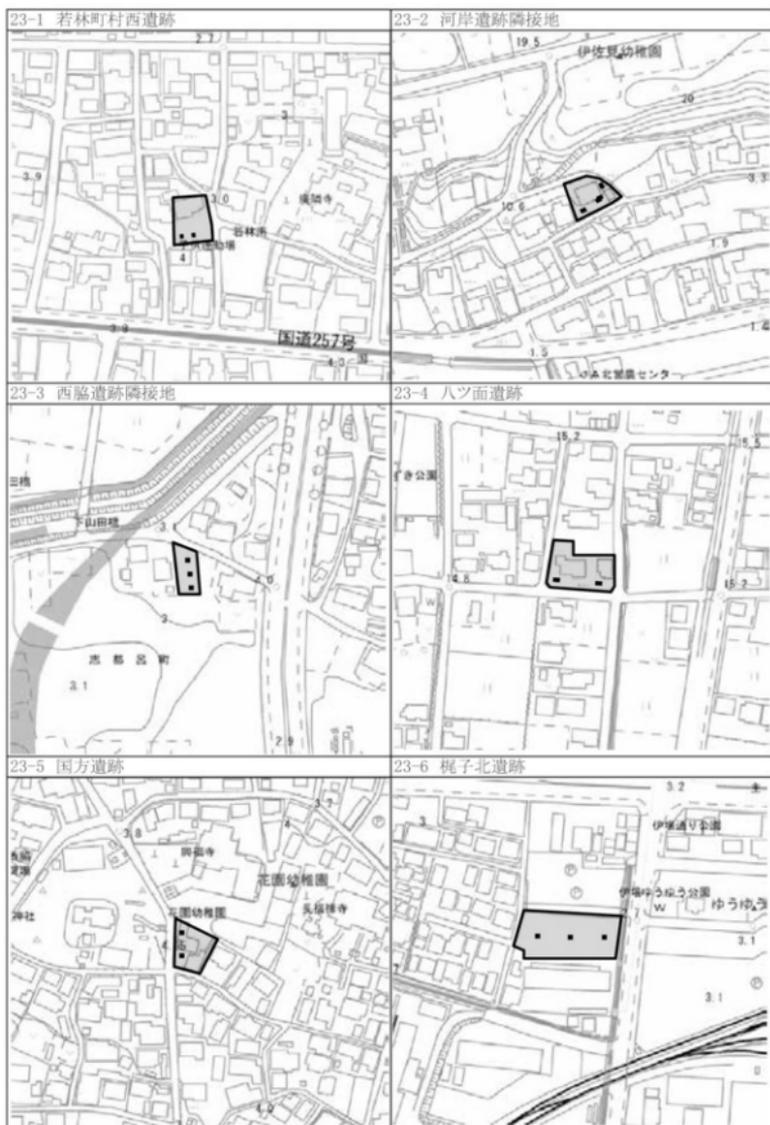
試掘・確認調査一覧(2)

年度	No	遺跡名	所在地		掲載ページ		
					調査面積(m ²)	概要	位置図
平成23年度	23-27	坪井町新田北遺跡	西区	坪井町	12	11	17
	23-28	飯田遺跡群隣接地	南区	飯田町	8	11	17
	23-29	芝本遺跡	浜北区	於呂	10	11	17
	23-30	橋爪遺跡	東区	中郡町	8	11	18
	23-31	阿弥陀遺跡	中区	曳馬	24	11	18
	23-32	前川遺跡	西区	坪井町	8	11	18
	23-33	下石田町村前遺跡	東区	下石田町	12	11	18
	23-34	片町遺跡(上町古墳群)	北区	細江町気賀	48	11	18
	23-35	歌謡遺跡	中区	榎塚	4	11	18
	23-36	市野遺跡群隣接地	東区	市野町	6	11	19
	23-37	梶子遺跡	中区	南伊場	32	12	19
	23-38	東若林遺跡	南区	東若林	20	12	19
	23-39	尾高山遺跡	北区	都田町	44	12	19
	23-40	高塚遺跡	南区	高塚町	8	12	19
	23-41	眞香畑遺跡	北区	三ヶ日町日比沢	16	12	20
	23-42	山寺野遺跡	南区	飯田町	12	12	20
	23-43	馬領家遺跡隣接地	中区	領家町	9	12	20
	23-44	田尻遺跡	南区	田尻町	8	12	20
	23-45	野口前遺跡	浜北区	宮口	8	12	20
	23-46	箕輪遺跡	東区	小池町	8	12	20
	23-47	野口前遺跡	浜北区	宮口	8	12	21
	23-48	旧大通院境内遺跡隣接地	南区	新橋町	4	12	21
	23-49	郷々平古墳群	北区	都田町	30	12	21
23-50	東井遺跡	北区	三ヶ日町三ヶ日	45	12	21	
23-51	別所前遺跡	東区	市野町	24	12	21	
23-52	神目代屋敷跡	北区	三ヶ日町岡本	50	12	21	

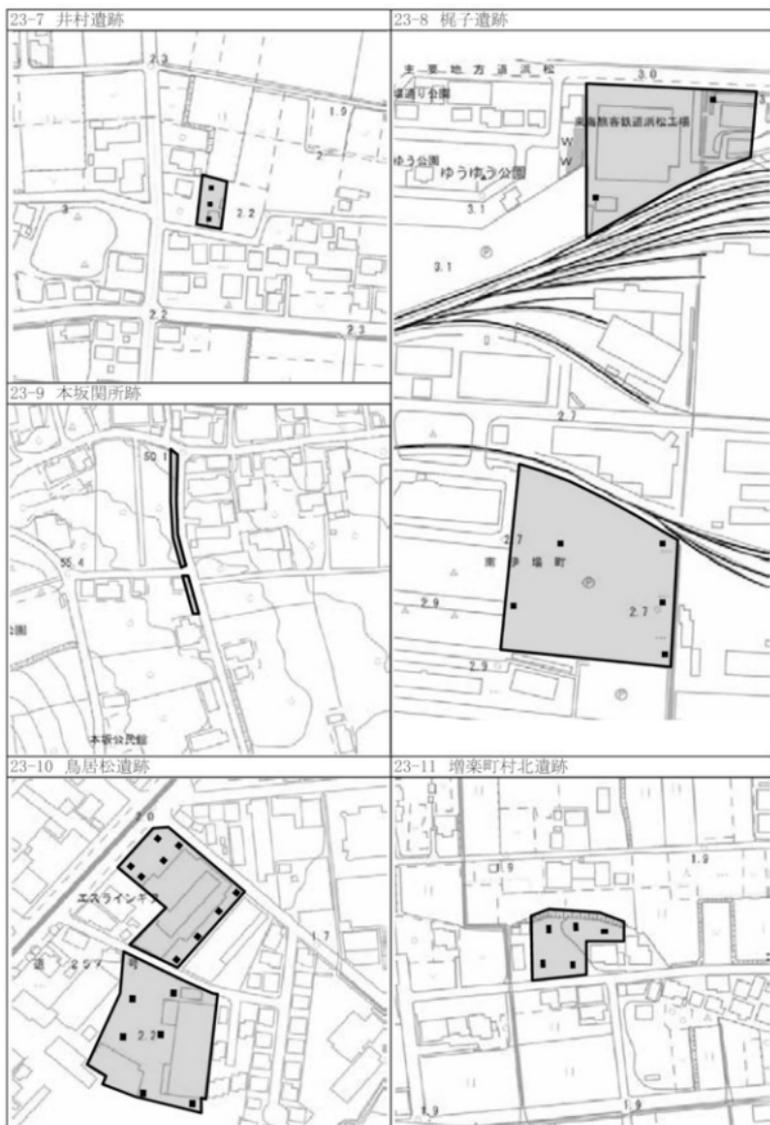
年度	No	遺跡名	調査原因	遺跡の内容(調査成果)	対応	区分	
		所在地	調査月日			担当	
平成23年度	23-1	若林町村西遺跡 南区若林町 1148-1	個人住宅建設	4月18日	古墳～平安時代の若干の遺物が出土した。遺跡の範囲内だが、遺構の希薄な地点とみられる。	遺跡内 慎重工事	先方負担 井口智博
	23-2	河岸遺跡隣接地 西区伊左地町 5717	個人住宅建設	4月19日	遺構、遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と判断できる。	遺跡外	補助 鈴木一有
	23-3	西脇遺跡隣接地 西区志都台町 西都地区園 整地 事業地内南区2符合5他	個人住宅建設	4月21日	遺構、遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と判断できる。	遺跡外	補助 井口智博
	23-4	八ツ面遺跡 東区豊町 2818	個人住宅建設	4月25日	遺構、遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と判断できる。	遺跡外 範囲変更	補助 鈴木一有
	23-5	国方遺跡 西区篠原町 9376	幼稚園舎建設	4月26日	戦国時代の遺物の埋没状況が確認できた。遺構は希薄な地点と想定できる。	遺跡内 慎重工事	先方負担 井口智博
	23-6	梶子北遺跡 中区西伊場町 2242-20	宅地分譲	4月27日	遺物は僅かに出土したが、明確な遺構は確認できなかった。遺跡の範囲外と判断できる。	遺跡外 範囲変更	補助 鈴木一有
	23-7	井村遺跡 南区若林町 3689-3	宅地造成	5月9日	遺構・遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と判断できる。	遺跡外 範囲変更	補助 鈴木一有
	23-8	梶子遺跡 中区南伊場町 33-1他	工場建設	5月10日16日	弥生・平安時代の遺構・遺物を確認した。遺跡の埋没状況が明確になった。	本発掘調査 [No.2013]	先方負担 井口智博
	23-9	本坂園所跡 北区三ヶ日町本坂地内	市道拡張	5月24日	遺構、遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と判断できる。	遺跡外 範囲変更	先方負担 井口智博
	23-10	鳥居松遺跡 中区森田町 155	店舗等建設	6月6日～9日	弥生～奈良時代の遺構、遺物を確認し、伊福大溝の流路を確定した。	遺跡内 慎重工事	補助 鈴木一有
	23-11	増栄町村北遺跡 南区増栄町 1587-1	宅地分譲	6月13日	弥生時代の遺物が出土し、遺構を検出した。	遺跡内 設計変更	補助 井口智博
	23-12	増栄遺跡 南区増栄町 1517	宅地造成	6月13日	奈良時代の遺物が出土し、遺構を検出した。	遺跡内 設計変更	補助 首藤久士
	23-13	芝本遺跡 浜北区於呂 2968-1	宅地造成	6月15日	弥生時代の遺物が出土し、遺構を検出した。	遺跡内 設計変更	補助 首藤久士
	23-14	中村遺跡 中区東伊場一丁目 4461-1他	共同住宅新築	6月23日	遺構、遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲内ながら、後世の改変が著しい地点と判断できる。	遺跡内 慎重工事	先方負担 鈴木一有
	23-15	百々原遺跡 天竜区渡ヶ島字百々 201-1	建物建替	6月27日	遺構、遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と判断できる。	遺跡外 範囲変更	先方負担 鈴木一有
	23-16	宮竹野原遺跡隣接地 東区和田町字中島 783	個人住宅建設	7月6日	遺構、遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と判断できる。	遺跡外	補助 首藤久士
	23-17	高塚遺跡 南区高塚町 994-4、994-5他	駅舎建て替え等	7月12日13日	遺構、遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と判断できる。	遺跡外 範囲変更	先方負担 鈴木一有
	23-18	蔵本遺跡 北区福江町気賀字蔵本 8283-1	個人住宅建設	7月21日	奈良時代の遺物、遺構が確認できた。製塩土器の出土は特筆できる。官衛的性格を考慮してよいか。	遺跡内 設計変更	補助 鈴木一有

年度	No	遺跡名		調査原因	遺跡の内容(調査成果)	対応	区分
		所在地					調査月日
平成 25 年度	23-19	神戸遺跡 北区三ツ日町岡本 669-3他		国道拡張	小穴、溝をわずかに検出。灰釉陶器が出土。遺跡の縁辺部と判断できる	遺跡外 範囲変更	先方負担 井口智博
	23-20	宮前遺跡 東区豊町 2735		個人住宅建設	奈良・鎌倉・江戸の遺物・遺構が確認できた。江戸の集積小穴は礎石建物根拠とみられる。	遺跡内 設計変更	先方負担 鈴木一有
	23-21	笹井遺跡 東区笹井町 52-3		宅地分譲	奈良時代の遺物・遺構が確認できた。遺跡の中心地にあたると思われる。	遺跡内 設計変更	補助 井口智博
	23-22	村東遺跡 南区東若林町 1276		個人住宅建設	遺物が僅かに出土したものの、遺構は確認できなかった。遺跡内の希薄な地点とみられる。	遺跡内 慎重工事	補助 鈴木一有
	23-23	大平遺跡 西区入野町 20026-16、17、18		個人住宅建設	弥生時代終末期の首長居館の周境を確認。敷地の大部分は既に造成済み。	遺跡内 慎重工事	補助 鈴木一有
	23-24	三木遺跡 中区西伊場町 2708-1		個人住宅建設	遺構・遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と判断できる。	遺跡外 範囲変更	補助 井口智博
	23-25	浜田西遺跡隣接地 西区舞阪町浜田 141		個人住宅建設	遺構・遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と判断できる。	遺跡外 範囲変更	補助 首藤久士
	23-26	浜田西遺跡 西区舞阪町浜田 178		個人住宅建設	遺構・遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と判断できる。	遺跡外 範囲変更	補助 首藤久士
	23-27	坪井町新田北遺跡 西区坪井町 272、279-1		個人住宅建設	遺物が若干出土したものの、明確な遺構は確認できなかった。遺跡の範囲外と判断できる。	遺跡外 範囲変更	補助 首藤久士
	23-28	依田遺跡隣接地 南区依田町 680-2		店舗建設	弥生・古墳・奈良の遺構・遺物を確認した。遺跡の中心地にあたると思われる。	遺跡内 範囲変更	補助 鈴木一有
	23-29	芝本遺跡 浜北区於呂地内		道路拡張	遺構・遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と判断できる。	遺跡外 範囲変更	先方負担 鈴木一有
	23-30	榎瓜遺跡 東区中部町 425、426-1		個人住宅建設	奈良の遺物が確認できた。遺跡の範囲内にあたると思われる。	遺跡外 範囲変更	補助 鈴木一有
	23-31	阿弥陀遺跡 中区丸馬6丁目 410-1		集合住宅建設	遺構・遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と判断できる。	遺跡外 範囲変更	補助 鈴木一有
	23-32	前川遺跡 西区坪井町 4119-1、4119-2他		個人住宅建設	遺構・遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と判断できる。	遺跡外 範囲変更	補助 鈴木一有
	23-33	下町田町村前遺跡 東区下町田町 1442-1、1442-2		個人住宅建設	若干の遺物が出土したが、遺跡の中心から流れこんだものとみられ、遺跡の範囲外と判断できる。	遺跡外 範囲変更	補助 鈴木一有
	23-34	片町遺跡(上町古墳群) 北区藤立町気賀 997-1		幼稚園舎建設	若干の遺物が出土したが、遺跡の中心から流れこんだものとみられ、遺跡の範囲外と判断できる。	遺跡外 範囲変更	補助 鈴木一有
	23-35	歌留遺跡 中区規塚2丁目 1970-1		個人住宅建設	遺構・遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と判断できる。	遺跡外 範囲変更	補助 首藤久士
	23-36	市野遺跡隣接地 東区市野町 249-1		個人住宅建設	遺物は出土したものの、明確な遺構は確認できなかった。遺跡の範囲外と判断できる。	遺跡外 免見連絡	補助 鈴木一有

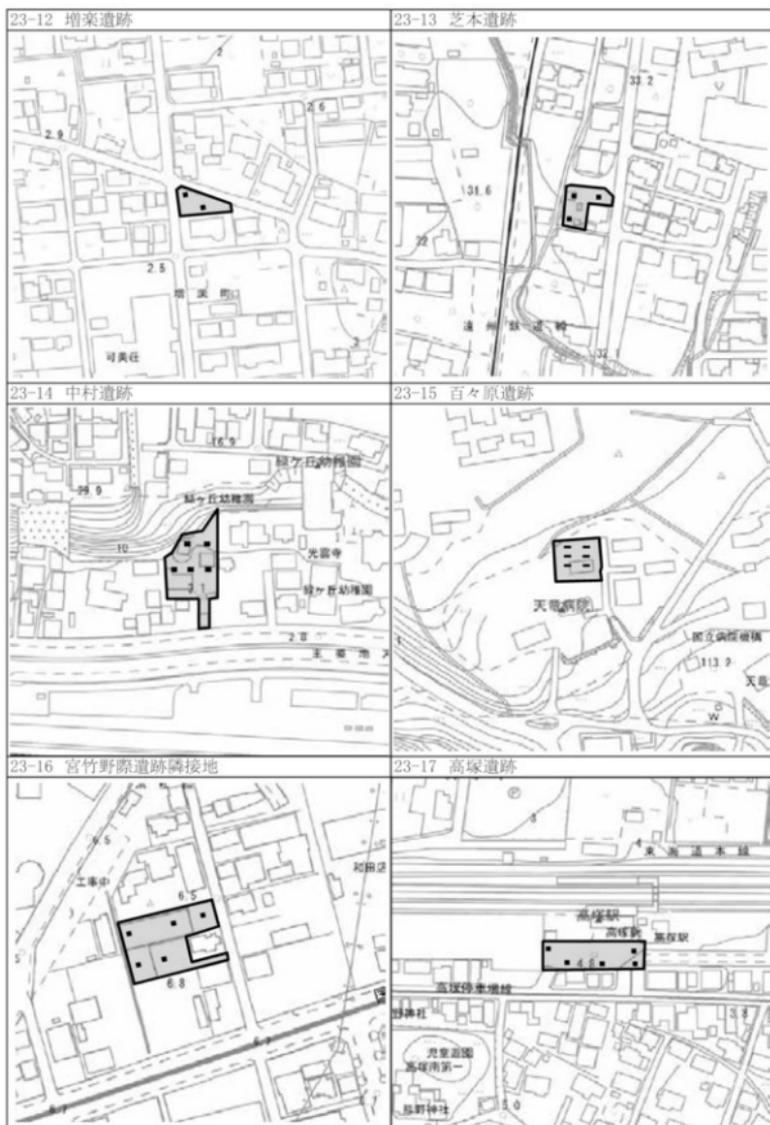
年度	No	遺跡名	調査理由	遺跡の内容(調査成果)	対 処	区 分
		所在地	調査月日			担 当
平成 23 年度	23-37	梶子遺跡 中区南伊揚町 1-1	工事建設 12月3日4日	遺構・遺物ともに希薄な状況を確認した。遺跡の範囲内の空間地と判断できる。	本築削調査 【R7#遺跡4R#】 2013	先方負担 井口智博
	23-38	東若林遺跡 南区東若林町 1013-2	土地売買 12月12日	自然流路の可能性ある。奈良時代から平安時代の遺物を含む低地面を確認した。	遺跡内 調整中	先方負担 鈴木一有
	23-39	尾高山遺跡 北区都田町 10570	法面土留め工事 12月12日13日	弥生時代後期から古墳時代前期の土坑を確認した。同時代の土や甕の破片が出土した。	遺跡内 工事立会	先方負担 首藤久士
	23-40	高塚遺跡 南区高塚町 401-1、408-1	個人住宅建設 12月19日	遺構・遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と判断できる。	遺跡外	補 助 鈴木一有
	23-41	眞香畑遺跡 北区三ヶ日町日比沢 555-2	寺院建替え 12月27日	遺構・遺物ともに希薄な状況を確認した。遺跡の範囲内の空間地と判断できる。周辺で遺物を表捉。	遺跡内 工事立会	補 助 井口智博
	23-42	山寺野遺跡 南区飯田町 739	個人住宅建設 12月27日	弥生時代から奈良・平安時代の遺物が出土した。遺跡の範囲内と捉えられる。	遺跡内 慎重工事	補 助 鈴木一有
	23-43	馬塚家遺跡隣接地 中区祖家2丁目 313	宅地造成 1月10日	遺構・遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と判断できる。	遺跡外	補 助 鈴木一有
	23-44	田尻遺跡 南区田尻町 369-1	集合住宅建設 1月16日	遺構・遺物ともに確認できなかった。遺跡の縁辺部と判断できる。	遺跡外	補 助 鈴木一有
	23-45	野口前遺跡 浜北区宮口地区内	道路拡幅 1月18日	遺構・遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と判断できる。	遺跡外 範囲変更	先方負担 鈴木一有
	23-46	笑輪遺跡 東区小池町 2469地2筆	個人住宅建設 1月23日	遺構・遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と判断できる。	遺跡外 範囲変更	補 助 鈴木一有
	23-47	野口前遺跡 浜北区宮口地区内	県道拡幅 1月25日	遺構・遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と判断できる。	遺跡外 範囲変更	先方負担 井口智博
	23-48	旧大法院境内遺跡隣接地 南区新橋町 743	駅周辺整備事業 1月30日	遺構・遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と判断できる。	遺跡外	補 助 井口智博
	23-49	郷ヶ平古墳群 北区都田町宇郷ヶ平 16-5	建物建替え 2月7日～2月20日	古墳群の想定分布域の大部分は既存の建物によって既に破壊されていることが判明した。	遺跡内 工事立会	補 助 和田達也
	23-50	東井遺跡 北区三ヶ日町三ヶ日 403-5他	宅地分譲 2月10日	遺構・遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と判断できる。	遺跡外 範囲変更	先方負担 井口智博
	23-51	別所前遺跡 東区赤野町 2218-1	店舗建設 3月1日	弥生時代後期の遺構・遺物が確認できた。遺跡の範囲内と捉えられる。	遺跡内 慎重工事	先方負担 首藤久士
	23-52	神日代屋敷跡 北区三ヶ日町岡本地区内	道路拡幅 3月27日	古墳時代後期から戦国時代の包含層、小穴を確認した。北側には、遺跡が存在することが判明した。	本築削調査 資料整理中	先方負担 井口智博



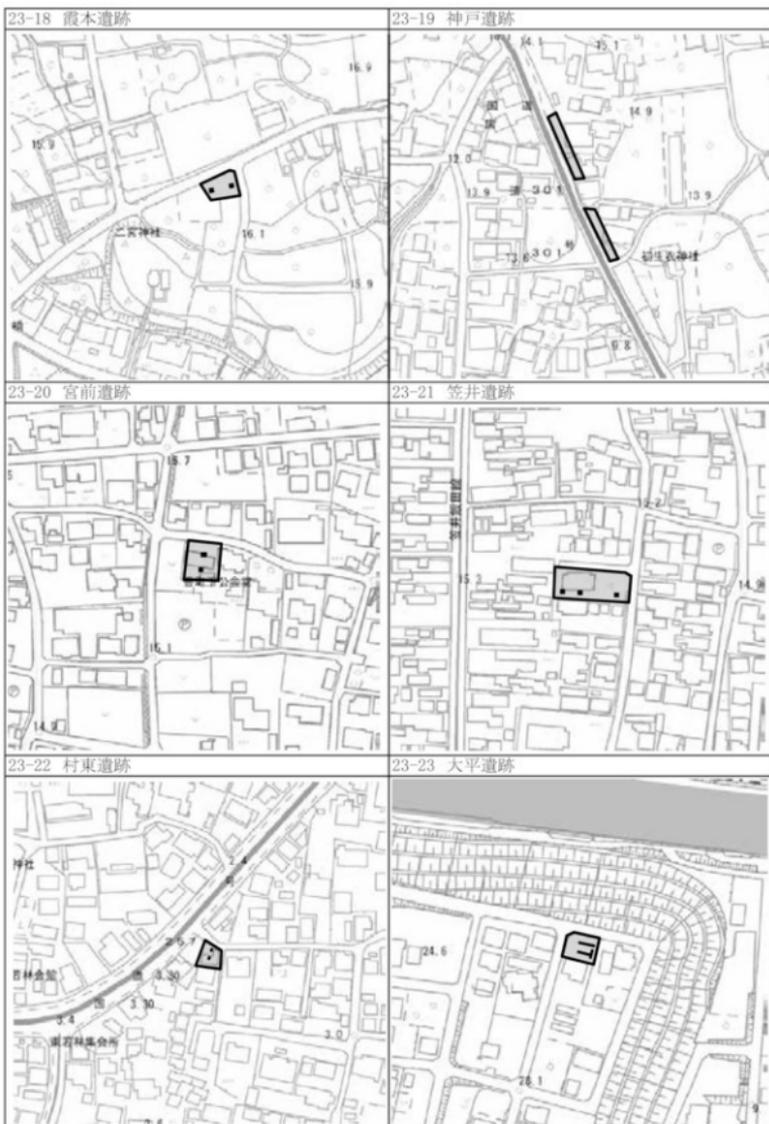
試掘・確認調査位置図①



試掘・確認調査位置図②



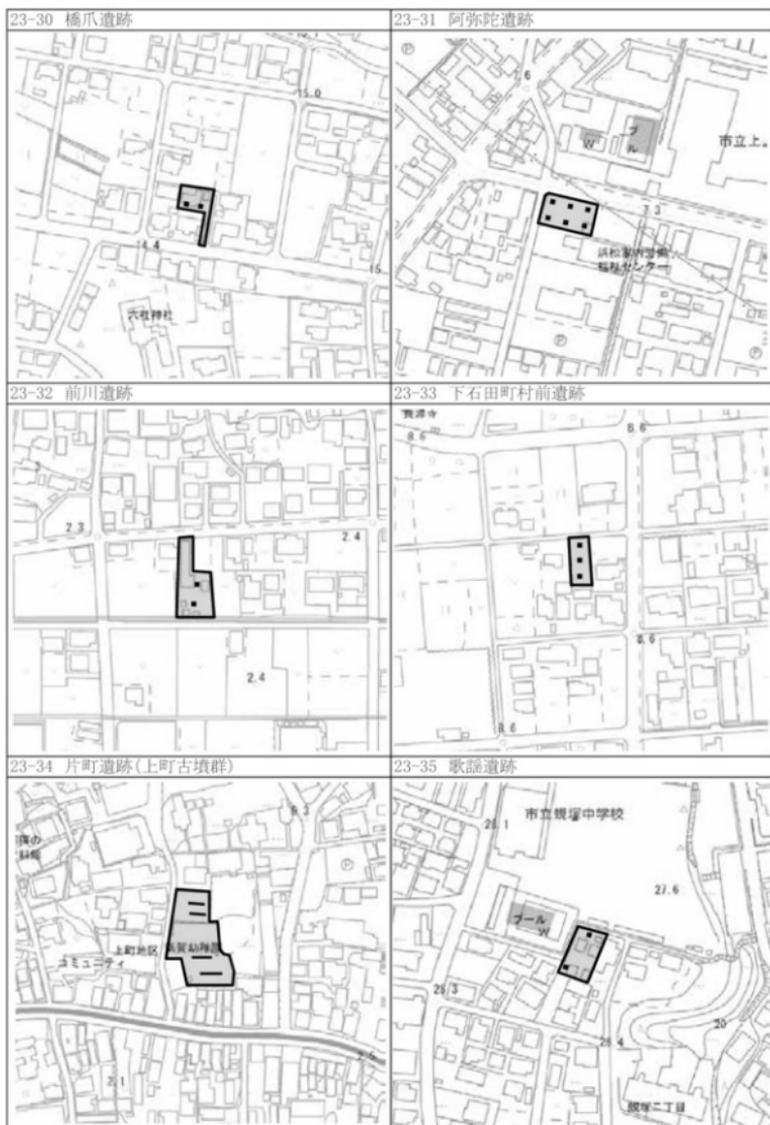
試掘・確認調査位置図③



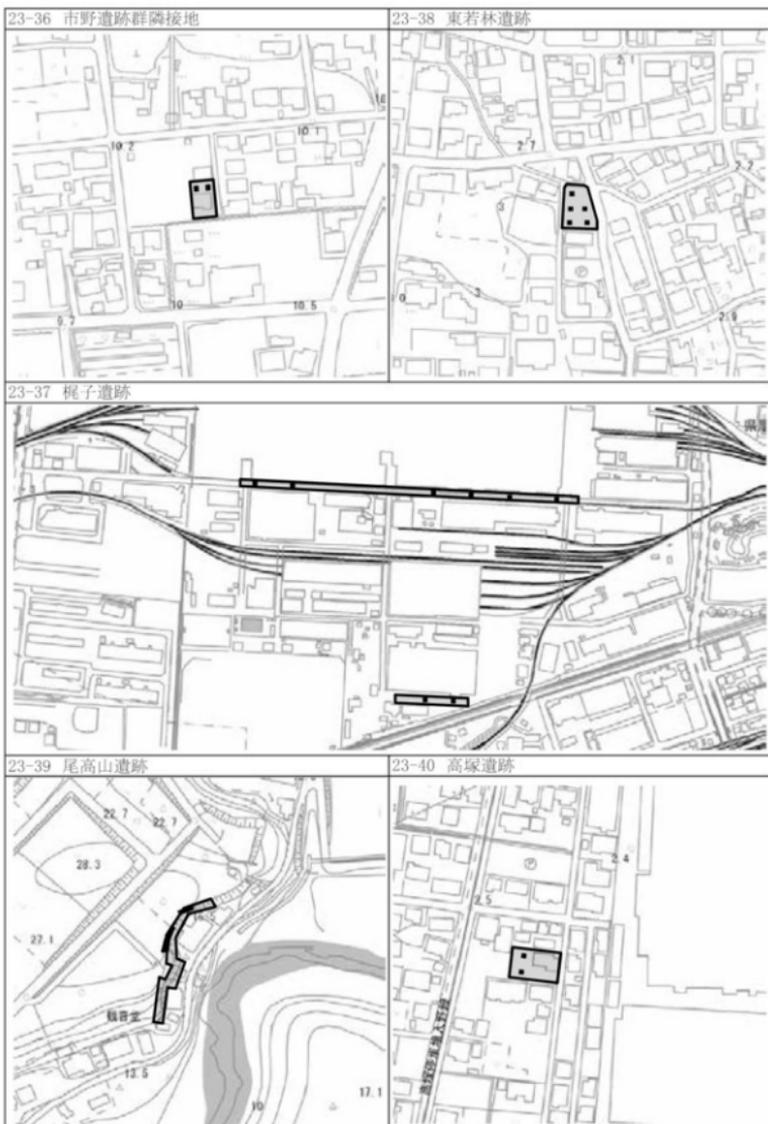
試掘・確認調査位置図④



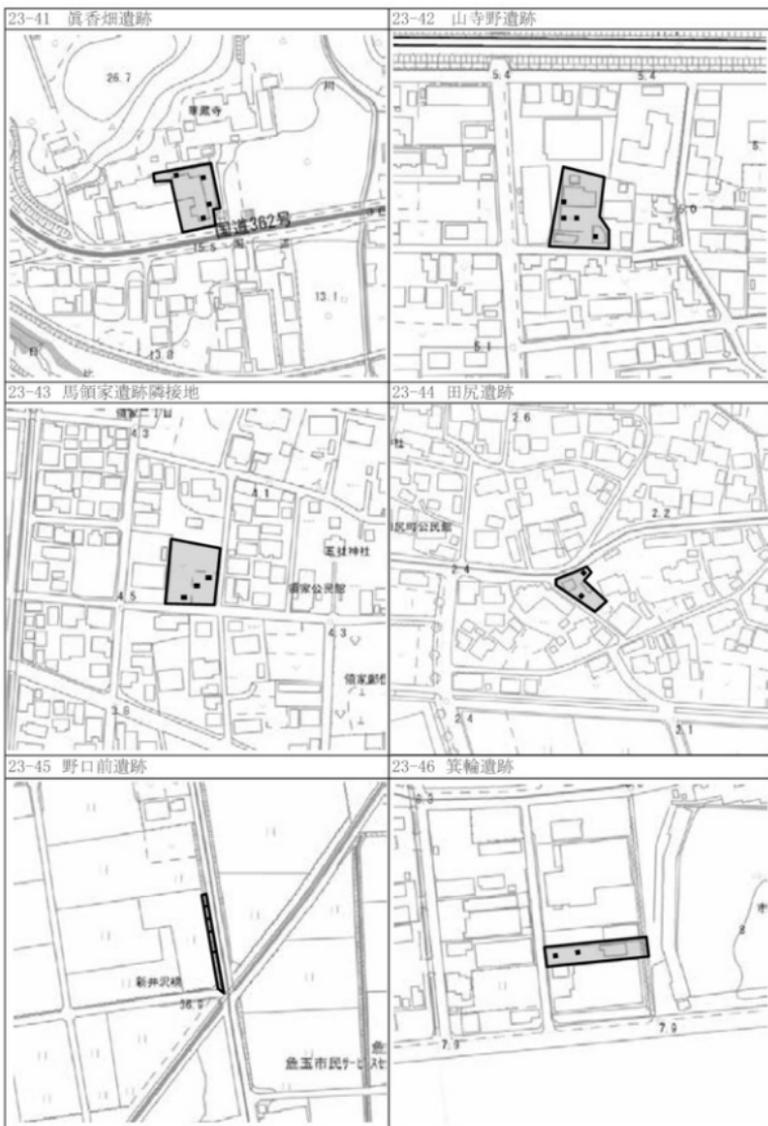
試掘・確認調査位置図⑤



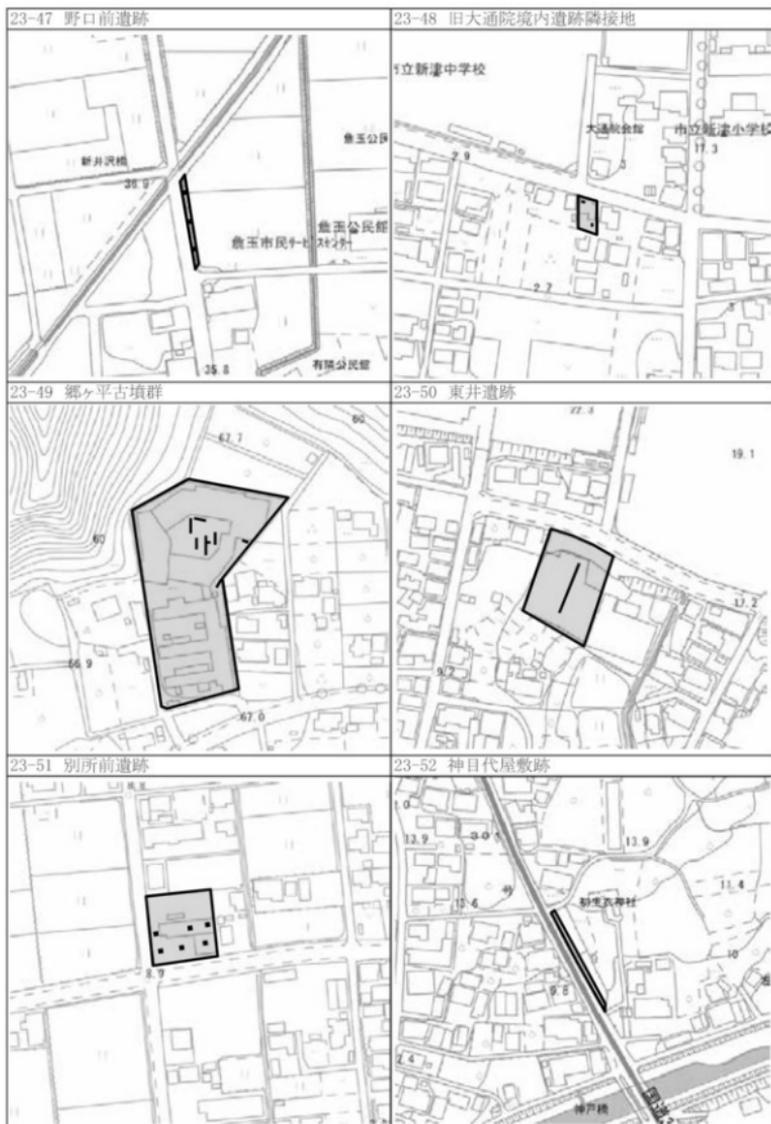
試掘・確認調査位置図⑥



試掘・確認調査位置図⑦



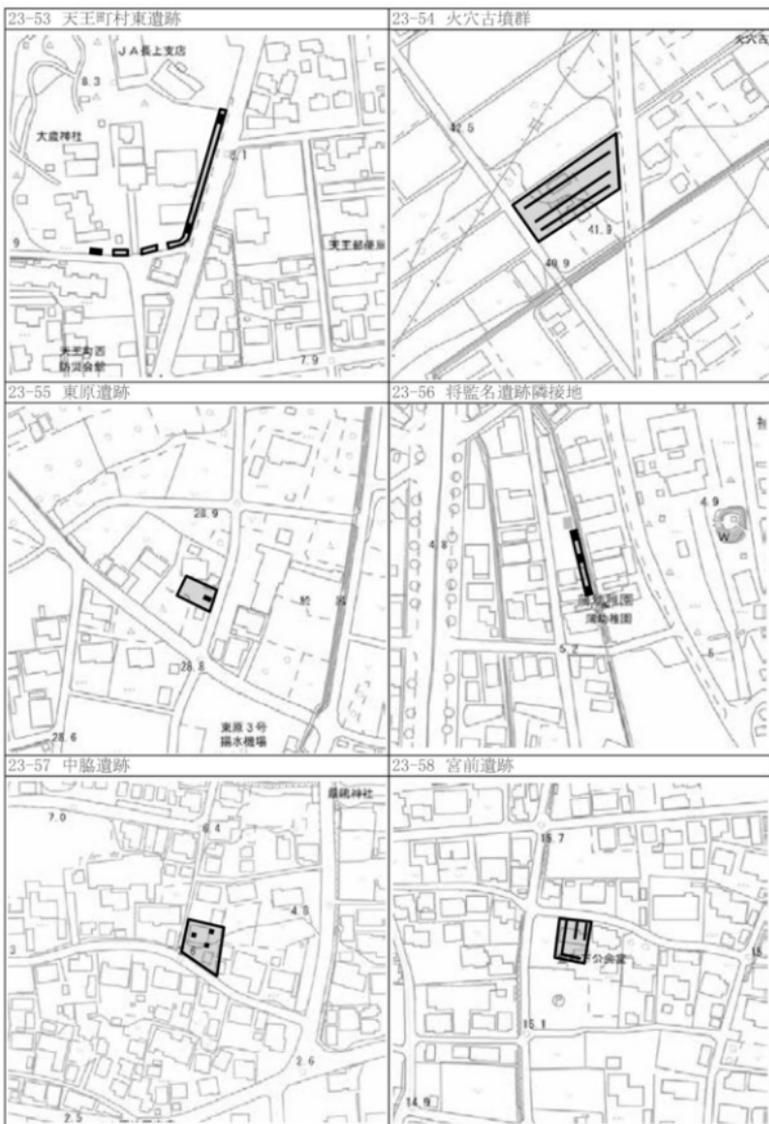
試掘・確認調査位置図⑧



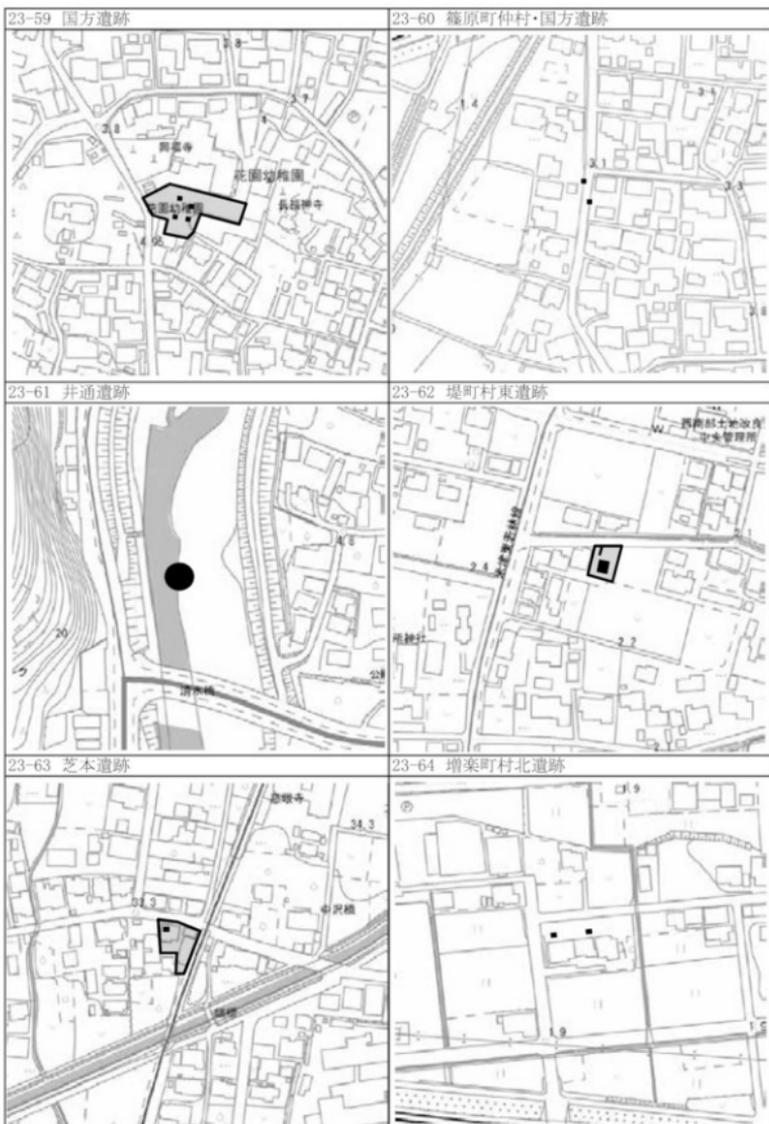
試掘・確認調査位置⑨

工事立会一覧

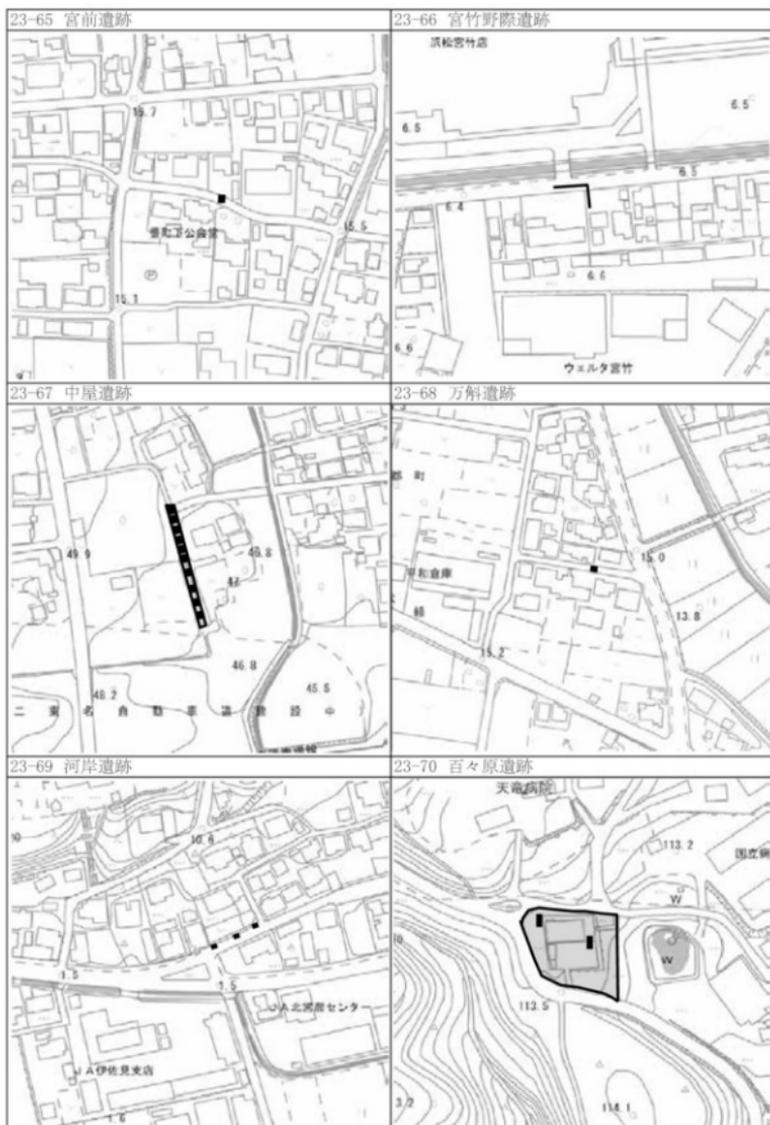
年度	No	遺跡名		調査原因	立会結果	位置図
		所在地				
平成 23年度	23-53	天王町村東遺跡 東区天王町 1484-1地		神社玉垣設置 93条指示 4月5日	遺跡の範囲内において包含層上面の盛土状況を確認した。	P23 鈴木一有
	23-54	火穴古墳群 西区深草町 304		農用排水施設工事 93条指示 4月21日	遺構、遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と判断できる。	P23 鈴木一有
	23-55	東京遺跡 浜北区新原 5431地		浄化槽設置工事 93条指示 5月23日	遺構、遺物ともに確認できなかった。	P23 鈴木一有
	23-56	付能名遺跡隣接地 中区佐藤3丁目 12地		廣幼保育園 園舎改築工事 立会を依頼 7月25日	遺構、遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と判断できる。	P23 鈴木一有
	23-57	中庭遺跡 西区志都呂町 1421-1		個人住宅建設 93条指示 7月29日	遺物が僅かに出土したが、遺構は確認できなかった。宅地造成で遺跡の痕跡が大きいとみられる。	P23 首藤久士
	23-58	宮前遺跡 東区豊町 2735		個人住宅建設 93条指示 8月24日	試掘（8月12日実施）で確認したものと一連の集石小穴（江戸時代）を検出した。	P23 首藤久士
	23-59	国方遺跡 西区篠原町 9376-1		幼稚園舎建設 93条指示 9月7日	工事範囲内において、遺構や遺物は確認できなかった。	P24 鈴木一有
	23-60	篠原町仲村・国方遺跡 西区篠原町地内		道路拡張設置工事 水道管設置工事 94条指示 9月9日	工事範囲内において、遺構や遺物は確認できなかった。遺跡の境界付近にあるとみられる。	P24 鈴木一有
	23-61	井通遺跡 北区瀬江町広園 （井伊谷川河川敷内）		河川工事 立会を依頼 9月12日	円形の貫通孔をもつ大型木材や筒形の木製品を確認した。大型木材の埋藏時期は近世以降か。	P24 鈴木敏則
	23-62	堀町村東遺跡 南区堀町 36-3		個人住宅建設 93条指示 9月14日	工事範囲内において、遺構や遺物は確認できなかった。	P24 井口智博
	23-63	芝本遺跡 浜北区於呂字大道東 2929-7、2930		合併浄化槽埋設工事 93条指示 9月15日	工事範囲内において、遺構や遺物は確認できなかった。遺跡の範囲外の可能性が高い。将来的に範囲変更か。	P24 鈴木一有
	23-64	増楽町村北遺跡 南区増楽町 1595-1		宅地造成前の産業廃棄物撤去 立会を依頼 9月28日	非発生の遺物が出土した。低地内に流れ込んだものとみられる。	P24 鈴木一有
	23-65	宮前遺跡 東区豊町地内		給水管理設工事 94条指示 10月5日	奈良の遺物が確認できた。遺跡の範囲内にあると捉えられる。	P25 鈴木一有
	23-66	宮竹野原遺跡 東区宮竹町地内		下水管理設工事 94条指示 10月11日	鎌倉の遺物が確認できた。遺跡の範囲内だが遺構が希薄な地点にあると捉えられる。	P25 鈴木一有
	23-67	中庭遺跡 浜北区根張 229-3		道筋拡張工事 94条指示 10月17日18日	中世居館の東側を区画する大規模な堀の延長部分を確認した。	P25 首藤久士
	23-68	万斛遺跡 東区中部町地内		下水管理設工事 94条指示 10月20日	鎌倉の遺物が確認できた。遺跡の範囲内にあると捉えられる。	P25 鈴木一有
	23-69	河岸遺跡 西区伊左地町地内		排水管理設工事 94条指示 11月8日	覆土が顕著で、遺構・遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲は明確にできない。	P25 鈴木一有
	23-70	百々原遺跡 浜北区根張 （天竜病院）		保育園舎増設工事 立会を依頼 11月9日	遺構、遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と判断できる。	P25 鈴木一有
	23-71	一色遺跡 北区都田町地内		給水管理設 94条指示 11月24日	覆土が顕著で、遺構・遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲は明確にできない。	P26 鈴木一有
	23-72	高塚遺跡 南区高塚町地内		下水管理設置工事 94条指示 12月19日	遺構・遺物ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と判断できる。	P26 首藤久士
	23-73	城山遺跡 南区若林町地内		西帯橋塔建設 93条指示 12月20日	掘削区が浅く、盛土の範囲内であった。遺跡への影響はなかった。	P26 井口智博
	23-74	農本遺跡 北区瀬江町地内		浄化槽設置工事 93条指示 2月3日	掘削区が浅く、盛土の範囲内であった。遺跡への影響はなかった。	P26 首藤久士
	23-75	浜松城跡 中区元城町		みかんの木植え替え工事 93条指示 3月22日	遺構検出面において奈良時代の小穴などを確認した。奈良時代の土器が出土した。 報告書『浜松城跡8次』2013	P26 首藤久士



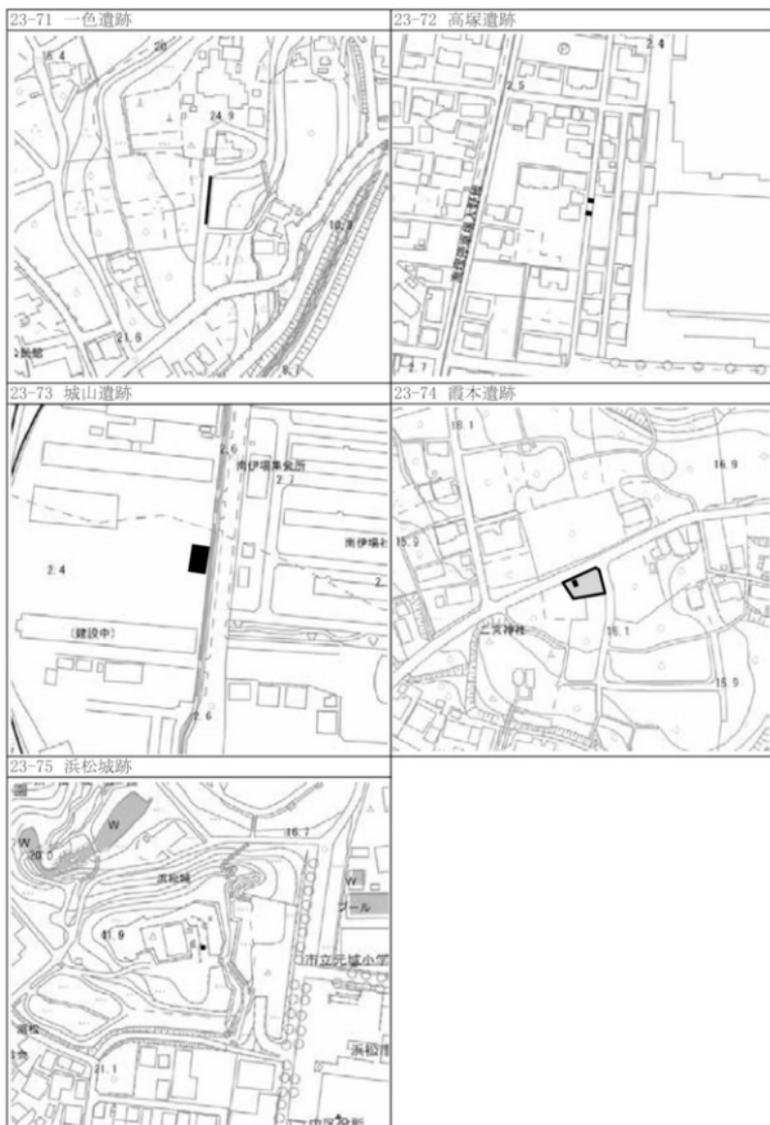
工事立会調査位置図①



工事立会調査位置図②



工事立会調査位置図③



工事立会調査位置図④

第3章

試掘・確認調査報告

(平成23年度)

23-2. 河岸遺跡隣接地

所在地	西区伊左地町 5717
調査期間	平成23年 4月19日
時代	_____
調査方法	2 m×1 m 試掘坑 3箇所
検出遺構	なし
出土遺物	なし
特記事項	なし
調査担当	鈴木 一有



位置図 (2500分の1)

調査概要

試掘坑の配置及び土層断面図は別添図に示した。調査地点は浜名湖に繋がる河岸段丘の斜面上に立地する。現在は宅地造成による土地の改変が著しい。

調査は試掘坑を3箇所設けて実施した。土層堆積状況は、1層：表土、2層：黄褐色砂質土、3層：暗茶褐色（暗青灰色）粘質土、4層：淡黄褐色（青灰色）砂礫土である（括弧内はグライ化が進んだ地点の色調）。斜面下方にあたる（試掘坑1、2）においては基盤層である4層（淡黄褐色砂礫土）の上に自然堆積土がみられるが、遺構や遺物は確認できない。

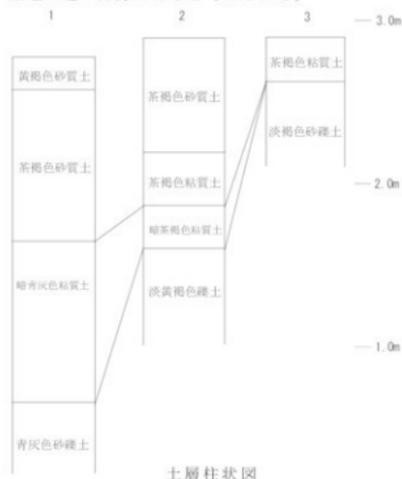


試掘坑1完掘状況



試掘坑2完掘状況

当該地は丘陵の斜面にあたること、遺構や遺物が確認できなかったことから、遺跡の範囲外と捉えられる。河岸遺跡の中心は調査地点より南側の低地に近い部分にあると考えられる。



23-3. 西脇遺跡隣接地

所在地	西区志都呂町西都土地区画整理 事業地内街区2符合5他
調査期間	平成23年4月21日
時代	_____
調査方法	2m×2m 試掘坑3箇所
検出遺構	なし
出土遺物	なし
特記事項	なし
調査担当	井口 智博



位置図 (2500分の1)

調査概要

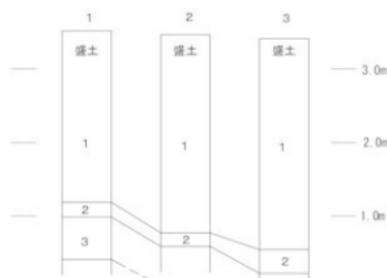
試掘坑の配置及び土層断面図は別添図に示した。対象地は西脇遺跡1次調査区(県道浜松環状線)の西約70mの地点に位置する。

対象地内の現状は宅地であり、碎石と山土による盛土が全面的に行われていた。盛土は厚く、2.5m～2.9mの厚さがあった。盛土の直下には、暗灰色粘土の堆積が存在し、盛土施工以前の水田層に相当すると考えられる。水田層の下には黒灰色の有機質粘土が堆積し、未分解の植物片が大量に含まれていた。黒灰色有機質粘土の下には、未分解の植物片を含んだ青灰色シルトが堆積していた。試掘坑が深いため掘削ができず、下層の状況は明らかにできなかったが、この層が基盤層に相当すると考えられる。また、試掘坑2と試掘坑3では、シルト層まで確認できなかったものの、上層の堆積状況から南に向かって基盤層の標高が下がっていると推定できる。いずれの試掘坑においても遺構や遺物は確認できなかった。

今回の試掘調査の結果、遺構や遺物は全く確認できず、対象地は遺跡の範囲外と判断できる。



試掘坑3完掘状況



- 1. 暗灰色粘土 (旧水田)
- 2. 黒灰色有機質粘土
- 3. 青灰色シルト (有機物多く含む)

土層柱状図

23-4. 八ツ面遺跡

所在地	東区豊町 2818
調査期間	平成23年 4月25日
時代	_____
調査方法	2m×1m 試掘坑 2箇所
検出遺構	なし
出土遺物	なし
特記事項	なし
調査担当	鈴木 一有



位置図 (2500分の1)

調査概要

試掘坑の配置及び土層断面図は別添図に示した。対象地は八ツ面遺跡1次調査区から東に約50mの地点である。

当該地における土層堆積状況は次の通りである。1層：褐色砂質土（表土）、2層：灰黄褐色砂質土（畑等の盛土）、3層：灰色粘土、4層：淡黄褐色粘土（遺構検出面相当、以下地山）、5層：黄褐色粘土、6層：茶褐色砂、7層：灰色粘土、8層：灰色砂、9層：灰色砂礫（基盤層）。試掘坑1・2の双方で確認できた4層が八ツ面遺跡の遺構検出面に相当すると捉えられるが、調査地においては明確な遺構は検出できなかった。また、試掘坑1・2の双方ともに安定した遺物包含層は認められず、調査地において遺物は全く出土していない。

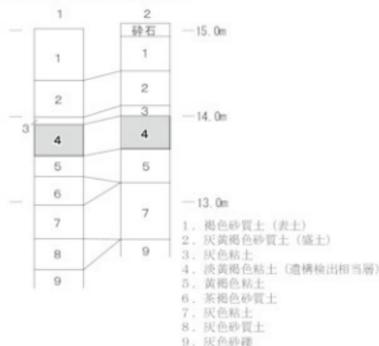
以上のことから、当該地は遺跡の範囲外にあたる判断できる。



試掘坑1完掘状況



試掘坑2完掘状況



土層柱状図

23-6. 梶子北遺跡

所在地	中区西伊場町 2242-20
調査期間	平成23年 4月27日
時代	_____
調査方法	2 m×2 m 試掘坑 3箇所
検出遺構	なし
出土遺物	なし
特記事項	なし
調査担当	鈴木 一有



位置図 (2500分の1)

調査概要

試掘坑の配置及び土層断面図は別添図に示した。

試掘坑1～3ともに、次に示すような土層堆積状況が認められた。1層：盛土、2層：暗灰色粘土、3層：灰色粘土、4層：黒色粘土、5層：灰色砂（基盤層）。当該地は、梶子北遺跡1次調査地の西側に隣接しており、その調査結果と照合すると、旧河道の南端にあたとみられる。灰色砂層（5層）は、旧河道の基盤である洪水砂層に相当する。基盤層直上に堆積する黒色粘土層（4層）は、梶子北遺跡1次調査における旧河道埋土5層（黒色有機質粘土層、伊場D'層相当、浜松市文化協会1997『梶子北遺跡遺構編（本文）』、第67図）に相当する。

黒色粘土層（4層）には人為的な攪拌などの痕跡は認められず、単純な自然堆積層と判断できる。各試掘坑ともに遺構、遺物は認められなかった。

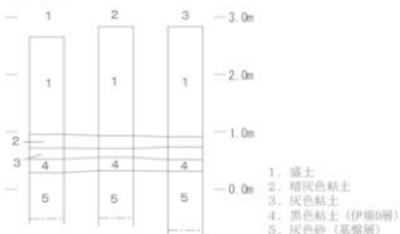
試掘調査の結果、当該地は大規模な旧河道の南端部に位置することが明らかになった。すべての試掘坑において安定的な包含層は認められず、遺物も出土していない。このことから、対象地は遺跡の範囲外にあたと捉えられる。



試掘坑1 完場状況



試掘坑2 完場状況

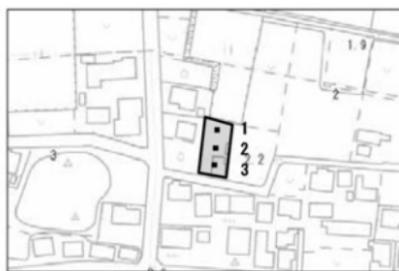


土層柱状図

1. 盛土
2. 暗灰色粘土
3. 灰色粘土
4. 黒色粘土（伊場D層）
5. 灰色砂（基盤層）

23-7. 井村遺跡

所在地	南区若林町 3689-3
調査期間	平成23年 5月 9日
時代	古墳
調査方法	2 m×2 m 試掘坑 3箇所
検出遺構	なし
出土遺物	土師器
特記事項	なし
調査担当	鈴木 一有



位置図 (2500分の1)

調査概要

試掘坑の配置及び土層断面図は別添図に示した。

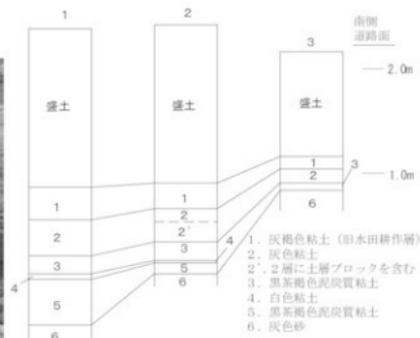
土層堆積状況 すべての試掘坑において、湿地性の堆積土が認められた。盛土下の土層堆積状態は以下のとおりである。1層：灰褐色粘土（旧水田耕作層）、2層：灰色粘土、3層：黒茶褐色泥炭質粘土、4層：白色粘土、5層：黒茶褐色泥炭質粘土、6層：灰色砂。地形的には、南側（試掘坑3）が高く、北側（試掘坑1）に向かって傾斜している様子が明瞭である。調査地の南側住宅地では砂丘が現地表上に露出していることから、調査対象地は、砂堤列縁道の北側斜面にあたるかと捉えられる。各試掘坑ともに明確な遺構は認められなかった。

遺物出土状況 試掘坑2および試掘坑3の2層（灰色粘土）中において、古墳時代の土師器（もしくは弥生土器）の小破片が出土した。遺物出土量は僅かであり、南側の遺跡中心地から流れ込んだものと判断できる。

まとめ すべての試掘坑において湿地性の堆積層が確認できたこと、明確な遺構が存在しないこと、出土遺物は僅かで遺跡中心地からの流れ込みが想定できることから、当該地は遺跡の範囲外と捉えられる。井村遺跡は調査対象地のすぐ南側に広がる砂堤列上に広がっていると捉えられる。



試掘坑1完掘状況



土層柱状図

23-10. 鳥居松遺跡

所在地	中区森田町 155
調査期間	平成23年6月6日～9日
時代	弥生、古代
調査方法	2 m×2 m 試掘坑15箇所
検出遺構	大溝、小穴
出土遺物	弥生土器、須恵器
特記事項	なし
調査担当	鈴木 一有



位置図

調査概要

土層堆積状況 試掘坑の配置および土層断面図は別添図に示す。各試掘坑では、1.0～1.5 mほどの盛り土の下に、青灰色・灰色・暗灰色等を呈する粘土層の互層、泥炭質粘土層（ピート層）、砂層（基盤砂層）の堆積状況が確認できた。遺跡等の埋没状況は、粘土層の土質や遺物の包含状況から、A～Dの4種に分けられる。その内容は以下の通りである。

- A) 大規模な自然流路内の地層堆積がみられる箇所（②、③、④、⑤）
- B) 比較的多くの弥生土器を含む粘土の堆積や遺構が認められる箇所（①、⑥、⑦、⑧、⑨）
- C) 弥生土器および奈良時代の土器を含む粘土の堆積や遺構が認められる箇所（⑫、⑬、⑮）
- D) 遺構や遺物が確認できないか出土遺物量が僅少である箇所（⑩、⑪）。

これらのエリアは、A) 伊場大溝（註1）、B) 弥生時代の集落（奈良時代の官衙を含む可能性あり）、C) 弥生時代の集落および奈良時代の官衙、D) 遺跡範囲外といった性格づけが可能である。遺物包含層上面（遺構確認上面を含む）の標高は約0.5～0.8 m（現地表面下約1.0～1.5 m）、弥生時代の最終確認面の標高は約-0.5～-0.1 m（現地表面下約2.2～2.5 m）である。

出土遺物 各試掘坑から、弥生時代後期、古墳時代後期、奈良時代の土器が出土した。試掘坑①、②、③では弥生土器が大量に出土している。このほか、弥生土器が出土した試掘坑としては、④～⑨、⑫、⑬、⑮があげられる。また、試掘坑②、④、⑤では古墳時代～奈良時代の土器が、試掘坑⑦、⑫、⑮では奈良時代の土器が出土している。

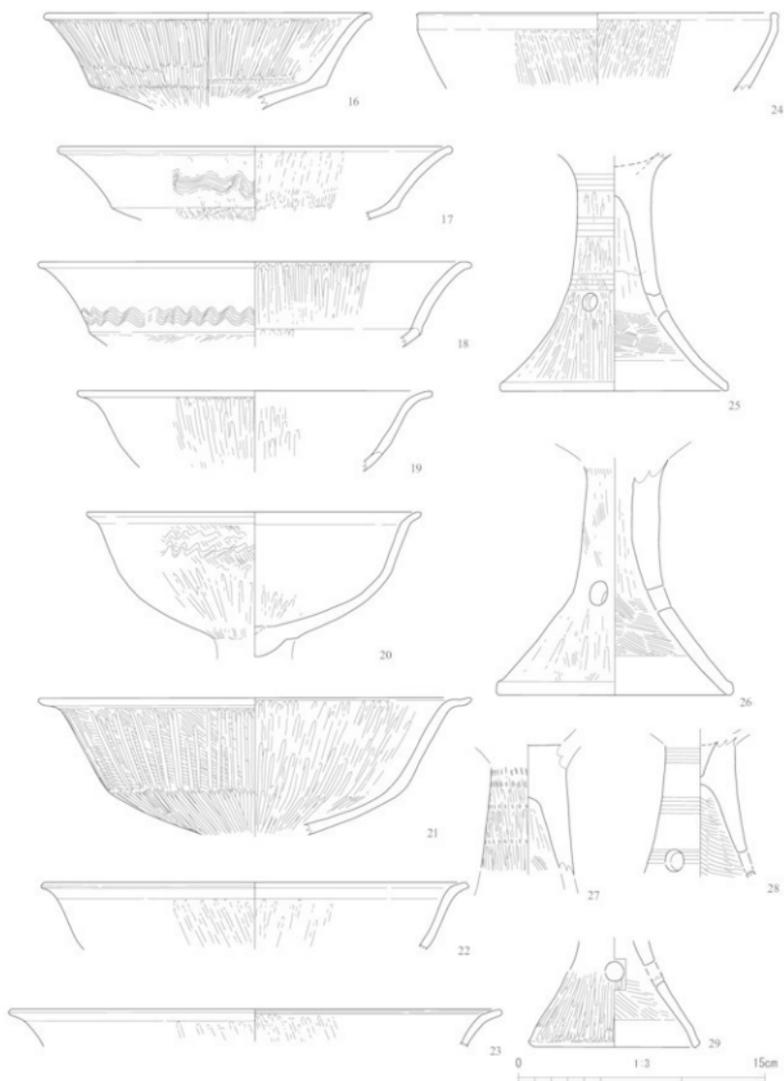
小 結 試掘調査の結果、南西部を除く対象地の大部分に遺跡が及んでいることが明確になった。対象地の北側を伊場大溝が東西に貫き、その外側には弥生時代後期の集落と奈良時代の官衙関連の遺構が埋没していると捉えられる。

註1 伊場大溝 古代数智郡家とみられる伊場遺跡群を東西に貫く自然流路。5世紀後半頃に形成され、13世紀頃には埋没する。幅約20 m、深さ約2.5 mの堆積度の中に大量の土器や木器をはじめ、奈良時代を中心とした木簡や墨書土器といった古代文字資料が豊富に出土する。古代文字関係の資料は静岡県指定文化財



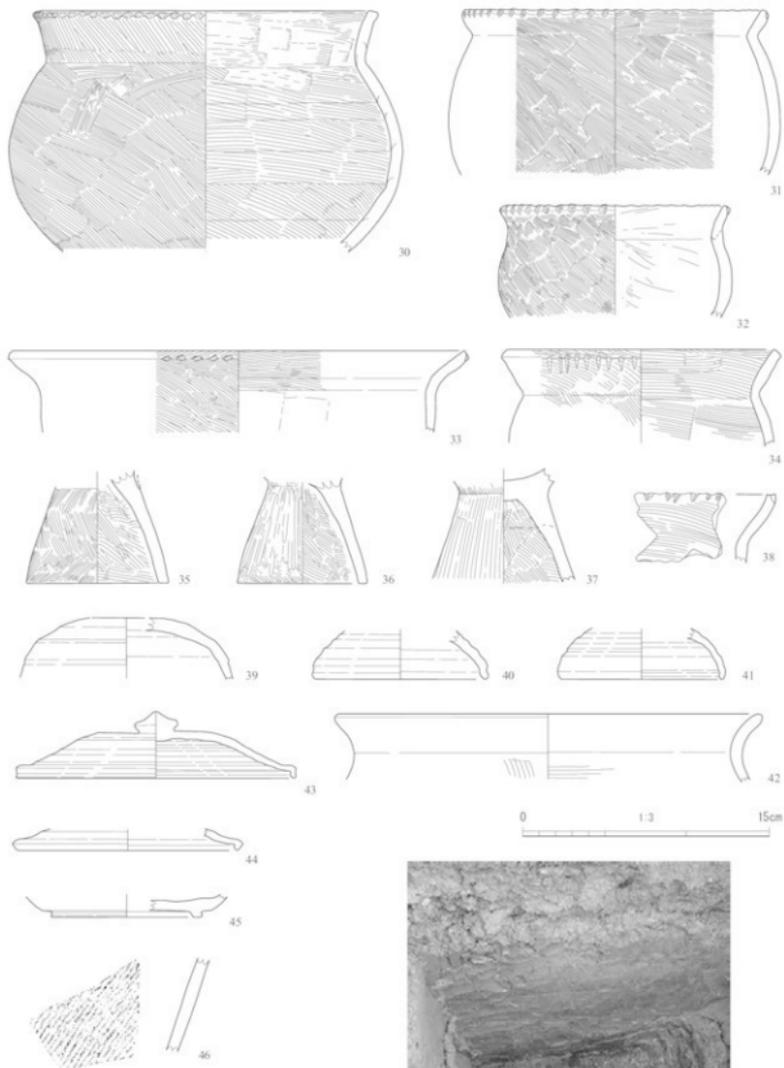
出土遺物

試掘坑2:10,13,14 試掘坑3:1~4,6~9,11,12,15 試掘坑7:5



出土遺物

試掘坑2:25~27 試掘坑3:16~23,28,29 試掘坑7:24



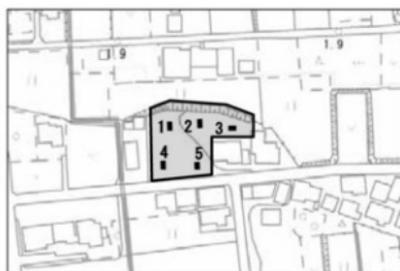
出土遺物

試掘坑2:39,40 試掘坑3:30~38,42 試掘坑4:43~45
 試掘坑5:41 試掘坑12:46

試掘坑2 完掘写真

23-11. 増楽町村北遺跡

所在地	南区増楽町 1587-1
調査期間	平成23年 6月13日
時代	弥生
調査方法	2.5 m×2m 試掘坑 5箇所
検出遺構	土坑、溝、小穴
出土遺物	弥生土器
特記事項	なし
調査担当	井口 智博



位置図 (2500分の1)

調査概要

試掘坑の配置及び土層断面図は別添図に示した。対象地は前回の試掘調査地点 (2009年12月3日) から西に150mの地点に位置する。

対象地は砂堤列の先端に位置し、敷地内はほぼ平坦であるが、北側の水田との境は崖状に地形が下がっている。土層堆積状況は敷地の東側と西側とで異なっており、東側では灰色砂の基盤層の標高が高かったのに対し、西側では基盤層の標高が70cmほど低く、上層には粘性の強い土が堆積していた。試掘坑内を精査した結果、試掘坑3を除き遺物包含層や遺構の存在を確認した。試掘坑3付近は後世の開墾等により、遺物包含層や遺構が削平され消失したと推定される。また、敷地北側の水田との境は表土の直下で基盤砂層が確認できたことから、水田造営時に砂丘の先端を削平した可能性が考えられる。

遺物は試掘坑3を除く全ての試掘坑から出土した。1の遺物は弥生時代後期の土器である。増楽町村北遺跡は、伊場遺跡や城山遺跡と同じ第2砂堤列上に位置すると考えられ、今回弥生時代後期の遺物が出土したことから、第2砂堤列の西側まで弥生時代の集落が及んでいた可能性が高まったと言える。

今回の試掘調査の結果、一部に包含層が消失している箇所があるものの、遺構が明瞭に認められることや、遺物が出土したことから対象地は遺跡の範囲内と考えられる。



試掘坑2 完掘状況



試掘坑5 完掘状況

23-12. 増楽遺跡

所在地	南区増楽町 1517
調査期間	平成23年 6月13日
時代	奈良～鎌倉
調査方法	2m×2m 試掘坑2箇所
検出遺構	土坑
出土遺物	須恵器、土師器、灰釉陶器 山茶碗
特記事項	なし
調査担当	首藤 久士



位置図 (2500分の1)

調査概要

試掘坑の配置及び土層断面図は別添図に示した。

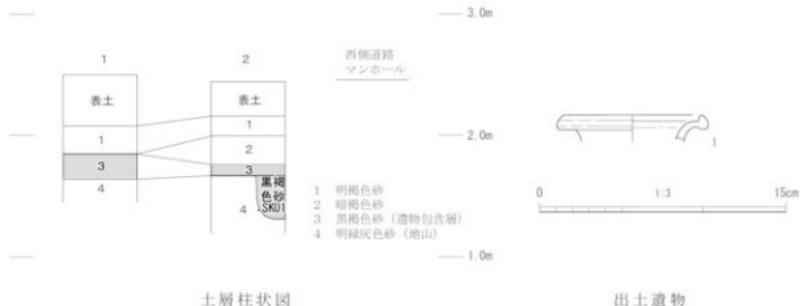
調査は試掘坑を2箇所設けて実施した。土層堆積状況は、表土、1層：明褐色砂質土、2層：暗褐色砂質土、3層：黒褐色砂質土（遺物包含層）4：明緑灰色砂質土（地山）である。両試掘坑において基盤層である4層（明緑灰色砂質土）の上に遺物包含層の3層（黒褐色砂質土）がみられ、試掘坑2においては地山へ掘り込まれた遺構を検出した。



試掘坑2完掘状況

遺物は両試掘坑から奈良時代の須恵器・土師器片・鎌倉時代の山茶碗が出土した。遺構は試掘坑2において土坑（SK-01）及び小穴（SP-01）を検出した。SK-01からは土師器及び1の灰釉陶器が出土した。

両試掘坑において良好な状態で遺物包含層を確認し、試掘坑2では明確に遺構が確認できたことから、当該地には奈良時代から鎌倉時代の遺構が埋没していると捉えられる。



23-13. 芝本遺跡

所在地	浜北区於呂 2968-1
調査期間	平成23年 6月15日
時代	弥生
調査方法	2m×2m 試掘坑3箇所
検出遺構	小穴
出土遺物	弥生土器
特記事項	なし
調査担当	首藤 久士



位置図 (2500分の1)

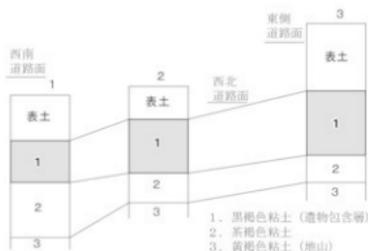
調査概要

試掘坑の配置及び土層断面図は別添図に示した。

調査は試掘坑を3箇所設けて実施した。土層堆積状況は、表土、1層：黒褐色粘土（遺物包含層）、2層：茶褐色粘土、3層：黄褐色粘土（地山）である。地形的には北東側（試掘坑3）が最も高く、南西側（試掘坑1）へ向かって傾斜している。試掘坑3においては、1層（黒褐色粘土）より弥生土器片が出土し、3層上面において小穴（SP-01）を検出した。試掘坑1、2では遺物が出土しなかったことから、1層（黒褐色粘土）は包含層に相当するものと捉えられる。



試掘坑3完掘状況



土層柱状図



試掘坑3平面図

23-16. 宮竹野際遺跡隣接地

所在地	東区和田町字中島 783
調査期間	平成23年7月6日
時代	_____
調査方法	2 m×2 m 試掘坑 5箇所
検出遺構	なし
出土遺物	なし
特記事項	なし
調査担当	首藤 久士



位置図 (2500分の1)

調査概要

試掘坑の配置及び土層断面図は別添図に示した。

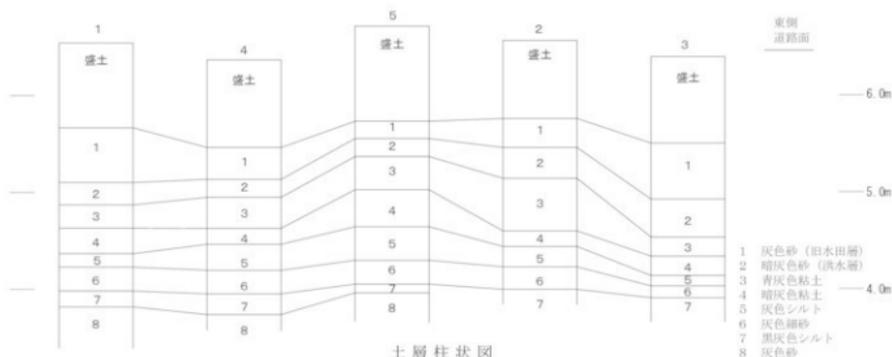
調査は試掘坑を5箇所設けて実施した。土層堆積状況は、表土、1層：灰色粘質土（旧水田層）、2層：暗灰色砂（洪水砂層）3層：青灰色粘質土、4層：暗灰色粘質土、5層：灰色シルト、6層：灰色細砂、7層：黒灰色シルト、8層：灰色砂である。地形的には、旧表面について対象地の中央部が微高地状に高く東西端が低くなる傾向にある。

全ての試掘坑において、明確な遺構や遺物は確認できなかった。調査の結果、当該地では粘土層と砂層が交互に堆積していることが判明した。とくに上層では暗灰色砂層（2層）の堆積の上に水田層（1層）がみられることから、ある時期（近世か）に洪水を受けたのち、水田を復旧した可能性が指摘できる。

全ての試掘坑において安定的な包含層が認められず、遺物も出土していない。このことから、当該地は遺跡の範囲外にあたと捉えられる。

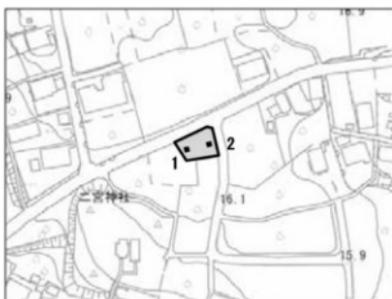


試掘坑4 完掘状況



23-18. 葎本遺跡

所在地	北区細江町気賀字葎本 8283-1
調査期間	平成23年7月21日
時代	奈良、平安
調査方法	2.5 m × 2.5 m 試掘坑2箇所
検出遺構	土坑、小穴
出土遺物	土師器、須恵器、製塩土器 灰軸陶器
特記事項	なし
調査担当	鈴木 一有



位置図 (2500分の1)

調査概要

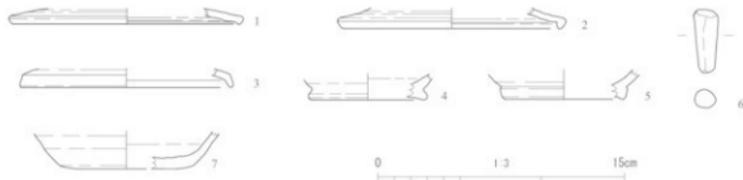
両試掘坑とも、表土（1層：茶褐色粘質土）の直下で地山（2層：黄褐色礫層）を確認した。表土層は、近現代の耕作土とみられるが、奈良時代の須恵器・土師器が比較的豊富に含まれる。地山直上では、小穴（SP01）、土坑（SK01）、不定形遺構（SX01）などの遺構を検出した。SP01およびSK01は遺構内埋土を精査し、奈良時代の須恵器・土師器が出土した。

以上、今回の試掘調査によって、調査地は奈良時代の遺跡の範囲内で、表土直下において比較的良好に遺構が保存されていることが判明した。

なお、調査対象地の周辺でも、本坂通（姫街道）を中心とした丘陵上において奈良時代の遺物が散布している（表採A～E地点）。葎本遺跡は浜名湖を臨む南向きの高所に営まれた比較的規模が大きい奈良時代の集落跡と想定できる。

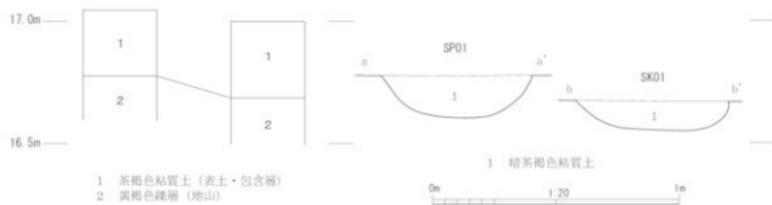
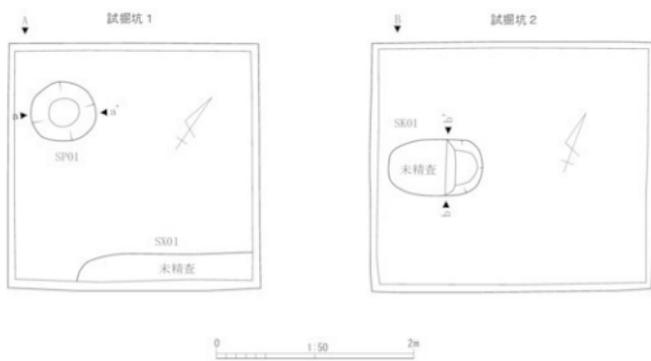


試掘坑1 遺構検出状況



出土遺物

表採1～5.7 試掘坑2.6



- 1 茶褐色粘質土 (表土・包含層)
2 黄褐色礫層 (地山)

調査区及び土層柱状図

23-19. 神戸遺跡

所在地	北区三ヶ日町岡本669-3他
調査期間	平成23年8月11日
時代	平安
調査方法	幅1.5mのトレンチ4箇所
検出遺構	包含層
出土遺物	土師器、灰釉陶器
特記事項	なし
調査担当	井口 智博



位置図 (2500分の1)

調査概要

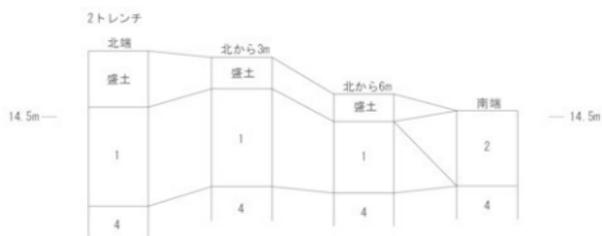
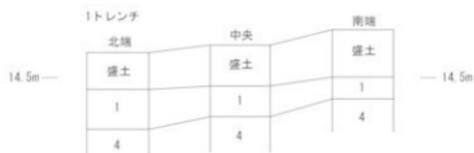
試掘坑の配置及び土層断面図は別添図に示した。対象地は釣橋川右岸の段丘上に位置し、古代瓦が大量に出土した楠木遺跡から西に約110mの地点である。対象地の地形は、北西から南東に向かって緩やかに傾斜している。現況地盤は、1トレンチと4トレンチの間で1.5mほどの比高差がある。トレンチ内の土層堆積状況は、各トレンチでやや異なっており、1トレンチと2トレンチの中途までは、暗褐色粘質土の旧表土層が残存していたのに対し、2トレンチ南端と3トレンチでは、住宅建設等の攪乱が著しく、旧表土層の堆積は認められなかった。また、4トレンチでは、耕作や住宅解体による攪乱が基盤層の直上まで及んでいた。基盤層は角礫を含む赤褐色粘質土層である。遺構は1トレンチ内で小穴を2箇所、2トレンチ内で細い溝状遺構を確認した。いずれの遺構も遺物の出土が無く、帰属時期を明らかにできない。表土中からは遺物が微量出土し、1トレンチから土師器の小破片が、2トレンチから1の灰釉陶器の碗が、4トレンチから灰釉陶器の甕片が出土した。今回の試掘調査の結果、1トレンチと2トレンチ周辺を除いて後世の開墾や住宅建設等により、表層が攪乱されていることが明らかになった。また、楠木遺跡の隣接地であることから、古代の遺構や遺物の発見が期待されたが、検出された遺構は埋土の状況などから古代に遡るものではなく、遺物の出土も少量であったことから、対象地は遺跡の範囲外に位置すると思われる。



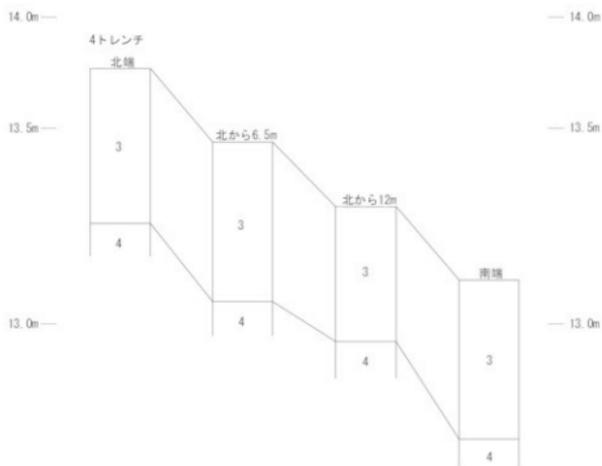
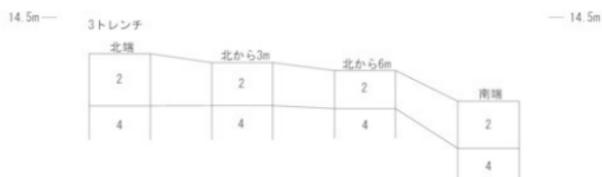
1 トレンチ完掘状況



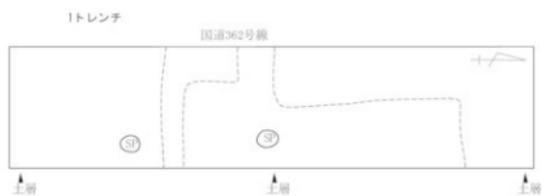
2 トレンチ完掘状況



- 1 暗褐色粘質土(遺物微量包含)
- 2 暗赤褐色砂質土
- 3 暗褐色砂質土(耕作と建物解体による攪乱顕著)
- 4 赤褐色砂質土(基盤層)



土層柱状図



トレンチ平面図



出土遺物



3 トレンチ完掘状況



4 トレンチ完掘状況

23-20. 宮前遺跡

所在地	東区豊町 2735
調査期間	平成23年 8月12日
時代	奈良、鎌倉、江戸
調査方法	2 m×2 m、3 m×2 m 試掘坑各1箇所
検出遺構	包含層、小穴、礎石建物
出土遺物	土師器、須恵器、山茶碗、山皿 かわらけ
特記事項	なし
調査担当	鈴木 一有



位置図 (2500分の1)

調査概要

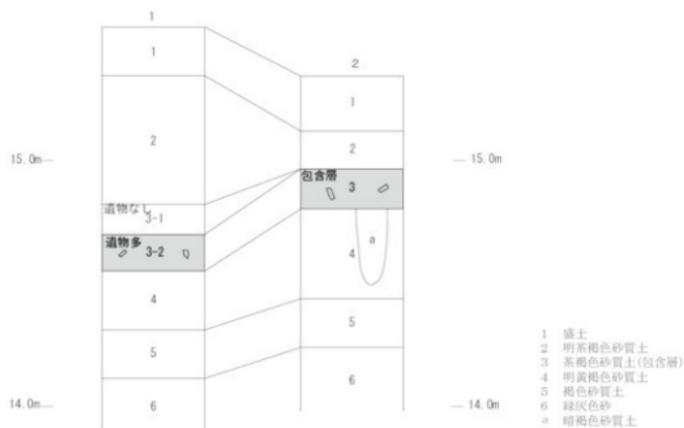
土層堆積状況 両試掘坑における基本層位は次の通りである。1層：盛土、2層：暗茶褐色砂質土（畑耕作土）、3層：茶褐色砂質土（8～13世紀の遺物包含層）、4層：明黄褐色砂質土（遺構検出面）、5層：褐色砂質土、6層：緑灰色砂層（基盤層）。試掘坑2においては、畑の耕作土である2層の直下において、良好な状態の遺物包含層が認められた。基盤層（6層）や遺構検出面（4層）は開発予定地の北側が高く、遺物も北側の試掘坑2において多数出土した。試掘坑2が遺跡の中核に近い地点であると判断できる。

検出遺構 遺構検出面の上位において近世（17～18世紀頃）の集石小穴（SP02、05）と、かわらけを埋納した小穴（SP01）を検出した。集石小穴は直径45cmほどの円形を呈する穴に拳大の円礫を詰めたもので、礎石建物に伴う礎石の根固め遺構と捉えられる。SP02とSP05はほぼ東西に並び、中心間の距離は1.8m（1間分）である。かわらけを埋納した小穴は、集石小穴と同一面で検出できた。4個体程度のかわらけが納められており、地鎮などの祭祀が行われた可能性が高い。

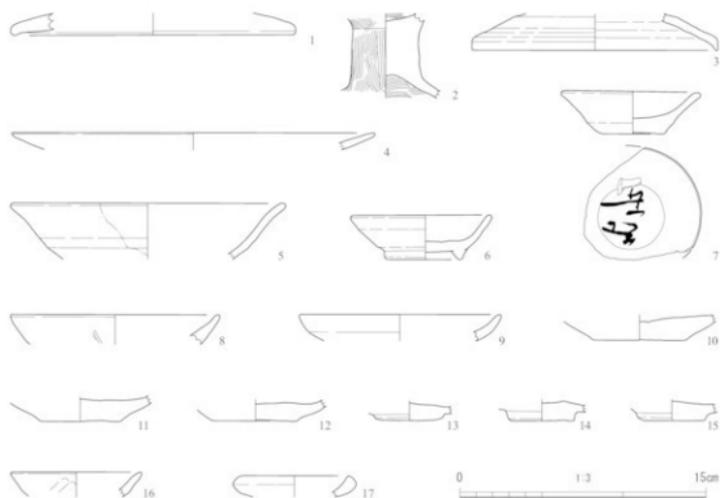
近世の遺構検出面から10cmほど下に掘り込むと、中世（12～13世紀）の遺構が明瞭に確認できた。調査範囲は上位遺構を保護するため限定的であったが、山茶碗や山皿を含む小穴を2基（SP03、04）確認した。SP03からは墨書を施した山皿が出土している。また、中世の遺構検出面において古代（奈良時代、8世紀）の須恵器も確認できた。古代の遺構も同一面上で検出できる可能性が高い。

出土遺物 試掘坑1、2の双方において、奈良時代（8世紀）の須恵器・土師器が出土し、試掘坑2においては、平安時代末～鎌倉時代（12～13世紀）の山茶碗・山皿、江戸時代（17～18世紀頃）のかわらけなど、遺存部分が大きい個体が出土した。

小結 今回の試掘調査によって、当該地には良好な状態で遺物包含層と遺構が埋設していることが判明した。明確に遺構が検出できたこと、また、出土遺物量も多いことから、宮前遺跡の中心地にあたると思われる。



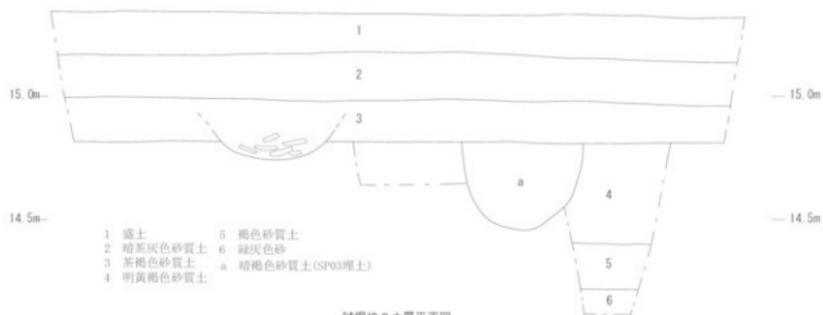
土層柱状図



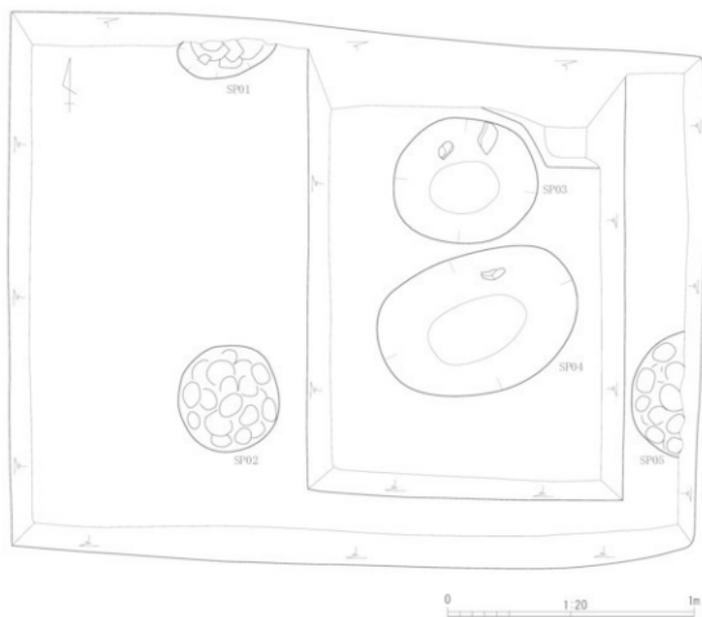
出土遺物

試掘坑1:1.2 試掘坑2:3~17

試掘坑 2 土層剖面圖



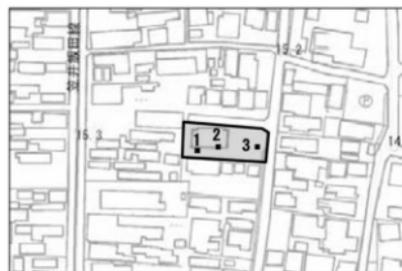
試掘坑 2 土層平面圖



試掘坑 2 土層剖面圖及平面圖

23-21. 笠井遺跡

所在地	東区笠井 52-3
調査期間	平成23年 8月17日
時代	古墳、奈良
調査方法	2 m×2 m 試掘坑 3箇所
検出遺構	小穴
出土遺物	土師器、須恵器
特記事項	なし
調査担当	井口 智博



位置図 (2500分の1)

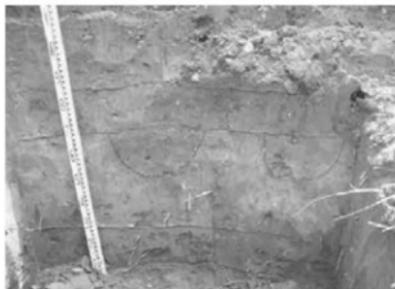
調査概要

試掘坑の配置及び土層断面図は別添図に示した。対象地は笠井街道東側の住宅地内に位置する。

各試掘坑における土層は、基盤層は黄褐色砂礫土で共通していたが、表土と基盤層の間は堆積の状況が異なっていた。試掘坑1では、暗褐色砂質土の表土の下に灰黄褐色砂質土と暗黄褐色砂質土が堆積しており、暗黄褐色砂質土中は遺物を微量包含していた。暗黄褐色砂質土以下は、灰黄褐色砂と比較的厚い明黄褐色土砂が堆積し、基盤層へ続いていた。試掘坑2では、暗褐色砂質土の遺物包含層が確認できた。また、包含層の下にはしまりの強い明黄褐色シルトの堆積があり、この層に掘り込まれた遺構の存在が確認できた。試掘坑3では、遺物包含層の存在は確認できず、しまりの強い明黄褐色土も試掘坑2と比較して明瞭ではなかった。

遺物は試掘坑1から古墳時代後期から奈良時代の土師器と須恵器の破片が、試掘坑2からも同じ時期の土師器と須恵器が出土した。

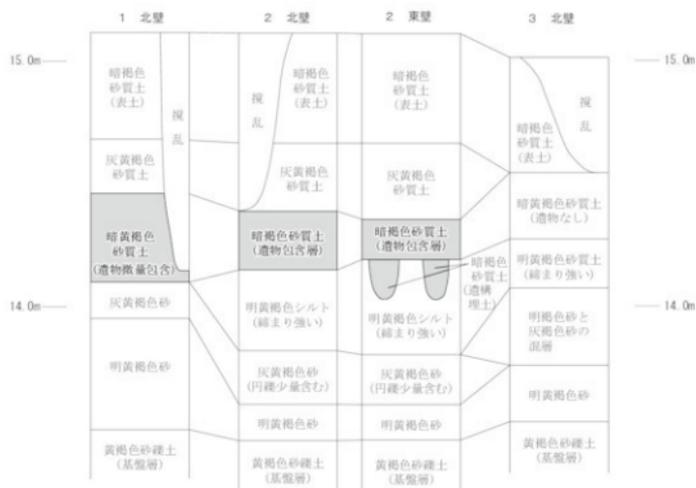
今回の試掘調査の結果、対象地内に遺跡が存在することが明らかになった。特に試掘坑2においては、安定した包含層や明確な遺構が確認され、遺跡の中心地に近いことが想定できる。



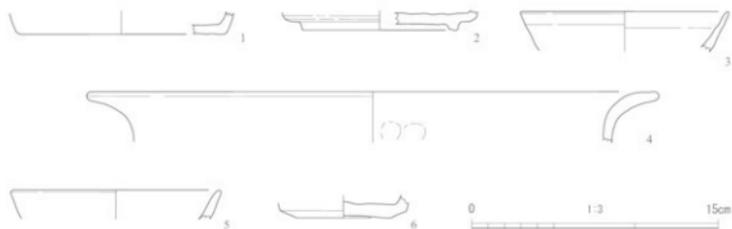
試掘坑2 東壁遺構検出状況



試掘坑3 完掘状況



土層柱状図



出土遺物

試掘坑1:1 試掘坑2,3,5,6 表採:4



試掘坑1 完掘状況



重機掘削

23-22. 村東遺跡

所在地	南区東若林町 1276
調査期間	平成23年 8月23日
時代	不明
調査方法	1 m×2 m 試掘坑 2箇所
検出遺構	なし
出土遺物	土師器片、鉄器片
特記事項	なし
調査担当	鈴木 一有



位置図 (2500分の1)

調査概要

土層堆積状況 試掘坑1では、1層：褐色砂質土、2層：暗褐色砂、3層：茶褐色砂（遺物包含層相当、ただし遺物は僅少）、4層：緑灰色砂（基盤砂層）の各層の堆積が確認できた。試掘坑2では、盛り土が90cm以上にわたり施されており、基盤砂層上の自然堆積層は既に破壊されていた。

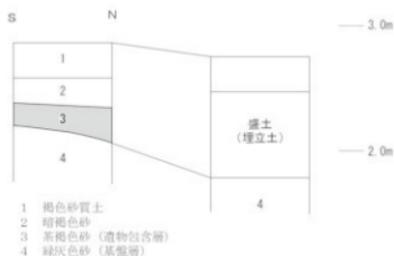
検出遺構 今回の調査では遺構の存在が確認できなかった。

出土遺物 2層もしくは3層中において僅かに遺物（土師器片、時期不明）が確認できた。出土遺物はいずれも小破片であり、近隣地から流れ込んだものと想定できる。

小結 今回の調査では、明確な遺構は確認できなかった。また、僅かに出土遺物が確認できたものの、いずれも細片化が進んでいることから、周囲からの流れ込みと捉えられる。遺物包含層に相当する3層に含まれる土器量は極めて少なく、安定的な包含層とはみなしがた。以上のことから、当該地は遺跡の範囲内であるものの、遺構・遺物が希薄な地点と判断できる。



試掘坑1完掘状況



土層柱状図

23-23. 大平遺跡

所在地	西区入野町 20026-16、17、18
調査期間	平成23年8月26日
時代	弥生時代末期
調査方法	1m×10m 試掘溝3箇所
検出遺構	周堀
出土遺物	弥生土器
特記事項	なし
調査担当	鈴木 一有



位置図 (2500分の1)

調査概要

土層堆積状況 当該地は、東側の敷地境を除き大きく掘削され、その上に厚い部分で1m以上にわたる造成がなされていた。このため、敷地の大部分の旧地形は既に失われており、東側の敷地境界に沿った幅1mほどの部分においてのみ残存遺構の調査を実施した。

旧地形が残存している部分については、1層：表土（碎石、褐色粘土層を含む）、2層：黒褐色（暗褐色）粘土層（遺物包含層）、3層：黄褐色粘土層（地山）の堆積がみられた。

検出遺構 敷地の東端で南北方向に設定した3トレンチにおいて、幅70～100cm、検出面からの20cmほどの深さをもつ溝（SD01）を検出した。SD01は北東方向から南西方向にかけて掘削され、ほぼ直角に屈曲して南東方向にめぐることが判明した。この遺構は、形状、出土遺物から求められる帰属時期から、大平遺跡1次調査（大平遺跡Ⅱ地区、1989年調査、浜松市文化協会1992『佐鳴湖西岸遺跡群 本文編Ⅰ』）居館跡1の周堀SD36（p21）と同一と捉えられる。なお、大平遺跡1次調査では周堀の内側に柵列が検出されているが、今回の調査した地点は周堀の内側が既に破壊されており、柵列の有無は確認できなかった。

出土遺物 周堀が屈曲する隅部において、弥生時代終末期（庄内式期）の土器（元屋敷1式）が比較的多く出土した。ただし、出土した遺物はいずれも脆弱で細片化しており、編年の位置づけを明確にすることは難しい。

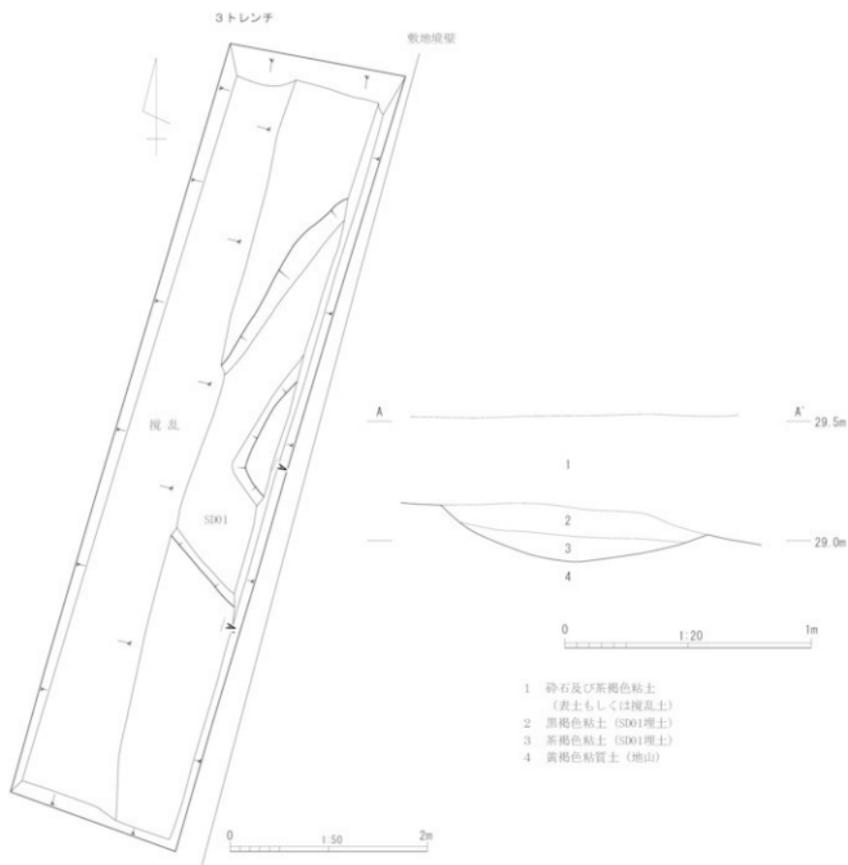
小 結 今回の試掘調査によって、当該地の大部分は既に削平されており、遺構面の多くが消滅していると判明した。ただし、僅かに旧地形が残存していた敷地東側において、首長居館にかかわる溝

（SD01）が確認できたことは幸いであった。SD01は大平遺跡1次調査の結果と明確に対応しており、居館跡1の周堀とみられる。今回の調査で、居館周堀の東側の隅を確認したことから、大平遺跡居館跡1の周堀の平面形は長方形で、40m×32mの規



試掘坑3 完掘状況

模（周堀最深部で計測）であることが判明した。埴属時期は、弥生時代終末期（庄内式期、元屋敷1式期）とみられるが、出土遺物が僅かで遺存状態も悪いことから、詳細な時期をうかがうことは困難である。



3 トレンチ平面図及び土層図



出土遺物
2トレンチ:1

23-24. 三永遺跡

所在地	中区西伊場町 2708-1
調査期間	平成23年9月6日
時代	_____
調査方法	1.5 m × 1.5 m 試掘坑 2 箇所
検出遺構	なし
出土遺物	なし
特記事項	なし
調査担当	井口 智博



位置図 (2500 分の 1)

調査概要

試掘坑の配置及び土層断面図は別添図に示した。対象地は三永遺跡 1 次調査区 (調査当時の呼称は梶子北遺跡三永地区) 北側の住宅地内に位置する。

各試掘坑における土層はおおむね共通しており、暗灰褐色シルトの表土の下は、明褐色系のシルトが堆積していた。基盤層は黄褐色の砂礫土である。層位間に一部乱れがある場所があるものの、人為的な掘り込みは認められず、自然堆積によるものと考えられる。

いずれの試掘坑からも遺物は一切確認できなかった。近隣住民からの聞き取りによると、調査地点一帯は現状よりもさらに標高が高く、雄踏街道以南の低地を埋め立てる際に大規模な採土を行い現在のような地形になったとのことであった。このことから、対象地一帯は大規模な地形の改変を受け、旧地形は失われていると考えられる。

今回の試掘調査の結果、対象地内において遺構や遺物は全く検出できなかった。過去の発掘調査結果から三永遺跡は、第 1 砂堤列状に展開する遺跡であることが判明しているが、今回の調査地点は明らかに基盤層が異なり、地形的にみても遺跡の範囲外と判断できる。



試掘坑 1 完掘状況



土層柱状図

23-25. 浜田西遺跡隣接地

所在地	西区舞阪町浜田 141
調査期間	平成23年9月14日
時代	—————
調査方法	2 m×2 m 試掘坑 1箇所 1 m×0.5 m 試掘坑 1箇所
検出遺構	なし
出土遺物	なし
特記事項	なし
調査担当	首藤 久士



位置図 (2500分の1)

調査概要

試掘坑の配置及び土層断面図は別添図に示した。

調査は試掘坑を2箇所設けて実施した。土層堆積状況は、1層：盛土、2層：黒灰色砂質土（旧表土）、3層：明茶褐色砂質土、4層：青灰色砂質土（地山）である。

両試掘坑において、明確な遺構や遺物は確認できず、各砂層の水平堆積が見られた。また、地山である4層（青灰色砂質土）は南へ約20 cm傾斜していた。

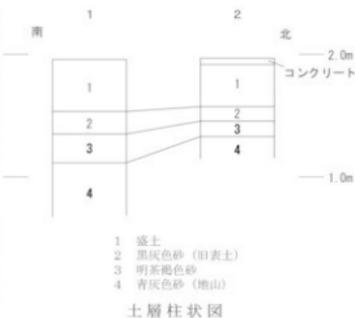
今回の調査では遺構、遺物が全く確認できず、砂層の自然堆積が見られた。このことから、当該地は遺跡の範囲外にあると捉えられる。



試掘坑1 完掘状況



試掘坑2 完掘状況



23-26. 浜田西遺跡

所在地	西区舞阪町浜田 178
調査期間	平成23年9月14日
時代	_____
調査方法	2 m×2 m 試掘坑 2 箇所
検出遺構	なし
出土遺物	なし
特記事項	なし
調査担当	首藤 久士



位置図 (2500 分の 1)

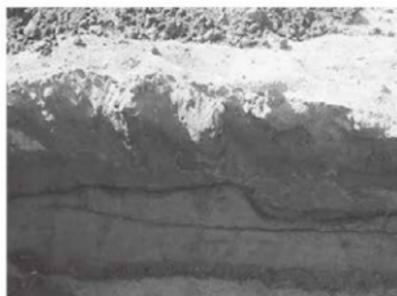
調査概要

試掘坑の配置及び土層断面図は別添図に示した。

調査は試掘坑を 2 箇所設けて実施した。土層堆積状況は、1 層：表土、2 層：黄灰色砂質土、3 層：青灰色砂質土（地山）である。

両試掘坑において明確な遺構や遺物は確認できず、砂層の水平堆積が見られた。また、対象地内において少量の土器片が採取でき、北側で比較的多く散布していた。

調査の結果、全ての試掘坑において遺構が検出されず、砂層の自然堆積が見られた。よって、当該地は遺跡の範囲外にあたと捉えられる。なお、土器の散布状況から当該地の北方に遺跡が存在するとみられる。

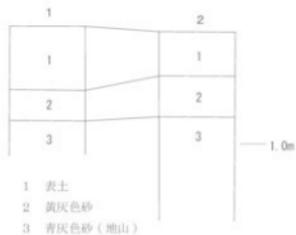


試掘坑 1 完掘状況

— 2.0m



試掘坑 2 完掘状況



土層柱状図

23-27. 坪井町新田北遺跡

所在地	西区坪井町 272、279-1
調査期間	平成23年9月22日
時代	鎌倉、近世
調査方法	1.5 m×2m 試掘坑4箇所
検出遺構	なし
出土遺物	山茶碗、播鉢
特記事項	なし
調査担当	首藤 久士

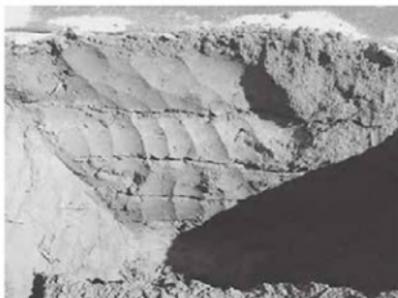


位置図 (2500分の1)

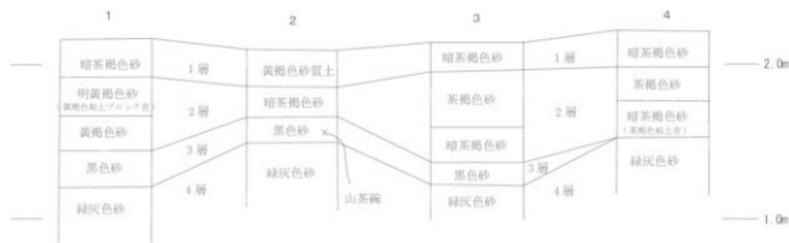
調査概要

各試掘坑で確認した層位は次の通りである。1層：暗茶褐色～黄褐色砂（表土）、2層：茶褐色系砂（旧表土もしくは盛土）、3層：黒色砂（包含層相当、遺物は極少、不安定）、4層：緑灰色砂（基盤層）。遺構はすべての試掘坑において確認できなかった。出土遺物は僅かで、試掘坑2の3層から12世紀頃の山茶碗片が、試掘坑4の2層から播鉢片（近世か）が出土した程度である。いずれも小破片で周辺地から流入したものと捉えられる。

3層とした黒色砂層が遺物包含層に相当するとみられるが、遺物量は極めて少ないため、安定した包含層とはみなしがたい。遺構も確認できないことから、当該地は遺跡の範囲外にあると判断できる。



試掘坑1土層



土層柱状図

23-28. 飯田遺跡群隣接地

所在地	南区飯田町680-2
調査期間	平成23年10月11日
時代	弥生、古墳、奈良
調査方法	1.5 m×2m 試掘坑2箇所
検出遺構	土坑または溝、小穴
出土遺物	弥生土器、土師器、須恵器
特記事項	なし
調査担当	鈴木 一有



位置図 (2500分の1)

調査概要

土層堆積状況 試掘坑1・2とも、類似した層位の堆積が認められた。詳細は次の通りである。1層：盛土、2層：暗灰色粘土（旧水田耕作土）、3層：灰色シルト、4層：灰色／茶褐色粘土（奈良時代遺物包含層）、5層：黒灰色／暗茶褐色粘土（弥生時代後期～古墳時代前期遺物包含層）、6層：青灰色砂（基盤砂層）。6層の上面において、弥生時代後期～古墳時代前期の遺構が良好に残存している。奈良時代の遺構も5層中に掘り込まれていると想定できるが、試掘坑内においては確認できなかった。

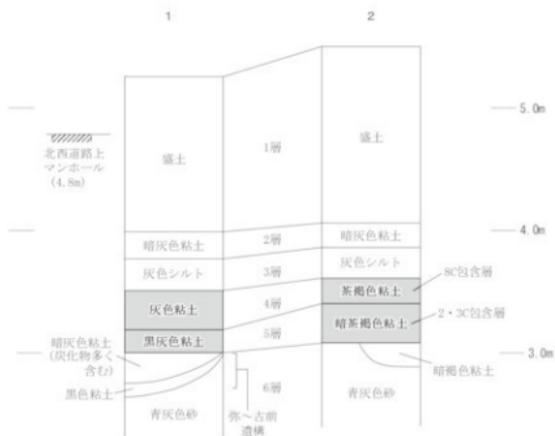
検出遺構 試掘坑1において6層（基盤層）を掘り込む大規模な遺構（大型の土坑もしくは溝）を確認した。遺構埋土には炭化物が多く含まれている。試掘坑2においても6層上面で小穴を検出した。小穴の密度は比較的高い。

出土遺物 試掘坑1・2ともに比較的多量に出土した。上層の包含層である4層からは奈良時代の土師器・須恵器が出土した。とくに試掘坑2においては遺存部分の大きい破片が多くみられる。下層の包含層である5層からは弥生時代後期～古墳時代前期の弥生土器・土師器が多く出土した。双方の試掘坑で検出できた遺構内からも土器の小破片が確認できる。

小 結 今回の試掘調査の結果、当該地には、奈良時代と弥生時代後期～古墳時代の遺跡が良好な状態で埋没していることが判明した。出土遺物が多く、遺構も高密度で検出できたことから、調査地は遺跡の中心地にあたると思われる。従来考えられていた飯田遺跡群（山寺野遺跡・寺西遺跡）は大きく東側にも広がっていると捉えられる。



試掘坑1土層



土層柱状図

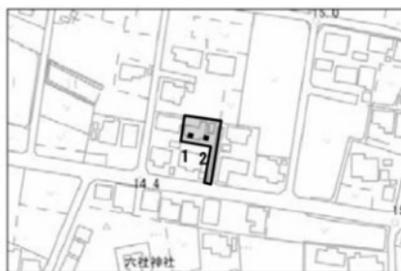


出土遺物

試掘坑1,12 試掘坑2,3~10

23-30. 橋爪遺跡

所在地	東区中郡町 425、426-1
調査期間	平成23年11月7日
時代	奈良
調査方法	2 m×2 m 試掘坑 2 箇所
検出遺構	なし
出土遺物	土師器、須恵器
特記事項	なし
調査担当	鈴木 一有



位置図 (2500 分の 1)

調査概要

土層堆積状況 試掘坑 1・2 とも同様の土層堆積状況を確認した。詳細は以下の通りである。1 層：暗褐色砂質土、2 層：茶褐色砂質土、3 層：灰褐色砂質土／暗茶褐色粘土、4 層：暗灰褐色粘土／暗茶褐色粘土（奈良時代（8 世紀）遺物包含層）、5 層：黄褐色粘土（遺構検出面）、6 層：灰色砂（基盤層）、7 層：灰色細砂（基盤層）。試掘坑 1 では、試掘坑 2 と比べて基盤層の検出標高が低く、遺物包含層（4 層）直下に基盤砂層（6 層）の堆積がみられる。試掘坑 1 は、遺跡の中の低位面にあたりと捉えてよいだろう。いっぽう、試掘坑 2 は基盤層の標高が高く、遺構検出面である 5 層の堆積もみられる。

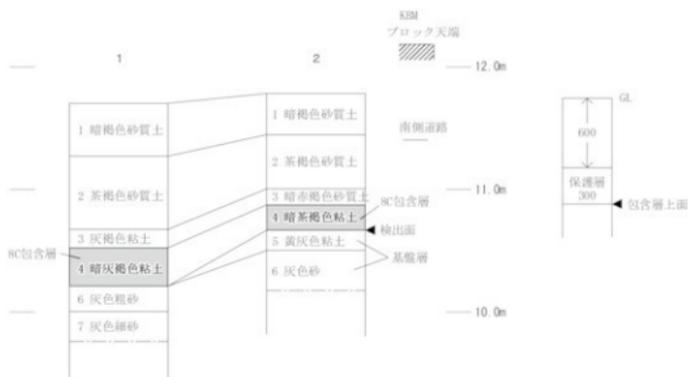
検出遺構 試掘坑 1・2 ともに、明確な遺構は確認できなかった。上述のとおり、試掘坑 1 は遺跡の中の低位面にあたりとみられ、河川や窪みなどの大規模な遺構の中にあたる可能性もある。この場合、試掘坑 1 において基盤層と認識した 6 層、7 層は低位面を覆う埋土と捉える余地が残る。いっぽう、試掘坑 2 では、遺構検出面である 5 層の堆積が明確であり、近隣に遺構が分布している可能性が高い。

出土遺物 試掘坑 1・2 ともに、遺物包含層である 4 層（暗灰褐色粘土／暗茶褐色粘土）から奈良時代（8 世紀）の土師器・須恵器が多く出土した。低位面とみられる試掘坑 1 においても出土量が多いことから、調査箇所は遺跡の中心地であることがうかがえる。

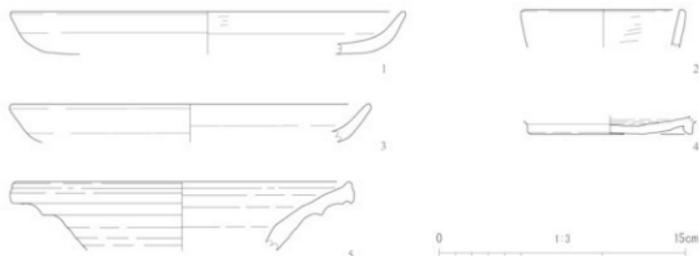
小 結 今回調査した試掘坑二箇所において、奈良時代（8 世紀）の土器を多く含む安定した遺物包含層（4 層）が認められた。また、明確な遺構は確認できなかったものの、試掘坑 1 では大規模な遺構に相当する可能性が指摘でき、試掘坑 2 においては近隣地に遺構が分布していると捉えられた。以上のことから、当該地は橋爪遺跡の範囲内で、遺物量が多い中心地にあたりと判断できる。



試掘坑 1 土層



土層柱状図



出土遺物

試掘坑1:2.4 試掘坑2:1.3.5



試掘坑 2 土層



重機掘削状況

23-31. 阿弥陀遺跡

所在地	中区曳馬6丁目410-1
調査期間	平成23年11月15日
時代	_____
調査方法	2m×2m 試掘坑6箇所
検出遺構	なし
出土遺物	なし
特記事項	なし
調査担当	鈴木 一有



位置図 (2500分の1)

調査概要

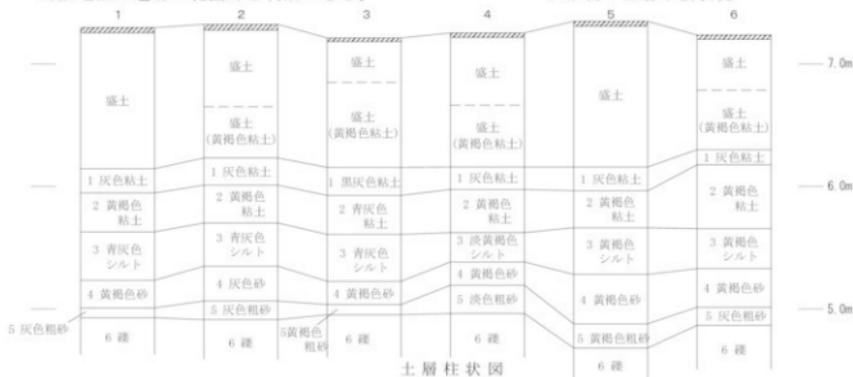
土層堆積状況 すべての試掘坑において、盛土（山土および黄褐色粘土）の下で同様の土層堆積が確認できた。詳細は以下の通りである（土色は試掘坑1で代表させる）。1層：灰色粘土層（旧水田耕作土）、2層：黄褐色粘土、3層：青灰色シルト、4層：黄褐色砂、5層：灰色粗砂、6層：礫層（基盤層）。なお、試掘坑3は湿地環境にあり、還元色を呈している。それ以外の試掘坑では酸化色を呈する部分が多い。1層以下は、すべて自然堆積と考えられる。

検出遺構・出土遺物 すべての試掘坑において、遺構は検出できず、遺物も全く出土しなかった。

小 結 今回の試掘調査では、明確な遺構、遺物が確認できなかった。阿弥陀遺跡の1952年、2000年、2001年調査地区が隣接するが、当該地区は遺跡の範囲外と判断できる。



試掘坑1土層堆積状況



23-32. 前川遺跡

所在地	西区坪井町 4119-1、4119-2 他
調査期間	平成23年11月17日
時代	_____
調査方法	2 m×2 m 試掘坑 2箇所
検出遺構	なし
出土遺物	なし
特記事項	なし
調査担当	鈴木 一有



位置図 (2500分の1)

調査概要

土層堆積状況 双方の試掘坑とも、盛土下に同様の土層堆積が認められた。その詳細は以下の通りである。1層：暗茶褐色砂（旧表土、畑耕作土）、2層：茶褐色砂、3層：緑灰色砂（基盤層）。

検出遺構・出土遺物 試掘坑1・2ともに遺構、遺物は確認できなかった。

小 結 調査地は人為的な営為が認められない自然堆積層が広がっているだけで、明確な遺構・遺物は確認できなかった。

今回の調査に合わせて周辺の遺物散布状況を確認した。調査対象地の西側や南西側では遺物の散布はほとんど認められない。いっぽう、調査対象地の南側および東側では一定量の土器片（山茶碗・土師器）が散布している状況が確認できた。今回の試掘調査成果と周辺地の遺物散布状況をふまえると、調査地は遺跡の範囲外にあたと捉えられ、遺跡の中心地は調査地の南側もしくは東側にあると想定できる。



試掘坑1土層堆積状況

1	2	南東端 水路天端
盛土	盛土	— 2.0m
1 暗茶褐色砂	1 暗茶褐色砂	
2 茶褐色砂	2 茶褐色砂	
3 緑灰色砂	3 緑灰色砂	— 1.0m

土層柱状図



試掘坑2土層堆積状況

23-33. 下石田町村前遺跡

所在地	東区下石田町 1442-1、1442-1
調査期間	平成23年11月21日
時代	_____
調査方法	2 m×2 m 試掘坑 3箇所
検出遺構	なし
出土遺物	なし
特記事項	なし
調査担当	鈴木 一有



位置図 (2500分の1)

調査概要

土層堆積状況 すべての試掘坑において、同様の土層堆積状況を確認した。その詳細は以下の通りである（土色名は、試掘坑1で代表させた）。1層：茶褐色砂質土、2層：茶褐色シルト、3層：茶褐色細砂、4層：茶褐色粘土、5層：茶褐色砂混じり粘土、6層：茶褐色粗砂／礫層（基盤層、礫層は試掘坑3においてのみ確認）。基盤層の標高は試掘坑3で僅かに高く、北側から南側に向かって下る緩やかな斜面地にあたと捉えられる。

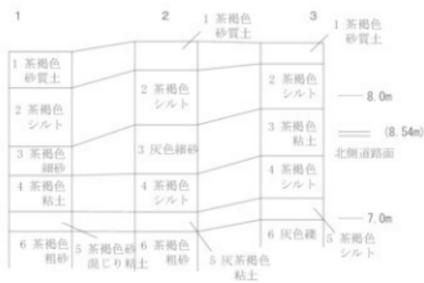
検出遺構 試掘坑1～3すべてにおいて、遺構は確認できなかった。

出土遺物 試掘坑1・2においては、遺物は全く出土しなかった。試掘坑3では、4層（茶褐色シルト層）において、ごく僅かな遺物が出土した。出土遺物は細片化しているため、必ずしも明瞭でないが、16世紀頃の天目茶碗および土師質土器の内耳鍋とみられる。

小 結 試掘坑1・2では、遺構・遺物は全く確認できなかった。いっぽう、試掘坑3では16世紀頃の遺物がごく僅かに出土した。出土遺物はすべて細片化しており、隣接地から流れ込んだものと推定できる。以上のことから、当該地は遺跡の範囲外と捉えられ、遺跡の中心地は調査地の北側に展開していると想定できる。



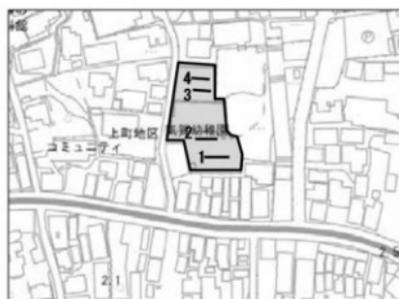
試掘坑2土層堆積状況



土層柱状図

23-34. 片町遺跡（上町古墳群）

所在地	北区細江町気賀997-1
調査期間	平成23年11月26日
時代	飛鳥
調査方法	幅1mの試掘溝4箇所 総延長48m
検出遺構	なし
出土遺物	須恵器
特記事項	なし
調査担当	鈴木 一有



位置図 (2500分の1)

調査概要

土層堆積状況 南側の1・2トレンチと、北側の3・4トレンチで土層の堆積状況が若干異なる。1・2トレンチでは、1.8m～1.3mほどの盛土の下に旧表土層である茶褐色粘土層、地山である黄褐色粘土層、もしくは黄褐色砂層を確認した。3・4トレンチでは、0.4m～0.5mほどの盛土の下に近現代の表土層（攪乱層を含む）である暗茶褐色礫混じり粘土層、旧表土である茶褐色粘土層、地山である黄褐色粘土層を確認した。

遺構 すべてのトレンチにおいて遺構は確認できなかった。トレンチ3・4では、近現代の建物もしくは建物解体などに伴う攪乱が顕著であった。

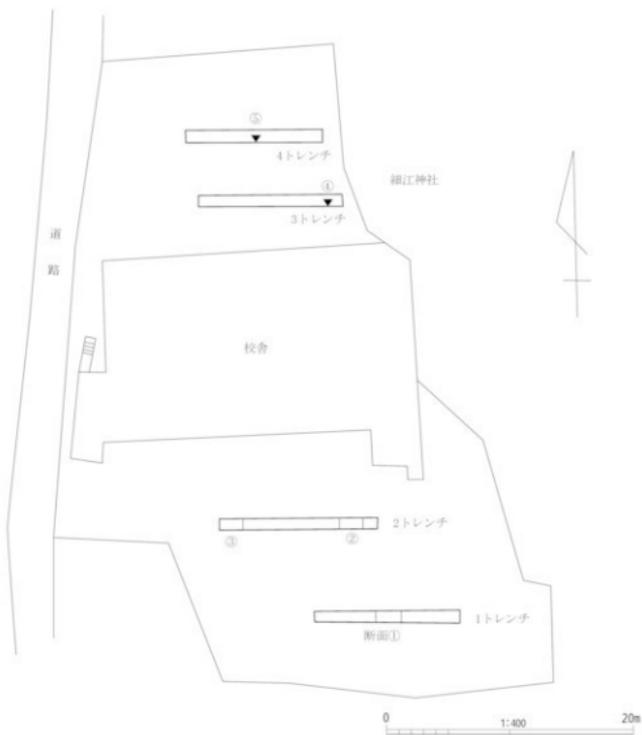
遺物 トレンチ3の旧表土（茶褐色粘土層）から7世紀の須恵器高杯の脚部が出土した。トレンチ内では明確な遺構が確認できなかったことから、周辺地域から流れ込んだものと捉えられる。調査区の北東側には上町古墳群が展開しているので、今回出土した須恵器は古墳に伴っていた可能性がある。この個体以外に中世以前の遺物は出土しなかった。

小結 1・2トレンチは盛土が厚いことに加え、旧表土の形成が不鮮明であった。砂やクサレ礫を含むしまりの悪い砂礫層を地山としていることから、安定的な地盤とみなしがたい。遺構・遺物も全く見られないことから、遺跡の範囲外と判断できる。

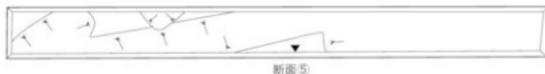
3・4トレンチはわずかに旧表土が認められ、若干の遺物（7世紀須恵器）が出土した。しかし、近現代の攪乱が顕著で、対象地の全面にわたり地山面は大きく破壊されているとみられる。トレンチ調査では安定した包含層や遺構は確認できなかったことから、当該地は遺跡の範囲外と捉えられる。出土品は北東側に展開している上町古墳群から流れ込んだものとみてよいだろう。



3トレンチ完掘状況



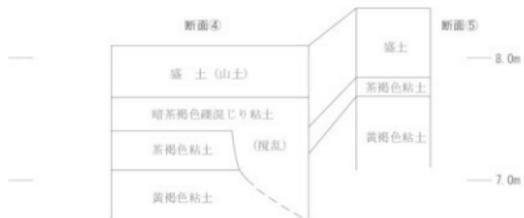
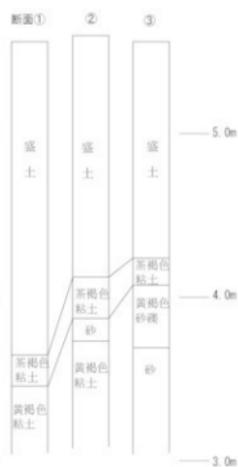
4トレンチ



3トレンチ



1トレンチ 2トレンチ



調査区及び土層柱状図

23-35. 歌謡遺跡

所在地	中区浜松市中区鯉塚2丁目 1970-1
調査期間	平成23年11月28日
時代	—————
調査方法	2 m×2 m 試掘坑2箇所
検出遺構	なし
出土遺物	なし
特記事項	なし
調査担当	首藤 久士



位置図 (2500分の1)

調査概要

試掘坑の配置及び土層断面図は別添図に示した。

調査は試掘坑を2箇所設けて実施した。土層堆積状況は、1層：盛土、2層：明茶色粘質土（旧表土）、3層：明黄褐色粘質土（地山）である。

両試掘坑において、明確な遺構や遺物は確認できず、各層の水平堆積が見られた。試掘坑2では旧表土である2層（明茶褐色粘質土）の円形を呈する落ち込みが一直線に数箇所見られた。耕作時における杭等の痕跡と推定される。

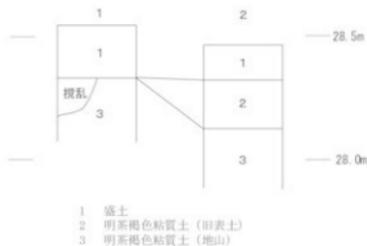
今回の調査では遺構、遺物が全く確認できず、表土若しくは旧表土直下で地山層を検出した。このことから、丘陵上の当該地は過去の造成によって旧地形が削平されていると考えられる。以上のことから、当該地は遺跡の範囲外にあたと捉えられる。



試掘坑1 発掘状況



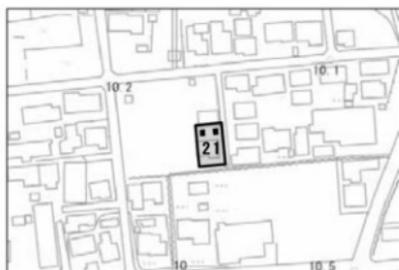
試掘坑2 完掘状況



土層柱状図

23-36. 市野遺跡群隣接地

所在地	東区市野町249-1
調査期間	平成23年12月1日
時代	_____
調査方法	1.5 m×2m 試掘坑2箇所
検出遺構	なし
出土遺物	なし
特記事項	なし
調査担当	鈴木 一有



位置図(2500分の1)

調査概要

土層堆積状況 双方の試掘坑とも、類似した土層堆積状況を確認した。その詳細は、以下の通りである。1層：盛土（山土）、2層：灰色粘土（旧水田耕作土）、3層：茶褐色シルト（旧畑耕作土等）、4層：明黄褐色シルト（以下、地山相当）、5層：明茶褐色シルト、6層：明褐色シルト、7層：灰色シルト、8層：灰色砂礫（基盤層）。



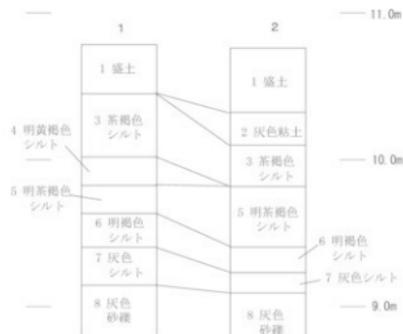
試掘坑1土層堆積状況



試掘坑2土層堆積状況

遺構・遺物 試掘坑1、2ともに遺構、遺物は確認できなかった。

小 結 今回の試掘調査では、畑や水田の耕作土の下に自然堆積層を確認したのみで、明確な遺構や遺物は検出できなかった。このことから、当該地は遺跡の範囲外と判断できる。



土層柱状図

23-39. 尾高山遺跡

所在地	北区都田町 10570
調査期間	平成23年12月12日～13日
時代	弥生、古墳、中世
調査方法	10m×2.2m 試掘溝2箇所
検出遺構	土坑
出土遺物	弥生土器、須恵器、瀬戸美濃産 陶磁器
特記事項	なし
調査担当	首藤 久士



位置図 (2500分の1)

調査概要

試掘坑の配置及び土層断面図は別添図に示した。

調査は東側にA地点、西側にB地点の2箇所設けて実施した。土層堆積状況は、1層：表土（耕作土）、2層：赤褐色砂礫（地山）、3層：黒灰褐色砂礫（地山）、4層：暗青灰褐色砂礫（地山）、5層：暗黄褐色砂礫（地山）である。

A地点では、東側で弥生時代から古墳時代の遺構が見られた。土坑3基と小穴1基を検出した。土坑（SK01）には弥生時代後期から古墳時代初頭の1.2の壺口縁部に伴う台付甕脚部や甕胴部片が出土した。もう一つの土坑（SK02）では3の壺口縁部が出土し、さらに別の土坑（SK03）及び小穴（SP01）でも時期は不確定ながら弥生時代から古墳時代と推定される土器片がそれぞれ出土した。一方、A地点の西側では遺構や遺物が見られなかった。また、調査区内では南へ向かって地山（2層）が低くなっており、地山上には近年の耕作に伴い拳大の礫が充填されていた。

B地点では、表土（1層）直下で地山（2層）が検出された。遺構はみられなかった。またA地点同様、地山層（2層）が調査区南側へ向かって低くなり、地山上で礫の充填が確認された。充填礫の中から須恵器と土師器片が若干出土した。近年の耕作に伴って調査区周辺の遺物が礫と一緒に混入したものと考えられる。

今回の調査では、丘陵端と推定されるA地点東側で弥生時代後期から古墳時代初頭の遺構遺物を検出した。その他の調査区では遺構が検出できなかった。A地点東側以外では、出土遺物も僅かである。また、A地点西方斜面及び2003年度調査地点周辺では弥生時代から中世に至る遺物が表採された。

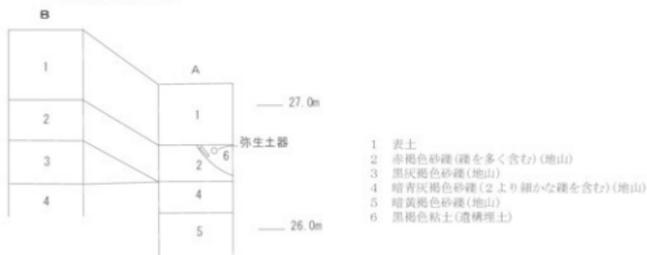
以上のことから、丘陵端部にあたるA地点東側では削平を免れた遺構が若干残存する他は、後世の耕作に伴って遺構が既に削平されたと考えられる。当該地は遺跡の範囲内であるが、その縁辺部にあたると捉えられる。遺跡の中心地は、調査地の西側及び北側に展開しているとみられよう。



A地点完掘状況

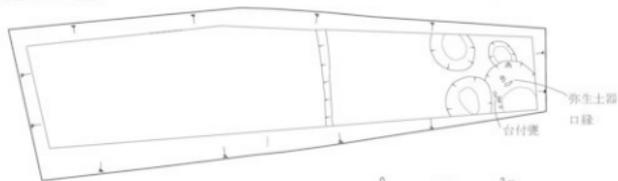
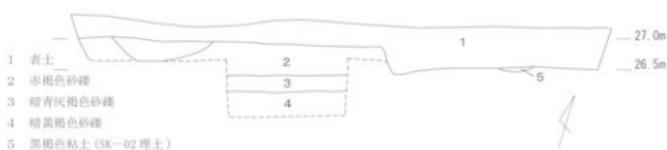


B地点完掘状況

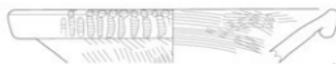


尾高山A地点

土層柱状図



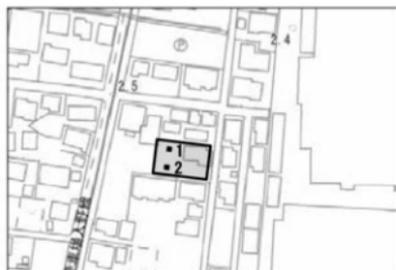
平面図及び土層断面図



出土遺物

23-40. 高塚遺跡

所在地	南区高塚町401-1、408-1
調査期間	平成23年12月19日
時代	_____
調査方法	2 m×2 m 試掘坑2箇所
検出遺構	なし
出土遺物	なし
特記事項	なし
調査担当	鈴木 一有



位置図 (2500分の1)

調査概要

土層堆積状況 二つ試掘坑ともに、同様の堆積状況が確認できた。土層の詳細は以下の通りである。1層：茶褐色砂、2層：暗褐色砂（ブロック混じり、旧表土層、再堆積層）、3層：緑灰色砂（基盤層）、灰色粗砂（基盤層）。

遺構・遺物 双方の試掘坑で遺構・遺物は確認できなかった。

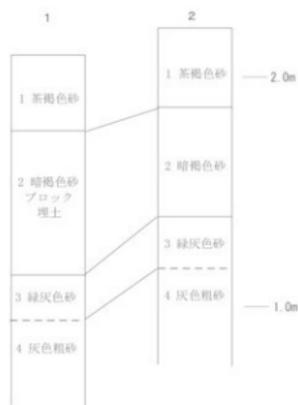
小 結 今回の調査では、自然堆積層を確認したが、遺構、遺物ともに全く検出できなかった。このことから、当該地は、遺跡の範囲外と捉えられる。



試掘坑1土層堆積状況



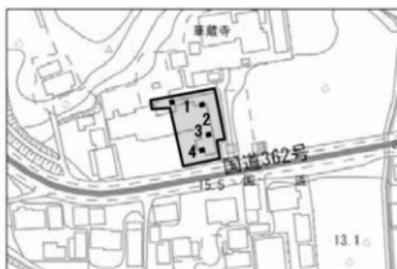
試掘坑2土層堆積状況



土層柱状図

23-41. 眞香烟遺跡

所在地	北区三ヶ日町日比沢555-2
調査期間	平成23年12月27日
時代	時期不明
調査方法	2 m×2 m 試掘坑4箇所
検出遺構	溝
出土遺物	なし
特記事項	なし
調査担当	井口 智博



位置図 (2500分の1)

調査概要

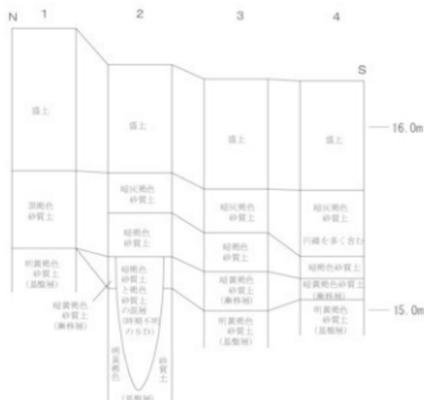
試掘坑の配置及び土層断面図は別添図に示した。今回の調査地点は、三ヶ日西小学校旧日比沢分校の敷地内に位置する。

対象地内は学校用地として拡張された際の盛土が、約 0.5 ～ 0.6 m の厚さで施されていた。盛土直下も学校用地として利用されていた際の攪乱が顕著で、旧表土中に屋根瓦の破片等が多く含まれていた。旧表土の下には暗褐色砂質土と暗黄褐色砂質土が堆積していた。基盤層は円礫を多く含む黄褐色砂質土である。いずれの試掘坑からも遺物は全く出土しなかった。また、試掘坑2において溝状の掘り込みを確認したが、遺物は全く出土せず掘削時期については明確にできなかった。層位からみて近代以降に掘削された可能性が高いと考えられる。

試掘調査に合わせて周辺の踏査を行った結果、新規登録時と同様に旧日比沢分校敷地の西側（二宮金次郎像の周辺）と華蔵寺参道東側のミカン畑内に山茶碗・山皿・天目茶碗などの中世の遺物が散乱しているのを確認した。今回の試掘調査の結果、全ての試掘坑で遺構・遺物の出土ともに全く認められなかった。ただし、同じ敷地内や隣接する畑内では遺物が比較的豊富に採集できることから、今回調査した地点は遺構や遺物の希薄な範囲に当たると考えられる。



試掘坑1完掘状況



土層柱状図

23-42. 山寺野遺跡

所在地	南区飯田町 739
調査期間	平成23年12月27日
時代	弥生、古代、中世
調査方法	2 m×2 m 試掘坑3箇所
検出遺構	小穴
出土遺物	弥生土器、土師器、須恵器 土師質土器
特記事項	なし
調査担当	鈴木 一有



位置図 (2500分の1)

調査概要

土層堆積状況 すべての試掘で概ね同様の土層堆積状況が確認できた。その詳細は、以下の通りである。1層：茶褐色砂質土、2層：暗茶褐色粘土、3層：茶褐色粘土（遺物包含層、弥生時代～奈良時代土器を含む）、4層：明黄褐色粘土（地山、遺構検出層）、5層：青灰色シルト/砂（基盤層）。試掘坑1では3・4層が攪拌され、近世以降に水田として使用された痕跡（2-2層：暗灰色粘土、水田耕作土）が確認できた。遺構検出層である4層は、試掘坑3で明確に確認できたが、その他の試掘坑では検出できなかった。

遺構 試掘坑1では、近世以降の水田耕作土が5層（基盤砂層）の直上に広がっている。試掘坑2では、明確な遺構は確認できなかった。試掘坑3では、4層（明黄褐色粘土層）を切り込む遺構が確認できた。

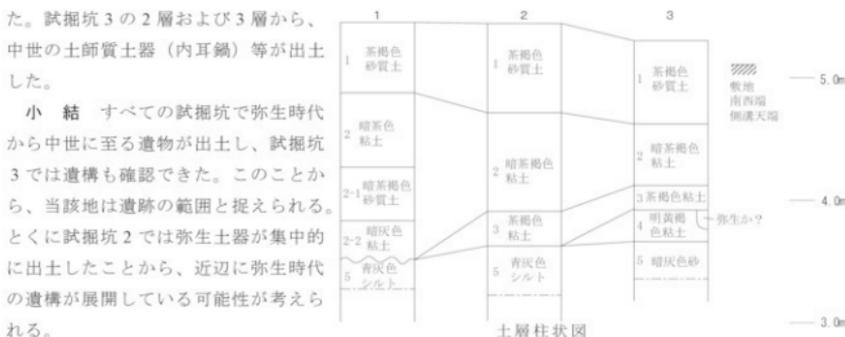
遺物 すべての試掘で遺物が出土した。試掘坑1では、古代の須恵器、中世の土師質土器（内耳鍋）のほか、水田耕作土（2-2層）から近世以降の陶磁器の破片が出土した。

試掘坑2では、遺物包含層である3層から弥生土器を検出した。試掘坑3の2層および3層から、中世の土師質土器（内耳鍋）等が出土した。

小結 すべての試掘坑で弥生時代から中世に至る遺物が出土し、試掘坑3では遺構も確認できた。このことから、当該地は遺跡の範囲と捉えられる。とくに試掘坑2では弥生土器が集中的に出土したことから、近辺に弥生時代の遺構が展開している可能性が考えられる。



試掘坑1土層堆積状況



23-43. 馬領家遺跡隣接地

所在地	中区領家2丁目313
調査期間	平成24年1月10日
時代	_____
調査方法	1.5 m×2m 試掘坑3箇所
検出遺構	なし
出土遺物	なし
特記事項	なし
調査担当	鈴木 一有



位置図 (2500分の1)

調査概要

土層堆積状況 全ての試掘坑で同様の堆積層位を確認した。その詳細は以下の通りである。

1層：暗褐色砂、2層：褐色砂、3層：明灰色シルト、4層：明灰色粘土、5層：灰色砂礫。
2層以上は再堆積、表土層とみられる。

遺構・遺物 すべての試掘坑で遺構、遺物は確認できなかった。

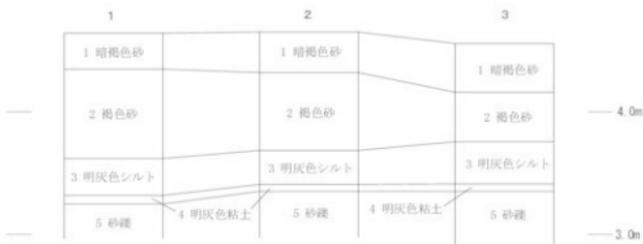
小 結 今回調査した3箇所の試掘坑すべてにおいて遺構や遺物は全く確認できなかった。当該地は遺跡の範囲外と捉えられる。



試掘坑2土層堆積状況



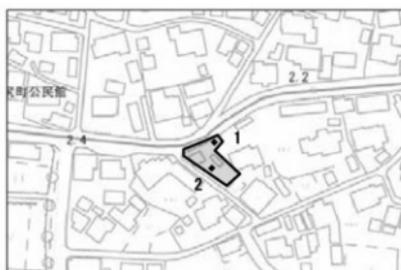
試掘坑3土層堆積状況



土層柱状図

23-44. 田 尻 遺 跡

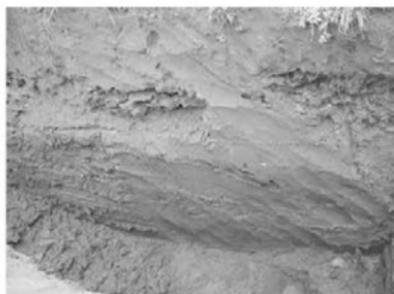
所在地	南区田尻町369-1
調査期間	平成24年1月16日
時代	_____
調査方法	2 m×2 m 試掘坑 2 箇所
検出遺構	なし
出土遺物	なし
特記事項	なし
調査担当	鈴木 一有



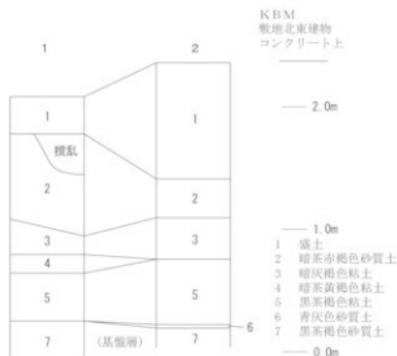
位置図 (2500 分の 1)

調査概要

調査は試掘坑を2箇所設けて実施した。土層堆積状況は、1層：盛土、2層：暗茶赤褐色砂質土、3層：暗灰褐色粘土、4層：暗茶黄褐色粘土、5層：黒茶褐色粘土、6層：青灰色砂質土、7層：黒茶褐色砂質土（基盤層）である。両試掘坑において明確な遺構や遺物は確認できず、粘土層の水平堆積が見られた。3層～5層では粘土層が厚く堆積しており、3層では木片やロープが混入していたため、近現代まで湿地環境であったと考えられる。また、2層には近現代の瓦や陶器類が見られたことから、1層及び2層は近現代に盛土されたと考えられる。調査の結果、全ての試掘坑において遺構、遺物が検出されず、粘土層の堆積が見られた。よって、当該地は遺跡の範囲外にあると捉えられる。遺跡の中心地は調査地の北側に展開しているものと考えられる。



試掘坑 1 完掘状況



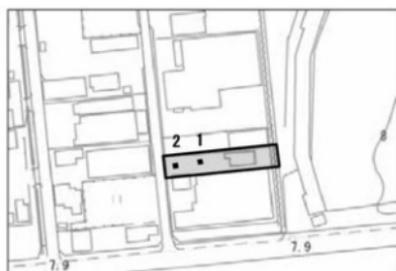
土層柱状図



試掘坑 2 完掘状況

23-46. 箕輪遺跡

所在地	東区小池町2469他2筆
調査期間	平成24年1月23日
時代	_____
調査方法	2m×2m 試掘坑2箇所
検出遺構	なし
出土遺物	なし
特記事項	なし
調査担当	鈴木 一有



位置図 (2500分の1)

調査概要

土層堆積状況 双方の試掘坑とも、同じ土層の堆積状況がうかがえた。その詳細は以下の通りである。1層：盛土、2層：灰色粘土（旧水田耕作土）、3層：暗青灰色粘土（古い時期の水田耕作土）、4層：青灰色シルト、5層：黒色粘土、6層：青灰色粘土（炭酸鉄の小粒を含む）、7層：灰色粘土、8層：灰褐色粘土。8層以下は詳細は不明であるが、粘土層が厚く堆積している可能性が高い。



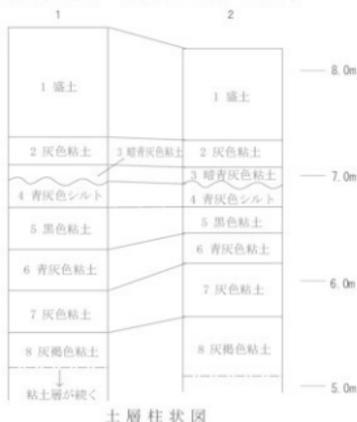
試掘坑1土層堆積状況



試掘坑2土層堆積状況

遺構・遺物 双方の試掘坑とも、遺構、遺物は全く確認できなかった。

小結 双方の試掘坑で、厚い湿地性の堆積層が確認できた。今回の調査では、遺構、遺物が検出できなかったことから、当該地は遺跡の範囲外と判断できる。



23-48. 旧大通院境内遺跡隣接地

所在地	南区新橋町 743
調査期間	平成24年 1月30日
時代	時期不明
調査方法	2 m×1 m 試掘坑 4箇所
検出遺構	溝
出土遺物	なし
特記事項	なし
調査担当	井口 智博



位置図 (2500分の1)

調査概要

試掘坑の配置及び土層断面図は別添図に示した。今回の調査地点は、新津中学校の南側に位置する。

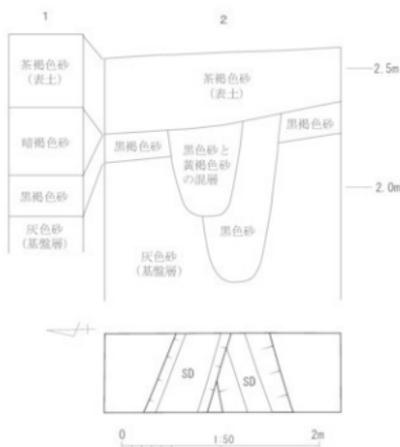
2箇所を試掘坑の土層堆積状況はおおむね共通しているが、基盤砂層の標高は敷地北側にある試掘坑1が低く、南側の試掘坑2の方が高かった。試掘坑2の南端はさらに基盤砂層が上がって行く状況が確認できたことから、対象地の南側に小規模な砂丘の高まりがあると推定される。基盤砂層の上には、黒褐色砂と茶褐色砂の堆積が確認でき、試掘坑1では間に暗褐色砂の堆積が認められた。

試掘坑2では、東西方向に延びる溝状の遺構を2本確認した。いずれも溝からも遺物は出土しなかったため、掘削された時期は不明である。また、試掘坑内を精査したが、遺物は全く出土しなかった。

今回の試掘調査の結果、時期不明の溝状遺構が検出されたが、遺物が全く出土しなかったことや、埋土の状況から近世以降の地境溝と推定される。対象地内に遺物の散布も確認できないことから、遺跡の範囲外と判断される。



試掘坑2調査状況



土層柱状図及び平面図

23-49. 郷ヶ平古墳群

所在地	北区都田町字郷ヶ平 16-5
調査期間	平成24年2月7日～2月20日
時代	縄文、古墳
調査方法	50cm幅のトレンチ8箇所
検出遺構	周溝、溝
出土遺物	縄文土器、埴輪、須恵器
特記事項	なし
調査担当	和田 達也



位置図 (2500分の1)

調査概要

トレンチの配置及び土層断面図等は別添図に示した。7基が存在したとされる郷ヶ平古墳群中の南部に位置する。対象地の西側は谷であり、北側には1号墳及び3号墳が存在する。そのさらに北側は谷である。

対象地内の基本層序は、表土、盛土・攪乱（攪拌）と明赤褐色粘質土（地山）である。地山は整地の際に攪乱を受けた地点が多く、地表面から1m程で地山を確認できる地点が多い。

遺構が確認できたトレンチは、3・4トレンチのみである。このうち、古墳の周溝が確認できたのは、4トレンチのみである。3トレンチでは溝2条が確認されたが、時期は確定できない。

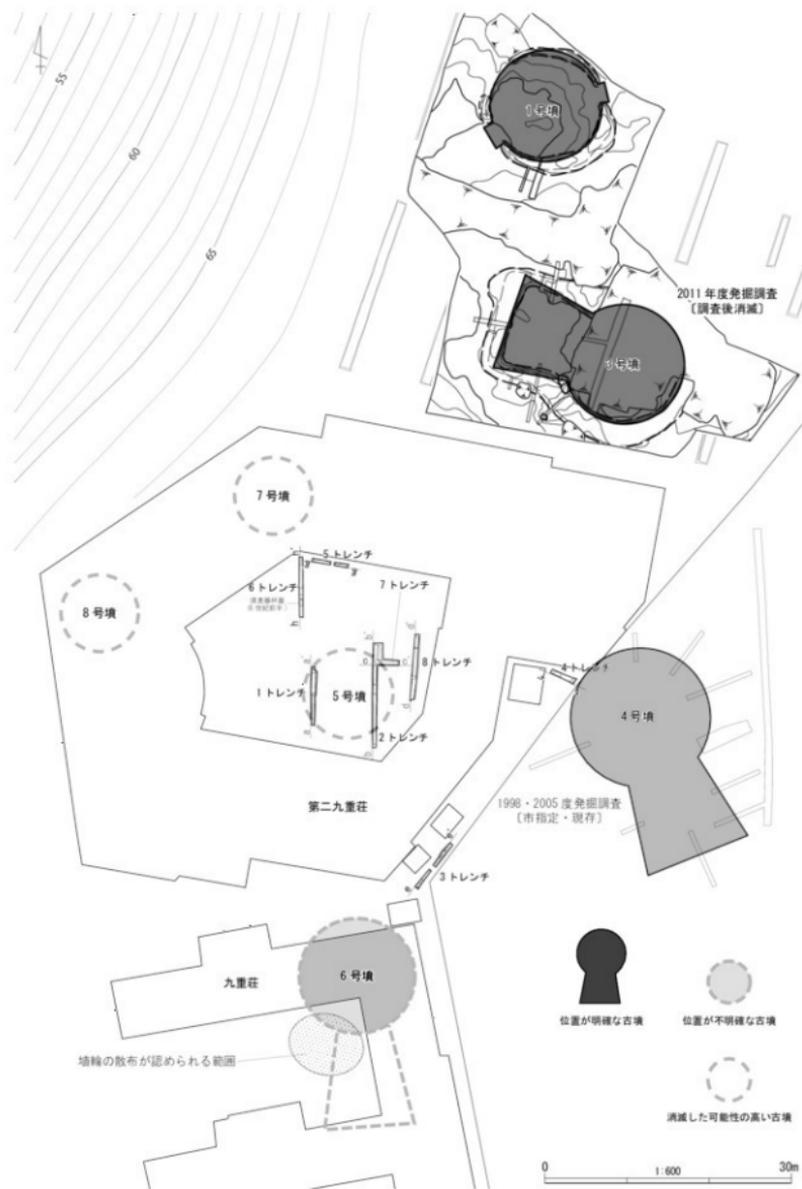
なお、1・2・5～8トレンチでは、遺構が認められなかった。ただし、6トレンチからは、須恵器杯蓋が出土した。

4号墳 6世紀前半の埴輪を伴う前方後円墳で、全長26.5mを測る。1998年と2005年に発掘調査が実施された。本試掘調査では、後円部西側周溝の遺存状況確認のため4トレンチを設定し、周溝の遺存を確認した。周溝の外側に近い位置にあたり、出土遺物は埴輪片2点にとどまった。

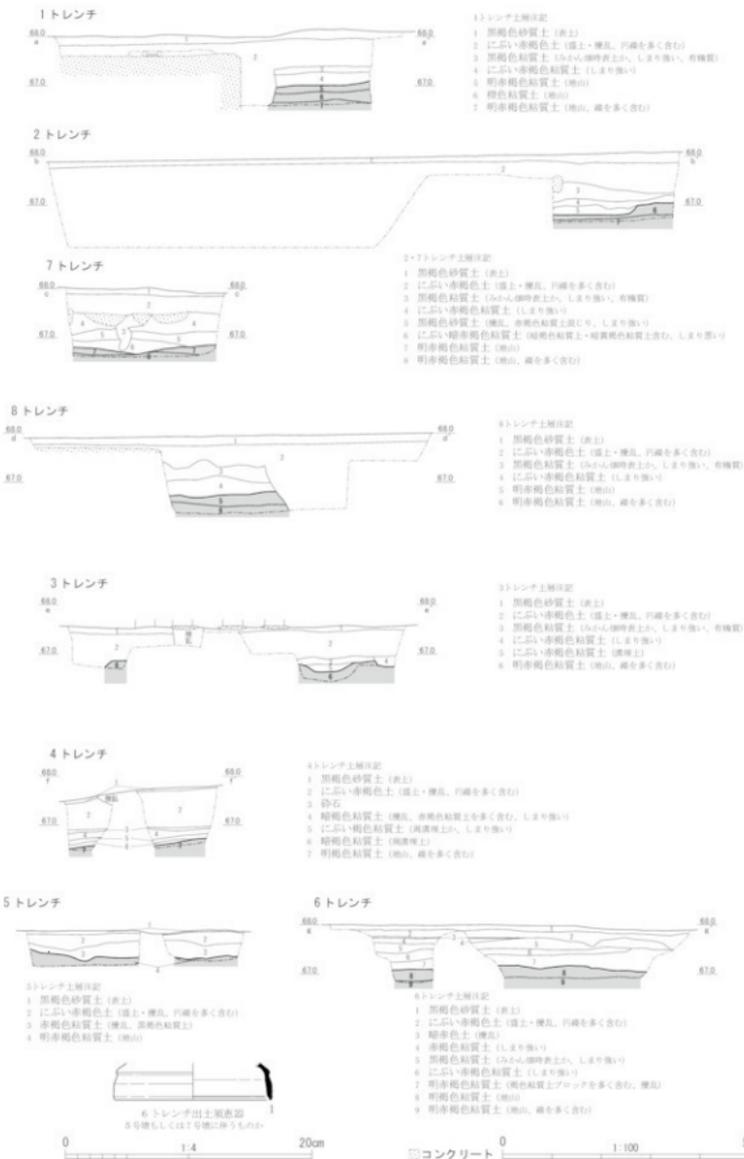
推定5・7・8号墳 1・2・5～8トレンチを設定し、5・7・8号墳に伴う遺構の検出を試みたが、攪乱が著しく、遺構は確認できなかった。しかし、6トレンチ南側から6世紀前半の須恵器杯蓋が出土した。当地に所在が伝わる5号墳もしくは7号墳に伴うものであった可能性が高い。

6号墳 第二九重荘南東部に所在が推定され、3トレンチを設定したが、遺物や古墳に関する遺構は確認できなかった。このため、敷地内の遺物分布調査を行い、第一九重荘東北部を中心に35点の埴輪片が採集された。この付近に6号墳が存在する蓋然性が高い。

小結 4号墳周溝外周は九重荘敷地内においても遺存が確認された。6号墳は分布調査により、今までの推定位置より南に所在した可能性が高まった。古墳の位置については不明な点が多く今後課題を残している。中庭周辺に所在が推定される5・7・8号墳については、建物造成に伴って消滅した可能性が高い。



調査区全体図



土層断面図

23-51. 別所前遺跡

所在地	東区市野町 2218-1
調査期間	平成24年3月1日
時代	弥生
調査方法	2 m×2 m 試掘坑 6箇所
検出遺構	小穴
出土遺物	弥生土器
特記事項	なし
調査担当	首藤 久士



位置図 (2500分の1)

調査概要

試掘坑の配置及び土層断面図は別添図に示した。

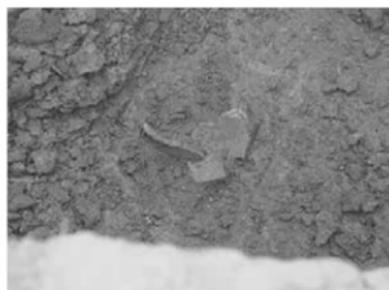
調査は試掘坑を6箇所設けて実施した。土層堆積状況は、1層：盛土、2層：灰色粘土（旧水田面）、3層：青灰褐色粘土（弥生時代後期遺物包含層）、4層：黒灰色粘土（弥生時代後期遺物包含層）、5層：灰褐色シルト、6層：黄灰褐色砂である。

全ての試掘坑において弥生土器を確認した。出土遺物は弥生時代後期の壺や台付甕である。中でも試掘坑1、2、3では多量の弥生土器が出土し、旧水田面直下（3層）で小穴（試掘坑1）や性格不明遺構（試掘坑2・SX01）を検出した。また、試掘坑4、5、6においても遺物包含層（3層・4層）を検出するとともに、弥生土器が出土した。

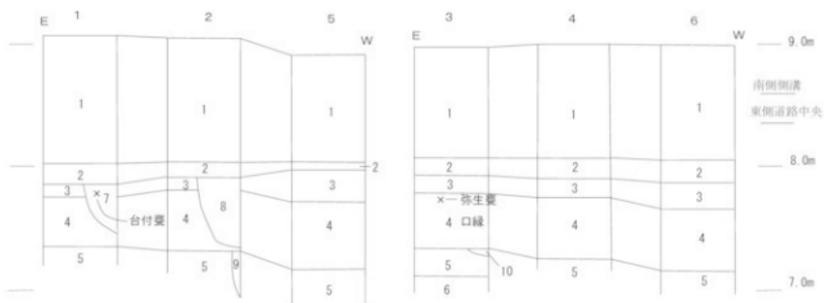
以上より、当該地は全て遺跡の範囲内と考えられる。また、試掘坑1、2、3の周辺部に遺跡の中心地が存在すると考えられる。また、土層堆積状況や出土遺物が近隣の田見合遺跡（浜松市文化協会2002）や同遺跡工事立会い（浜松市教育委員会2011）と類似していることから、別所前遺跡には田見合遺跡と同様の弥生時代後期集落が埋没している可能性が高いと考えられる。



試掘坑2 遺物出土状況



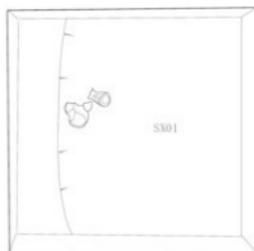
試掘坑3 遺物出土状況



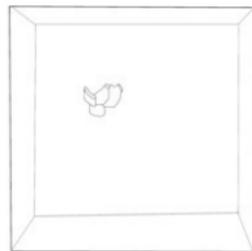
- 1 盛土 2 灰色粘土 3 青灰色粘土(包含層) 4 黒灰色粘土(包含層) 5 灰褐色シルト
 6 黄灰褐色砂 7 黒褐色粘土(埋土) 8 黒褐色粘土(S301) 9 黒色粘土(埋土) 10 黒色粘土(埋土)

土層柱状図

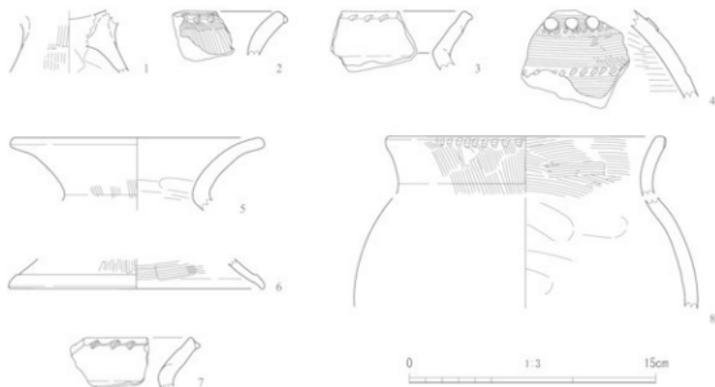
試掘坑2平面図



試掘坑3平面図



平面図



出土遺物

試掘坑1:1 試掘坑2:2~5 試掘坑3:6~8

23-61. 井通遺跡

所在地	北区細江町広岡地内 (井伊谷川河川敷内)
調査期間	平成23年9月12日
時代	江戸以降
調査方法	立会・表探
検出遺構	なし
出土遺物	土師器、須恵器、山茶碗
特記事項	なし
調査担当	鈴木 敏則



位置図 (2500分の1)

調査概要

地元の方より、井伊谷川の河川敷に丸太に穴の空いた木が露出しているとの連絡を受けた。連絡のあった木材は、清水橋の北約55～60m地点の河川敷内で確認された。丸太材の両端が露出し、中央は土で覆われていた。そこで、土を取り除き全体を掘り出したところ、長さは5.7m、直径0.4mの丸太材で、円形のホゾ穴が両端に認められた。ホゾ穴は、片方に2つずつあり、互いに直行する位置に空けられている。ホゾ穴は、外側のは端部から0.8～0.84m、内側は1.23～1.27mの位置にあり、中央を中心に対象の位置にある。外面は全面調整されており、端部は鋸で切断されている。材はスギが用いられている。丸太材が埋没していた層位は、別紙に示した。

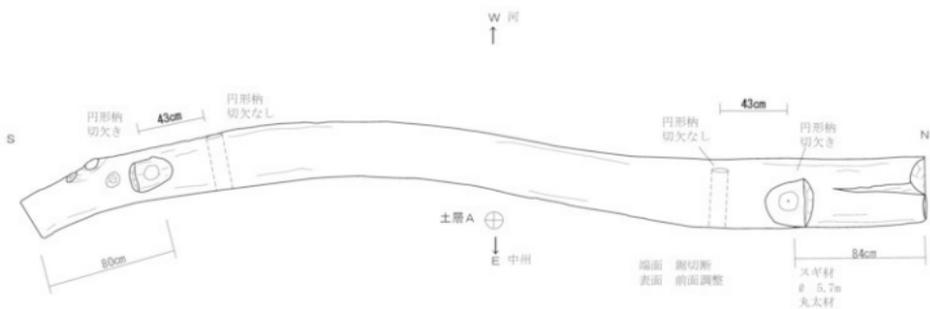
丸太材の上面は、灰褐色粘土層（近世～近代）に及んでいたが、丸太材の堆積層位は褐茶色有機質土層である。多くの木片、木の葉などが含まれており、川の淀みの堆積層と考えられる。この層からは、木製小物入れと加工小板が出土した。土器が出土していないため、時期は明確ではないが、木や木の葉などの腐食状況や残存状況から、江戸時代以降と推定される。丸太材のホゾ穴は、外側のは、切り欠いて平らな面を作り出してから穿孔されており、別材と組まれていたと考えられる。丸ホゾの丸太材であり、建築部材ではないことから、筏材のようなものであった可能性が考えられる。



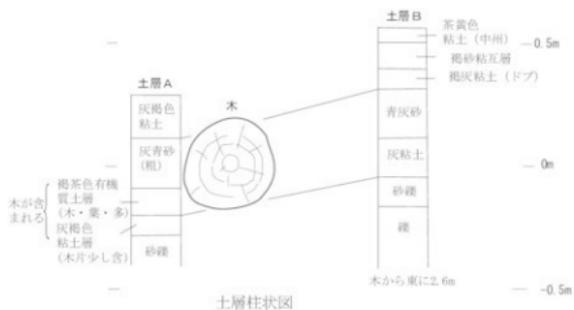
清水橋上から



立会区（東から）



納穴材の全体図



土層柱状図



立会区 (西から)



ホソ穴の様子

第4章

分布調査報告

(平成23年度)

分布調査の概要

浜松市文化財課では、平成17年(2005)の12市町村を交えた広域合併の後、埋蔵文化財包蔵地の適正な把握を目指して市内の分布調査を断続的に実施している。調査の結果は、その都度、埋蔵文化財包蔵地の範囲に反映させ、開発などに伴う調整業務に活用している。

以下に示すものは、平成23年(2011)度の間に行った分布調査の結果である。過去に行った分布調査を行った位置については、(P88)の分布調査位置図に示した。当該期間においては、遺跡未踏査の地域や、近年開発が進み調整業務にあたって緊急性が高い地域を選んで、年間2回程度、調査を実施した。平成23年度の分布調査の結果については、分布調査追加登録・内容変更遺跡名一覧表(P89)にまとめ、あわせて遺跡の現場写真を掲載した。また、主な採集遺物については(P90)に掲載した。平成23年度における新規登録遺跡数は2件、内容変更遺跡数は3件である。

調査方法

分布調査は、担当職員によって調査グループを編成し、グループごとに調査対象地を徒歩によって踏査し、畑地や水田などに散布している遺物を採集して実施した。遺物の採集位置は、詳細地図(1:2,500)に記録し、周辺地形について写真を撮影した。現地調査によって採集した遺物は、洗浄後、一片ずつ種別、帰属次期について判別し、旧来の地形図なども活用しながら、埋蔵文化財包蔵地の範囲について検討を重ねた。遺跡の新規登録や範囲変更、帰属時期など内容変更については、担当職員による合議のもとに、その内容を決定した。なお、新規登録をした遺跡名については、それぞれの地域の小字名をもとに命名した。



分布調査位置図

<分布調査新規登録遺跡名一覧表>

地区	遺跡名	番号	登録年月
4-03 新津	田尻遺跡	10	平成23年5月
	米津町村中遺跡	11	平成23年5月



田尻遺跡



米津町村中遺跡

<分布調査内容変更遺跡名一覧表>

地区	遺跡名	番号	登録年月
4-03 新津	新橋町村東遺跡	2	平成23年5月
	堤町村東遺跡	3	平成23年5月
	かわら塚遺跡	5	平成23年5月



新橋町村東遺跡

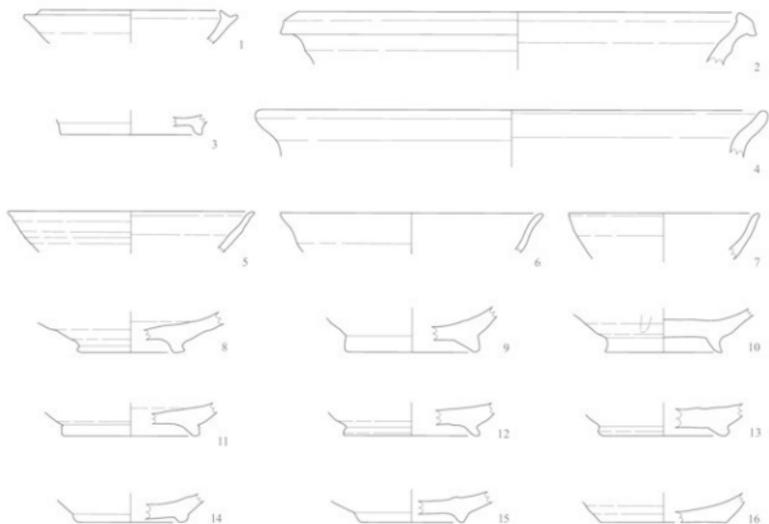


堤町村東遺跡

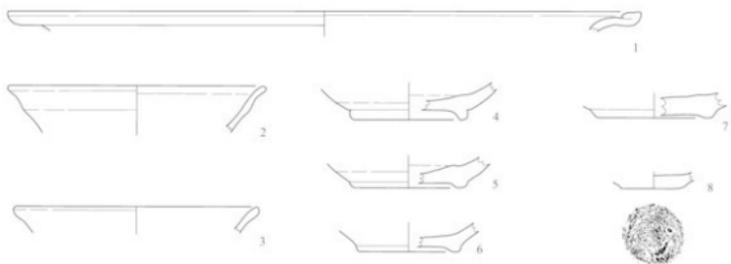


かわら塚遺跡

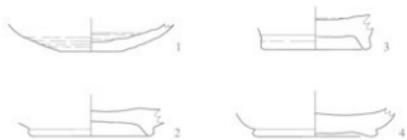
かわら塚遺跡



堤町村東遺跡



新橋町村東遺跡



田尻遺跡



第5章

詳細報告

(平成23年度)

宝平遺跡確認調査報告

はじめに

本報告は、静岡県磐田郡(現 浜松市天竜区)水窪町奥領家3905に計画された農道拡張事業に伴い、同地内に所在する宝平遺跡の確認調査に関わる発掘調査報告である。宝平遺跡の確認調査は、旧水窪町の委託を受け、旧水窪町教育委員会が調査担当者となり、株式会社静岡人類史研究所学芸員小谷亮二が調査を担当した。発掘調査は、静岡県教育委員会文化課(現文化財保護課)の指導のもとに、発掘調査の方法・日程等について協議を行いながら進めた。現地調査は、平成9年8月4日から同11日まで(実働4日間)実施し、出土遺物の整理と報告書の作成は確認調査終了後の平成9年8月12日から同29日まで実施した。遺物の復元、実測およびトレースは、静岡県人類史研究員学芸員が中心となって行った。本報告の作成は、小谷が行った。

この確認調査の結果については、発掘調査終了後、内部的な概要報告が行われたのみで、正式な報告書として広く公開はされてこなかった。宝平遺跡の重要性を鑑み今回ここに掲載することとなった。掲載に当たって浜松市市民部文化財課で一部加筆・修正を行っている。

本調査における図面・写真・遺物は、すべて水窪町教育委員会で保管され、現在は浜松市教育委員会に移管している。

1. 遺跡の位置

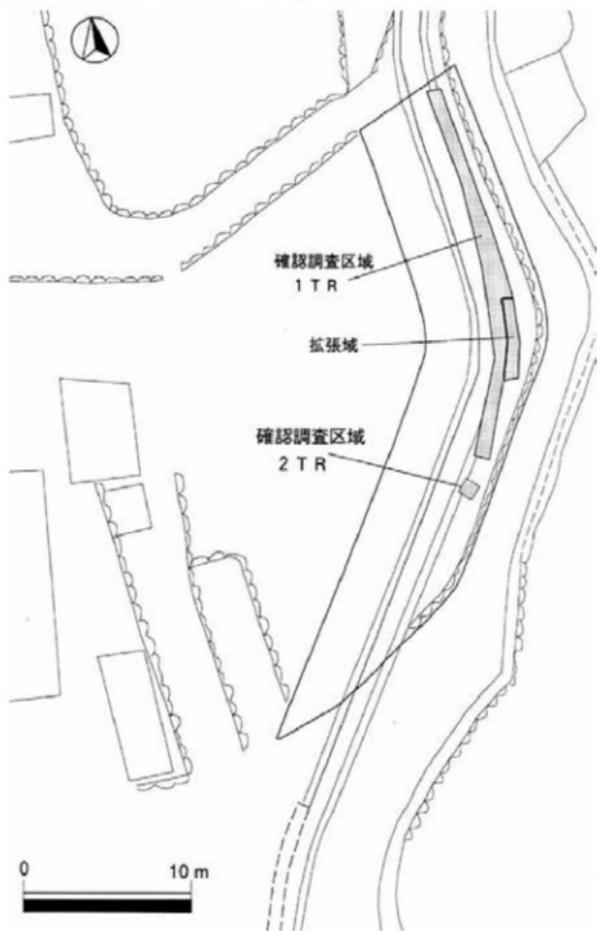
宝平遺跡は水窪町の中心部より西、国道152号線沿いに位置し、確認調査区の西側に流れる沢によって形成されたと思われる扇状地上に位置している(第1図)。地質的にみると水窪町西部は花崗岩、ホルフェンス、石英閃緑岩によって形成されており、確認調査区の土層中に花崗岩が多く、また石英片が含まれていることも納得できる。



第1図 確認調査位置図

2. 調査の方法と経過

平成9年7月25日にトレンチ（1TR）の設定を行い、8月4日より作業員4人を導入し、手掘りによる掘り下げを開始した。表土中においては遺物採集をおこないながら表土を除去し、表土除去後は精査を行い、遺物・遺構・土層の確認作業を行った。8月5日静岡県教育委員会文化課との協議の結果、遺物採集のため拡張した方がよいとの判断から、特に土器が多く出土しているトレンチの東側を最大1m（地形による）拡張し、遺物採集にあたった。また、1TRの南側に新たに1m×1mのトレンチ（2TR）を設定し、遺構・遺物・土層の確認を行った。（第2図）



第2図 調査対象区域

3. 層序

調査区域は現在も畑地として利用されており、確認調査区の西側、北の2/3は茶畑、南の1/3はかぼちゃ等の作物が作られている。

確認調査区域内の標準土層は以下の通りである。(第3図)

第1層は耕作土で、天地返しと思われるが、土器小片を含んでいる。第2層は黒褐色土で径5cm～60cm大の礫(花崗岩。非常に脆い。)を含む。遺物包含層。2TRでは削平によるためなのか、もともと無いか不明であるが、第2層はほとんど残っていない。第3層として地山が現れる。

第2層に含まれている礫、砂は調査区西側の沢にあるものと同じ性質のものであり、水窪町西部を地質的に形成している花崗岩である。南北方向の狭いトレンチであるため、正確な傾斜の方向は確認できないが、トレンチ内においては南から北に傾斜していることが確認できる。地山までの深さは、最も浅い所で、2TRの約20cm、最も深いところは1TRの最北部で、耕作面より約150cmである。

4. 確認調査の結果

(1) 調査結果

①1TR(第2図、写真1～5)

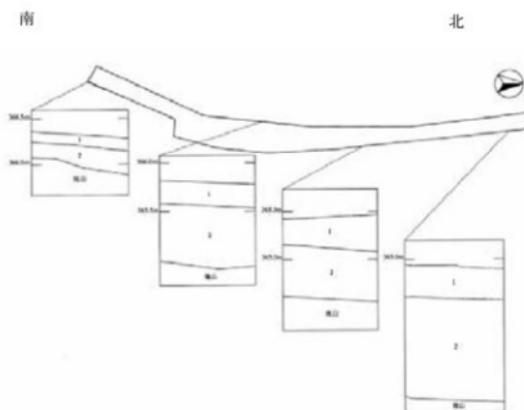
第2層から土器片が出土した。遺構は確認できなかった。

②2TR(第2図、写真6～7)

遺構・遺物は確認できなかった。

③拡張域(第2図、写真8～9)

第2層から土器片と磨製石斧1点出土した。遺構は確認できなかった。



第3図 宝平遺跡確認調査区の土層断面図

(2) 出土した遺物

遺物は土器片が大部分を占め、磨製石斧が1点出土している。耕作土からも出土しているが、いずれも小片であり、耕作による天地返しによって浮き上がってきた破片だと思われる。大部分は第2層から出土しているが、覆土中に含まれているという状態であり、礫の隙間に入り込んでいる土器もあった。状況としては、礫が上(沢など)から流れ込み、その後周辺に集落を営んでいた人々が廃棄した、または2次堆積によって土と一緒に堆積していったことが考えられる。

土器は時期的に統一しておらず、大きく分けて2つの時期に分けられる。1つは五瀬ヶ台系・北裏CⅠ式系、もう一つは曾利・加曾利E系・結節縄文のいわゆる広野C式に分けられる。その他竈状

工具による沈線文、連続刺突線文、波状沈線文を施したもの、無文の厚手の土器、薄手の光沢のある黒色の土器が出土した。

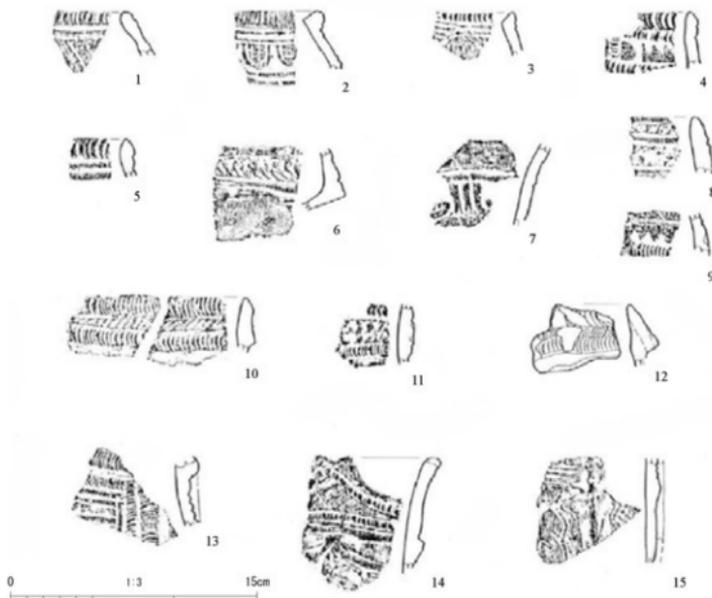
5. まとめ

今回の発掘調査は東向きの斜面地にあたり、多くの縄文土器が出土したが、住居跡等の遺構は確認されなかった。当時の居住域は地形から見て調査区西側の平坦面及び緩斜面に存在したと推測される。今回の調査地点は集落の縁辺部にあたり、集落内で使用した土器で不用となったものを投棄したものと考えられる。

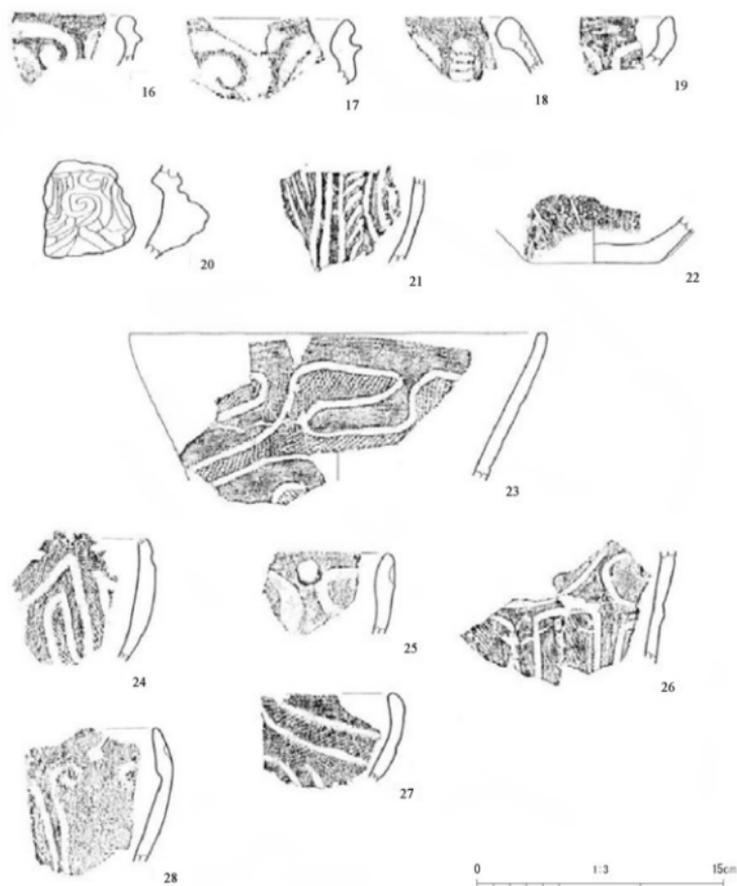
出土した土器から集落が営まれていたのは、縄文時代中期前葉～後葉の五嶺ヶ台系・北裏C I 式系、曾利・加曽利E系に並行する時期と考えられる。

宝平遺跡の付近には、天竜川の支流である水窪川、扇川が流れており、他の遺跡も多くがこれらの河川の流域に立地する。水窪地域における発掘調査の事例は少なく、現状では縄文時代の集落群の動向について述べることはできない。今後の調査の進展により、縄文時代における宝平遺跡の位置付けがより明確なることに期待したい。

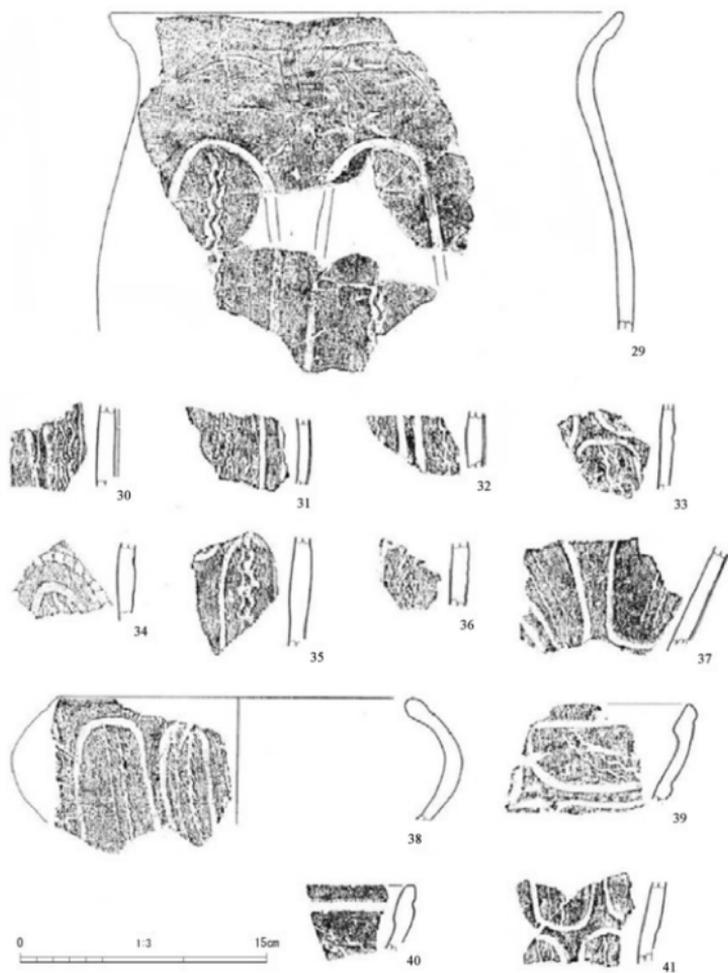
なお、発掘調査及び遺物の整理においては、向坂綱二氏に御指導と御助言を賜った。末筆ながら記して感謝の意を表したい。



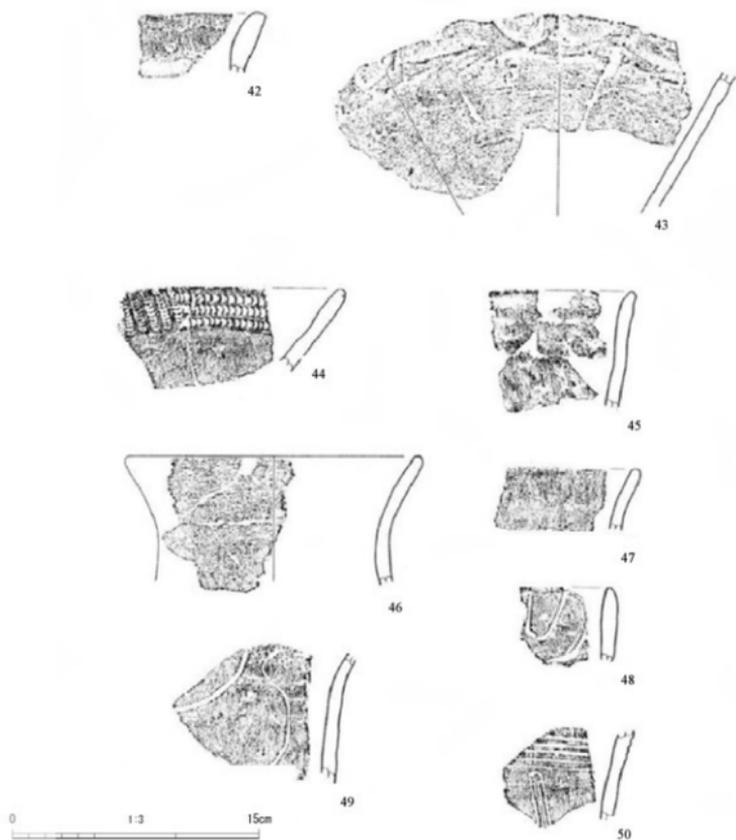
第4図 五嶺ヶ台系・北裏C I 式系土器拓影図



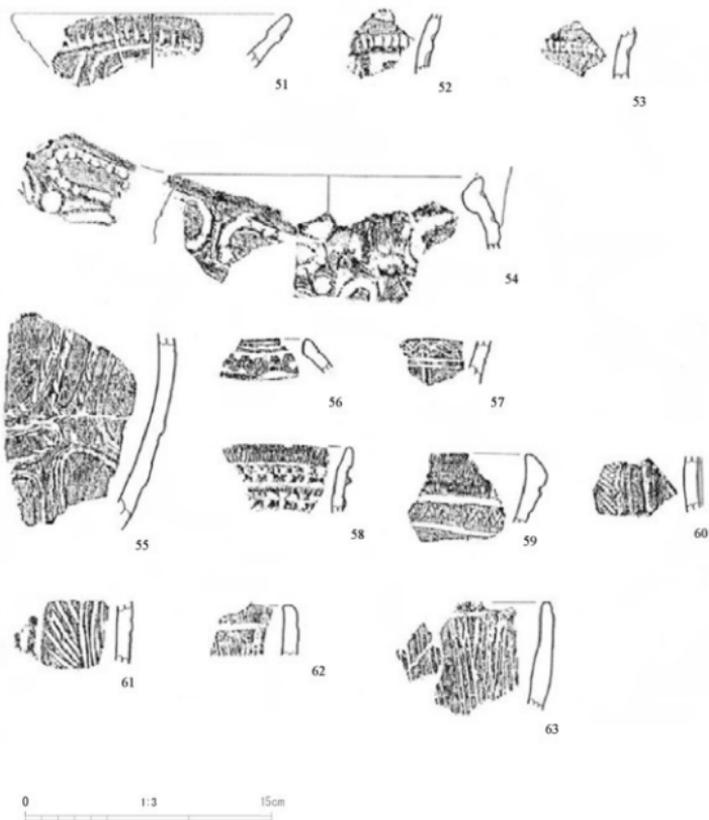
第5图 曾利系·加曾利E系土器拓影图



第6図 結節縄文が施された土器拓影図



第7図 その他の文様の土器拓影図(1)



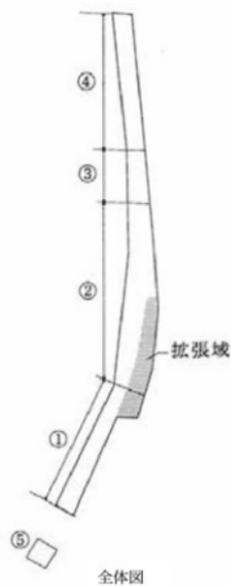
第 8 図 その他の文様の土器拓影図 (2)



1. ① (北東から)



2. ② (北から)



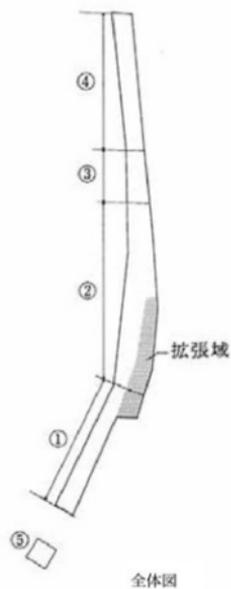
全体図



3. ③ (北から)



4. ④ (南から)



5. ④の北壁 (南から)



6. ⑤2TR(南西から)



7. ⑤2TR 西壁断面



8. 括張城(調査前)(南西から)



9. 括張城東側壁(南西から)



10. 調査風景



11. . 調査区域 (南西から)



12. 調査区の北側風景



13. 調査区の南西側風景



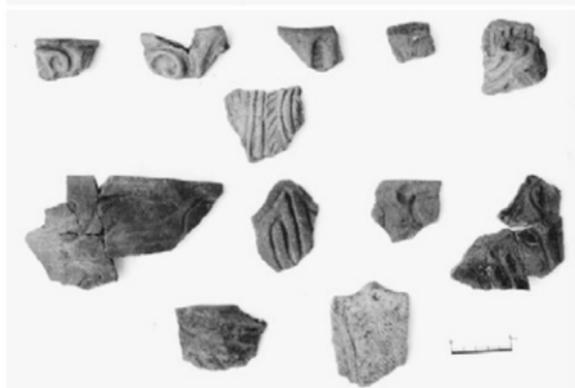
14. 調査区の東側風景



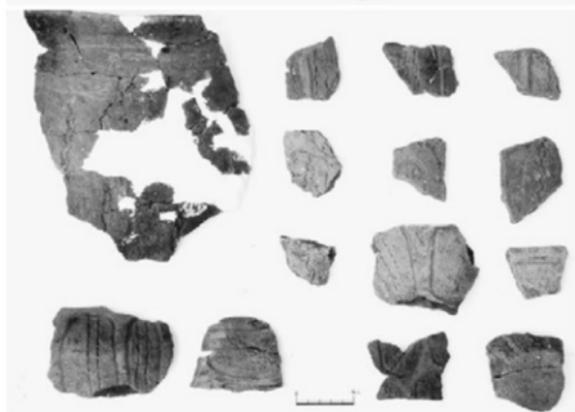
15. 調査区の西側風景



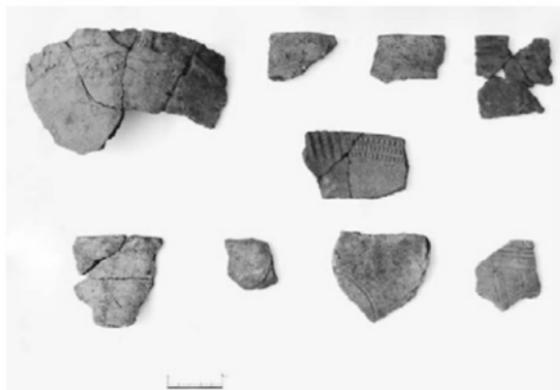
16. 出土した遺物
(五嶺ヶ台系・北裏C1系)



17. 出土した遺物
(曾利系・加曾利E系)



18. 出土した遺物
(結節縄文のいわゆる広野
C式)



19. 出土した遺物
(その他の文様)



20. 出土した遺物
(その他の文様)

第6章

文化財年報

(平成23年度)

平成23年度文化財保護事業報告

1 文化財保護・活用事業報告

A 文化財調査普及事業（本庁）

(1) 指定文化財等の現状調査〔本庁〕

海岸防災林管理広場現状確認（西区～南区）

県指定無形民俗文化財「滝沢の放歌踊」都田小放歌倶楽部伝承状況聞き取り調査（北区都田町）

国指定重要無形民俗文化財「西浦の田楽」伝承状況聞き取り調査（天竜区水窪町）

国指定重要無形民俗文化財「川名のひよんどり」伝承状況聞き取り調査（北区引佐町）

新津地区遺跡分布調査（南区新津町）

油田古墳群踏査（北区細江町）

県指定無形民俗文化財「川合花の舞」伝承状況聞き取り調査（天竜区佐久間町）

市指定有形文化財「上島新田組秋葉山常夜燈精堂」保存修理状況確認調査（浜北区上島）

市指定無形民俗文化財「遠州大念仏」郷中組伝承状況聞き取り調査（浜北区貴布祿）

市指定無形民俗文化財「遠州大念仏」笠井新田巴組伝承状況聞き取り調査（東区笠井新田町）

市指定有形文化財「東林寺山門」現状確認調査（北区細江町）

県指定無形民俗文化財「横尾歌舞伎」伝承状況聞き取り調査（北区引佐町）

国指定重要文化財「鈴木家住宅主屋・釜屋」保存管理状況確認調査（北区引佐町）

市指定有形文化財「瑞雲院山門」現状確認調査（天竜区春野町）

市指定有形文化財「甘露寺中門」蟻害・腐朽検査（東区中郡町）

県指定有形文化財「紙本著色独湛禪師像」他保存修理状況確認調査（北区細江町、静岡市葵区）

市指定有形文化財「旧舞坂脇本陣」腐朽状況確認調査（西区舞阪町）

市指定有形民俗文化財「佐久間の山川諸道具」資料調査（中区舘塚(浜松市博物館)）

旧住吉浄水場・旧常光水源地近代化遺産調査（中区住吉、東区常光町）

市指定有形文化財「白柳家住宅」現状確認調査（北区細江町）

県指定有形文化財「旧王子製紙製品倉庫」現状確認調査（天竜区春野町）

宿藪寺石塔調査（西区庄内町）

宝林寺諸像調査（北区細江町）

宿藪寺資料調査（西区庄内町）

国指定重要文化財「中村家住宅」保存管理状況確認調査（西区雄踏町）

奥浜名湖地域農村舞台現状確認調査（北区引佐町、細江町）

方広寺近代和風建築現状確認調査（北区引佐町）

市指定史跡「二俣城跡」現状確認調査（天竜区二俣町）

鳥羽山城跡現状確認調査（天竜区二俣町）

県指定有形文化財「龍潭寺本堂」保存修理工事完成検査（北区引佐町）

後之遺跡踏査（西区深萩町）

台風15号関係被害状況調査（全地域）

- ・国指定重要文化財「方広寺七尊菩薩堂」崖地崩落

- ・県指定有形文化財「龍潭寺井伊家霊屋」屋根破損
- ・市指定史跡「姫街道の松並木」倒木
- ・市指定天然記念物「秋葉神社社叢」倒木
- ・市指定天然記念物「気賀のウルシ」枝折
- ・国登録有形文化財「天竜浜名湖鉄道扇形車庫」ほか

国選択無形民俗文化財「滝沢のシシウチ行事」伝承状況聞き取り調査（北区滝沢町）

旧勝坂小学校建造物現状確認調査（天竜区春野町）

県指定有形文化財「木造釈迦如来及両脇侍像」保存修理状況確認調査（北区引佐町）

旧平野家住宅現状確認調査（浜北区貴布祢）

背山薬師堂現状確認調査（北区引佐町）

県指定無形民俗文化財「横尾歌舞伎」伝承状況確認調査（北区引佐町）

県指定無形民俗文化財「川合花の舞」伝承状況確認調査（天竜区佐久間町）

市指定史跡「入野古墳」現状確認調査（西区入野町）

国指定重要無形民俗文化財「遠江のひよんどりとおくない」伝承状況確認調査（北区、天竜区）

市指定史跡「大平城跡」現状確認調査（浜北区大平）

国指定史跡「三岳城跡」現状確認調査（北区引佐町）

市指定史跡「愛宕平古墳」現状確認調査（北区三ヶ日町）

文化財防火デー防火訓練実施状況確認調査（西区、北区）

市指定有形文化財「旧浜松銀行協会」現状確認調査（中区栄町）

市指定有形文化財「上島新田組秋葉山常夜燈鞘堂」保存修理工事完成検査（浜北区上島）

国指定重要無形民俗文化財「西浦の田楽」伝承状況確認調査（天竜区水窪町）

山城出土品調査（西区神原町）

古墳時代出土品調査（西区神原町）

県指定有形文化財「紙本着色独湛禅師像」ほか保存修理完成検査（北区細江町）

県指定有形文化財「旧王子製紙製品倉庫」保存修理工事完成検査（天竜区春野町）

国指定重要文化財「方広寺七尊菩薩堂」災害復旧工事完成検査（北区引佐町）

（２）天然記念物樹木等緊急現状確認調査事業〔本庁〕

天然記念物をはじめとした指定文化財に関わる樹木について、倒木や枯枝落下の危険性などの管理上の問題点を確認した。

市指定天然記念物「妙相寺のイヌマキ」現状確認（西区志都呂町）

台風15号被害状況調査（全地域）

市指定天然記念物「奥山のムクノキ」現状確認（北区引佐町）

国指定天然記念物「北浜の大カヤノキ」剪定・支柱等補修状況確認（浜北区本沢合）

市指定天然記念物「気賀のウルシ」現状確認（北区細江町）

市指定天然記念物「玉洞寺のサザンカ」現状確認（北区三ヶ日町）

県指定天然記念物「鶴代のマンサク群落」現状確認（北区三ヶ日町）

県指定天然記念物「春野スギ」現状確認（天竜区春野町）

市指定天然記念物「西気賀のマンサク」現状確認（北区細江町）

(3) 文化財ガイドブックの作成〔本庁〕

① 『天浜線と沿線の近代化遺産』（浜松市文化財ブックレット6）

平成10年と平成23年に国の登録有形文化財に登録された天竜浜名湖鉄道の鉄道遺産と沿線の近代化遺産について、写真や図面も交えて分かりやすく紹介したガイドブック。A5判、64P、2,500部印刷（有償配布）。

② 『浜松城と城下をめぐる』（浜松市文化財ブックレット5）改訂版

A5判、64P、1,500部印刷（有償配布）。

(4) 人材育成講座の開催〔本庁〕（博物館との連携事業）

文化財ガイドボランティアの育成や、文化財保護意識の高揚を目的として、「浜松地域人づくり大学」の一環で文化財ボランティア養成講座を開催した。また、市制100周年記念事業として、市民歴史講座「徳川塾」を開催した。

① 文化財ボランティア養成講座（全3回／計96名）

東日本大震災は、浜松市民にもとって衝撃的であっただけでなく、東海大地震の発生が予想される中、天災やその救助・救援にはたいへん関心が高い。そこで、被災文化財を救うために活動している文化財レスキューの組織や文化財ボランティアの活動を紹介し、災害時も含めた文化財保護の救済に力添えいただけるボランティア養成を目的に実施した。

講師は外部講師のほか、文化財課職員が行った。

② 市民歴史講座「徳川塾」（全6回／計624名）

徳川家康が生きた時代や文化の理解を深めるため、講師は、研究をリードしている専門の外部講師に依頼し、実施した。

B 文化財保護事業

指定文化財の管理

（本庁）

① 指定文化財環境整備事業

旧浜松市域の古墳・史跡・一里塚等10箇所の除草及び植栽の剪定を年間2～3回実施し、見学の利便性を図る等、市民がこれらの文化財を活用しやすいように環境整備を行った。

② 指定文化財緊急補修工事事業

台風15号の被害対応などで、市指定史跡「姫街道の松並木」及び「凌苔庵跡」の看板修繕工事、市指定史跡「郷ヶ平4号墳」及び「入野古墳」の樹木伐採工事、重要文化財「鈴木家住宅」・国指定史跡「三岳城跡」・市指定史跡「愛宕平古墳」の施設補修等の工事を行った。

③ 文化財看板現況調査及び整備方針策定事業

233件の指定文化財等における看板の現状調査を実施することにより、看板の整備や維持管理のための基礎資料の充実を図るとともに、今後の整備方針を策定した。（緊急雇用創出事業）

(西区)

[舞阪地域自治センター]

東海道松並木等美化清掃業務

市指定史跡の美化維持のため、東海道の松並木とその周辺施設、今切渡し舞坂渡船場、舞坂一里塚の樹木の剪定や除草・清掃を行った。

(北区)

文化財関係施設管理業務

滝峯銅鐸公園（県史跡）・陣座ヶ谷古墳（県史跡）、神内平古墳公園、伝堀川城跡、井伊直親の墓、文化財倉庫、計 6 箇所の樹木管理、草刈、清掃等管理を 1 箇所につき年 2～3 回程度行った。

[引佐地域自治センター]

①記念物保存管理委託事業

引佐町域の国指定史跡三岳城跡、県指定史跡天白磐座遺跡、県指定天然記念物シブカワツツジ群落、市指定史跡北岡大塚古墳等、市指定史跡馬場平古墳、市指定史跡白山古墳の除草や植栽の剪定等(年間 2～3 回程度)を地元の自治会へ依頼し、5 月～12 月までの期間に実施し、市内外からの見学の利便性を図るなど、市民が文化財を活用しやすい環境整備を行った。

②県指定無形民俗文化財「横尾歌舞伎」子供歌舞伎交流事業

日本の子供歌舞伎全体の振興を図るために開催されている第 13 回全国子供歌舞伎フェスティバル in 小松への横尾歌舞伎少年保存団の参加を支援し、保存団体の交流及び意見交換を行った。

開催地－石川県小松市こまつ芸術劇場うらら、日時－5 月 14 日（土）、参加者数－25 名

[三ヶ日地域自治センター]

文化財関係施設保全管理業務

平山凌苔庵遺跡、本坂一里塚、宇志瓦塔遺跡、姫街道、千頭峯城跡、只木遺跡、西山古墳の 7 箇所の史跡等の景観保持、市民利用の利便性を確保するため、樹木管理及び草刈等を行った。

(浜北区)

① 浜北区内の文化財草刈り・清掃

文化財の環境整備を図るため、委託により赤門上古墳（県指定史跡）、向野古墳（市指定史跡）、二本ヶ谷積石塚等計 9 箇所の、草刈りや清掃を実施した。

② 国指定天然記念物「北浜の大カヤノキ」保護事業

平成 20 年度まで行ってきた保護事業の成果の上に立って、引き続き経過観察と保護措置（土壌膨軟化と土壌改良、樹幹根元保護、経過観察によるシロアリ駆除等適宜処置）を実施した。

(天竜区)

ヒラシロ遺跡（市指定史跡）の管理を行った。

[春野地域自治センター]

旧王子製紙製品倉庫（県指定有形文化財）の管理を行った。

窓枠及び窓ガラスの修理計画を作成し、それに基づき修繕工事（県費補助事業）を実施した。

[水窪地域自治センター]

① 高根城跡（市指定史跡）の管理

高根城跡の管理を目的に、周辺の草刈を2回実施した。

② 国特別天然記念物「カモシカ」食害対策事業（国庫補助事業）

植林したヒノキ（幼齢造林木 1～5年生）を中心に特別天然記念物カモシカによる枝葉の食害が広がっているため。カモシカと造林地の双方を保護する措置として、植林直後の造林地を防護柵で囲み、植林した幼齢木が成長するまでの期間をカモシカによる食害から防護する事業。

番号	設置箇所	延長 (m)	面積 (ha)
1	水窪町奥領家	526	0.70
2	水窪町地頭方	463	0.89
3	水窪町地頭方	611	1.86
	合計	1,600	3.45

C 文化財施設保存・公開事業

(1) 市指定有形文化財（建造物）「舞坂宿脇本陣」維持管理事業 [舞阪地域自治センター]

「舞坂宿脇本陣」展示施設の維持管理（警備、樹木管理、消防設備保守、施設管理等）を行った。見学者数：6,727人

(2) 重要文化財「中村家住宅」管理事業 [西区]

「中村家住宅」展示施設の維持管理（警備、樹木管理、施設修繕、施設管理等）を行った。
見学者数 高校生以上：1,502人 幼児小中学生等：273人 計1,775人
台風等による塀の瓦修繕及び枝木処分を行った。

(3) 重要文化財「鈴木家住宅」維持管理事業 [引佐地域自治センター]

重要文化財を虫害及びカビから守る為、年2回の燻蒸作業を専門業者に委託し行った。また文化財を火災等から守る為に、消防用設備保守点検を年2回実施し防火予防に努めた。（見学者数678人）

(4) 賀茂真淵記念館維持管理事業 [本庁]

文化政策課からの移管事業（平成23年度から）。

郷土の生んだ偉大な国学者賀茂真淵の業績及び関係資料を収集・展示するため、施設の管

理運営を行う指定管理者として、(社)浜松史蹟調査顕彰会を指定し、指定管理料を執行した。

年間来場者数：4,380 人

◇平常展・特別展

区分	テーマ		開催日	人数	人数計
平常展	H22 度 後 期	賀茂真淵と近世国学者の国語研究	H22.12.3～ H23.5.31	599名 ※H23.4.1～	1,941名
	前 期	“万葉学者 賀茂真淵”の万葉研究を巡って	H23.6.2～6.28	282名	
	後 期		H24.1.4～5.30	1,060名 ※～ H24.3.31	
特別展	(浜松市制100周年記念事業) 賀茂真淵と浜松の国学		H23.7.1～12.28		2,439名

◇特別企画 (人数は平常展・特別展に含む)

区分	テーマ	開催日	人数
特別企画	(「ふじのくに祝祭年間」特別企画) 賀茂真淵 春 特別展覧	H24.2.23～2.29	95名

◇講座・学習会等 (人数は平常展・特別展に含む)

区分	テーマ	開催日	人数	人数計
夏期講座	『玉かしは』と『門田の八束穂』に見る遠江の神社	H23.7.17 H23.8.28	50名	128名
	戦国期遠江国人天方氏	H23.7.24	37名	
	貴族・連歌師と戦国時代の遠江	H23.9.4	28名	
	古文書解説会	H23.7.12 H23.8.30	13名	
冬期講座	豪農・豪商ネットワークと地域の産業化	H24.1.21 H24.1.28	77名	303名
	遠江の刀鍛冶と仏像の鋳物師	H24.2.4	81名	
	浜松藩独礼庄屋の所在と家系	H24.2.11	99名	
	賀茂真淵高弟 本居宣長著『管笠日記』を読むⅡ	H24.2.18 H24.2.25	46名	
歴史文化講座	「金石に刻まれたメッセージ」	H23.10.28	80名	440名
	「浜松で発掘された古代の文字」	H23.11.4		
	「印章と印」	H23.11.11		
	「南北朝期の遠江の城」	H23.9.29	158名	

	「戦国期の遠江の城」	H23.10.6		202名
	「近世の遠江の城」	H23.10.13		
	『万葉集』巻二十 防人歌群をよむ 全5回	H23.9.28		
		H23.10.5		
		H23.10.12		
H23.10.19				
	H23.11.2			
小中学生のための	賀茂真淵に関する写真及び参考圖書の展示	H23.8.4～8.26	133名	300名
夏休み学習展	親子手習い教室	H23.7.30～31	97名	
	親子手習い教室 作品展	H23.10.21～10.27	70名	

D 文化財保存・ネットワーク化事業

(1) 市指定天然記念物「アカウミガメ」保護事業〔南区〕

① アカウミガメ及びその産卵地の保護（平成23年5月～11月）

指定区域内のアカウミガメ及びその産卵地の保護監視、生態及びその産卵状況の調査等を行った。

地域区分	産卵巣数（巣）	保護卵数（個）
文化財指定区域	109	12,584

② 親と子のウミガメ教室（平成23年7月～8月）

ウミガメ産卵期間中に親子で実際のウミガメ保護活動を体験し、文化財や自然保護への理解を深める教室（全3回）を開催した。ウミガメ講座、海岸ウォッチング、早朝の産卵調査及び卵の保護、子ガメの放流会等を行った。

開催日	参加家族（組）	人数（人）
7/23	67	208
7/30	68	204
8/27	67	216
計	202	628

③ アカウミガメ卵保護柵（ふ化小屋）解体・新築（臨時）

平成9年に建設したアカウミガメ卵の保護柵（ふ化小屋）が、劣化が進み倒壊の危険が生じたため解体撤去し、新設した。

(2) 「遠州山辺の道」整備事業〔浜北区〕

三方原台地縁辺部から浜北北部丘陵南麓部へいたる、文化財等の地域資源散策コース「遠州山辺の道」の整備・活用に向けて、平成22年度に引き続きワークショップを開催し、各種整備内容の検討に市民の意見を反映させたほか、誘導看板28基を参加者が手作りで、エリア案内看板1基（岩水寺さくらの里）を市が設置した。

また、浜北区役所費の「ふるさと再発見事業」と連携してウォーキングイベントを実施した。

①ワークショップ（9回開催）

回	開催日	参加者	内 容	回	開催日	参加者	内 容	回	開催日	参加者	内 容
1	5/21	24名	会の総会	5	9/17	24名	誘導看板作成	9	2/18	26名	総 括
2	6/18	23名	イベント計画	6	11/26	27名	誘導看板設置				
3	7/23	23名	イベント計画	7	12/17	28名	誘導看板打合せ				
4	8/27	23名	イベント準備	8	1/21	24名	事業打合せ				

②ウォーキングイベント

I. 遠州山辺の道古墳めぐりウォーク

開催日	10/29(土)	参加者	32名	行き先	赤門上古墳、稲荷山古墳、二本ヶ谷積石塚群他
-----	----------	-----	-----	-----	-----------------------

II. 遠州山辺の道「初庚申祭と宮口めぐりウォーク」

開催日	1/8(土)	参加者	50名	行き先	庚申寺、宮口駅、興覚寺後古墳、六所神社他
-----	--------	-----	-----	-----	----------------------

III. 遠州山辺の道「金刀比羅神社春祭りお神楽見学」

開催日	3/4(日)	参加者	30名	行き先	竜泉寺、高根神社、金刀比羅神社他
-----	--------	-----	-----	-----	------------------

(3) 城跡整備活用事業〔本庁〕

浜松市内には、南北朝期から戦国時代にかけての城や砦跡が良好な状態で保存されている。こうした城跡は住民の関心も高く、観光等の地域振興にも寄与する文化財である。

平成 23 年度は、昨年度の主要城郭サインの現状調査を踏まえ、浜松市主要城郭サイン整備計画策定業務や、城跡案内看板整備工事等を実施した。

① 浜松市主要城郭サイン整備計画策定業務

市内の主要 9 城郭を対象に、文化財サインの整備の考え方を整理した上で、市内の主要城郭のサインにおいて、来訪者にわかりやすく、正しい情報を伝達することを主眼に置き、平成 23 年度に策定した浜松市主要城郭サイン配置計画を基に、全体的な統一感を持ち、史跡としての価値をアピールするため「浜松市主要城郭サイン整備計画」を策定した。

② 城跡案内看板整備工事

「浜松市主要城郭サイン整備計画」に基づき、案内看板を設置した。：2 城跡、21 基

(4) 伝統芸能フェスティバル開催事業（新規）〔本庁〕

浜松市制 100 周年記念事業の一環として、市内の民俗芸能保存団体が一堂に会し、芸能を披露する事業を開催した。

日程：平成 23 年 7 月 2 日（土）

会場：浜松アリーナ（メインアリーナ）

出演：市内の国・県・市指定無形民俗文化財保存団体

西浦田楽保存会、川名ひよどり保存会、滝沢放歌踊り保存会（浜松市立都田小学校

放歌踊り倶楽部)、横尾歌舞伎保存会、川合花の舞保存会、遠州大念仏保存会(笠井新田巴組、貴布祢郷中組)

入場者数:1,500人

備考:当日、会場において東日本大震災被災者支援の募金を実施した。

(5) 全国山城サミット開催事業(新規)[本庁]

浜松市制100周年記念事業の一環として、第18回全国山城サミット連絡協議会浜松大会とそのイベントを開催した。

○第18回全国山城サミット連絡協議会 浜松大会

日程:平成23年11月19日(土)、20日(日)

会場:アクティシティ浜松・中ホール(19日)、二俣城・鳥羽山城(20日)

入場者(参加者)数:1,002人(19日)、71人(20日)

○イベント

日程:平成23年11月5日(土)、13日(日)

会場:千頭峯城ほか(北区三ヶ日町)(5日)、なゆたホール(浜北区)(13日)

入場者(参加者)数:35人(5日)、262人(13日)

2. 文化財の新指定等

浜松市では、平成23年度に、新たに9件（国指定1件、県指定1件、国登録7件）の文化財が指定・登録された。ここでは新しく指定・登録された文化財について紹介する。

I 新たに指定されたもの

【国指定重要文化財（彫刻）】

木造地藏菩薩立像 1 軀

指定年月日 平成23年6月27日

所在地 浜北区根堅 2238

所有者 宗教法人岩水寺

制作年代 鎌倉時代中期

指定理由 三. 題材、品質、形状又は技法等の点で顕著な特異性を示すもの

本像は檜材、寄木造、玉眼。等身大（像高165.3センチメートル）の地藏菩薩像である。裸形に造って実物に縫製した袈裟をまとわせる、いわゆる裸形着装像（らぎょうちゃくそうぞう）である。また、唇をわずかに開いて水晶製の歯を見せ（歯吹）、足の爪も水晶で造っている。以上のような形式的な希少さに加え、造形の上でも非常に優れている。裸形着装像の性格を考えると注目される新出作例であり、表面彩色まで当初のものをとどめる保存状態の良好さも貴重である。

なお、造像事情は明らかでない。ただし、岩水寺には北条時頼の廻国伝説が伝えられていることや、隣接する中屋遺跡から本像造立と前後する頃の鎌倉地方とのかかわりを示す瓦が出土していることは、造立の背景を探るうえで何らかの関連性があるものと思われる。

岩水寺は真言宗の寺で、伝承によれば奈良時代に行基によって開かれたとされる。本像は岩水寺本堂に安置されている秘仏であり、通常は非公開である。



地藏菩薩立像



岩水寺全景

【静岡県指定有形文化財（彫刻）】

木造釈迦如来坐像及び両脇侍像 3 軀

釈迦如来坐像の背面に寛文七年四月十六日、洛陽大仏師法橋康祐の銘あり
木造達磨大師坐像・伝武帝倚像 2 軀

木造二十四善神立像 24 軀

指定年月日 平成 23 年 12 月 2 日

所在地 北区細江町中川 65-2

所有者 宗教法人宝林寺

制作年代 江戸時代初期

指定理由 二、静岡県の絵画・彫刻史上特に意義のある資料となるもの

三、題材、品質、形状又は技法等の点で顕著な特異性を示すもの

四、特殊な作者、流派あるいは地方様式等を代表する顕著なもの

宝林寺は、江戸時代初期の寛文 4（1664）年に明僧独湛性登によって開かれた黄檗宗の寺院である。寛文 7（1667）年に建立された仏殿にあわせて 29 軀の彫刻が安置されている。

造像技法はいずれも寄木造、金箔、金泥、彩色、彫眼である。中央に安置されている釈迦如来坐像は、康祐が寛文 7（1667）年に造立したもので、仏殿完成直後に安置されたことがわかる。本像は、当時の新しい様式（中国明代末の様式）を取り入れており、極めて整った造形

を堅実な造像技法によって表現したものであり、江戸時代初期の優れた仏像の一体といえる。その他の像も、作風と造像技法、頭部内納入の紙片から釈迦如来坐像とほぼ同時期に康祐（または康祐工房）によって造立されたと考えられる。

造像の背景や制作年、作者が確認できるとともに、仏殿内安置の 29 軀の像が一体として今日まで伝えられてきた意義は大きい。

江戸時代以降に作られた彫刻としては初の県指定となる。



仏殿内安置像①



仏殿内安置像②



仏殿内安置像③

II 新たに登録されたもの

【国登録有形文化財（建造物）】

旧住吉浄水場ポンプ室 ほか6件

登録年月日 平成24年2月23日

所在地 下記のとおり

所有者 浜松市

種別 生活関連

登録基準 国土の歴史的景観に寄与しているもの

浜松市が建設した水道施設で、設計を市水道課が担当した。常光水源池と住吉浄水場をあわせて、建設当時の姿を良好に留めており、水源池には浄水場に水を圧送するためのポンプ室、浄水場には水の経路順に、着水井、接合井、配水池、直送ポンプ井、ポンプ室が並び、加えて浄水場には正門が残る。各建物は実用性を満たすだけでなく、外壁などには、古典主義的な表現をはじめ当時の国内外で流行していた意匠を混在させた豊かな装飾がなされている。また浄水場ポンプ室の内部には当初の機械類が多く現存するなど、昭和初期の水道施設の様相をよく伝える。

	名称	員数	所在地	建設年代
1	旧住吉浄水場着水井	1基	中区住吉 5-182-1	昭和6年
2	旧住吉浄水場接合井	1基	中区住吉 5-283	昭和6年
3	旧住吉浄水場配水池	1基	中区住吉 5-284	昭和6年
4	旧住吉浄水場直送ポンプ井	1基	中区住吉 5-283	昭和6年
5	旧住吉浄水場ポンプ室	1棟	中区住吉 5-283	昭和6年
6	旧住吉浄水場正門	1基	中区住吉 5-182-1	昭和6年
7	旧常光水源池ポンプ室	1棟	東区常光町字矢来 773	昭和6年

今回登録の主な事例

3連半円アーチの塔屋がシンボル

旧住吉浄水場配水池

住吉の敷地全体の最も西側に位置する。池は隔壁で2つに区切られ、1つの池の大きさは南北34メートル×東西25.4メートル、有効水深4.25メートルの鉄筋コンクリート造。2つの池の間にはトンネル断面の監視通路が通り、南北両端に通路への入口となる塔屋が立つ。この塔屋は入口側に3連半円アーチの開口部をもち、側面にも2つの半円アーチの開口部がある。小



配水池（南から）



配水池（北から）

いながらも装飾豊かな、一段と高いところに位置して、見られることを意識したデザインといえる。

浜松市水道施設のランドマーク

旧住吉浄水場ポンプ室

住吉の敷地全体の南側に位置する。ポンプ室は東西 23.0 メートル、南北 18.6 メートルの長方形に、東西 9.8 メートル、南北 3.0 メートルの配電盤室が北側に張り出す（ポーチ等除く）。鉄筋コンクリート造で、階数としては平屋だが、外観は 3 階建て程度になる大空間を擁する。放物線アーチを描く開口部がこの建築物の意匠面を最も特徴付ける。南面の入口両脇、北面の両端、東西面の両端に 2 段ずつ開けられている。松を幾何学的に図案化した入口扉上部のステンドグラスが装飾的な要素として注目される。

- 1) ポンプ類が一同に納められた大空間とそれを支える構造
- 2) 時代の特徴を示すデザイン
- 3) タイル、ステンドグラス、レリーフ等の控えめで抑制のきいた装飾といった建築的特徴を有し、内外とも非常に丁寧な仕上げがなされている。



ポンプ室入口



ポンプ室内

浜松市の水の道の出発地点

旧常光水源地ポンプ室

天竜川右岸の東区常光町地内に位置する。東西約 14.8 メートル、南北約 11.8 メートルの長方形に、東西約 4 メートル、南北約 5.4 メートルの前室が東側に張り出す（ポーチ等除く）。鉄筋コンクリート造で、東側の天竜川右岸の堤防に入口が向けられ、入口側は平屋だが、堤防下から見ると 2 階建てに見え、内部は 2 層分の高さをもつ空間が広がる。外部の意匠的にはアールデコと古典主義的な要素が同居しており、旧住吉浄水場ポンプ室と材料や仕上げに共通点があるが、デザイン的にはやや異なっている。



旧常光水源地ポンプ室

3. 浜松市伝統芸能の集い

～浜松の祈り 明日への祈り～

浜松市制 100 周年記念事業として、浜松アリーナメインアリーナを会場に開催した。当日は開場 4 時間以上前の朝 8 時から並ばれた方もいるなど、1,500 名の来場があった。市内だけでなく、市外からも多くの方にお越しいただき、浜松の文化の素晴らしさ、魅力を広く PR することができた。また、出演者の熱い心意気が会場全体を包み込み、来場者各々が文化や伝統を守り伝えることの大切さを感じ取っていただけたものと確信している。

また、当日会場では、東日本大震災被災者支援のための義援金募金を行った。横尾歌舞伎保存会ほか出演団体や来場者から 179,513 円の募金をいただき、全額を日本赤十字社に寄附した。



浜松市伝統芸能の集いポスター

■趣旨

天竜川や浜名湖など豊かな自然に恵まれた浜松市には、地域において連綿と受け継がれてきた民俗芸能が多くあります。いにしへの時代から、私たちは自然の恵みに感謝するとともに、一方ではその強大な力に畏怖しその荒ぶりを鎮めるため、芸能というかたちで「祈り」を捧げてきました。

市制 100 周年を迎える今年、本市が全国に誇る民俗芸能を一堂に会し、浜松への魅力・誇り・愛着を高め、合わせて、東日本大震災により被災された方々を励まし、被災地の復興を支援するための事業を開催します。

未曾有の被害を受けた被災地のみならず、日本中が復興への歩みを始めた中、人々の心を支え、未来への希望をつなぎ、地域を再生していくうえで、有史以来、幾多の困難を乗り越え現在に伝えられてきた伝統芸能が大きな力を持ちうると私たちは考えます。

■開催状況

(1) 事業名：浜松市伝統芸能の集い ～浜松の祈り 明日への祈り～

(2) 日 時：平成 23 年 7 月 2 日（土）

開場 12:30 開演 13:30 終演 17:15

(3) 出 演：浜松市立都田小放歌踊り倶楽部、滝沢放歌踊り保存会、西浦田楽保存会、
遠州大念仏貴布祢郷中組、遠州大念仏笠井新田巴組、横尾歌舞伎保存会、
川合花の舞保存会、川名ひよどり保存会（出演順）

(4) 会 場：浜松アリーナ（メインアリーナ）

- (5) 入場料：無料（全席自由） ※事前申込み不要
- (6) 入場者数：1,500名
- (7) 主催：浜松市、浜松市教育委員会、浜松市伝統芸能フェスティバル実行委員会
- (8) 助成：財団法人はましん地域振興財団、公益信託チヨタ遠越準一文化振興基金
- (9) 後援：静岡新聞社・静岡放送、中日新聞東海本社、NHK 浜松支局、
テレビ静岡、静岡朝日テレビ、静岡第一テレビ、ケーブル・ウィンディ、
K-MIX、FM-Haro！、静岡県文化財保存協会、
(財)浜松観光コンベンションビューロー、(財)浜松市文化振興財団
- (10) 協力：静岡県文化芸術大学、静岡県立天竜林業高等学校、遠州鉄道株式会社
- (11) 企画・運営：浜松市伝統芸能フェスティバル実行委員会（事務局 浜松市文化財課）
- (12) 舞台・音響・照明・映像・制作：株式会社ステージ・ループ
- (13) 司会：泉谷むつみ
- (14) 記録：ステージ・ループ（映像）、F45（写真）
- (15) スタッフ：実行委員会事務局長 佐野一夫ほか39名
- (16) 広報：静岡新聞、中日新聞等にて事前・事後報道
NHK 静岡「たっぷりしずおか」、ケーブル・ウィンディCM、
SBS ラジオ「ラジオウエスト」「ラジオ市長室」
びぶれ浜松6月23日号、広報はままつ全市版6月5日号
浜松市文化財情報ほか
- (17) その他：当日会場にて東日本震災で被災された皆さまを支援するための義援金を募集した。
総額 179,513 円。

芸能名／団体名／演目（出演順）

- ・ 滝沢の放歌踊／滝沢放歌踊り保存会、都田小学校放歌踊り倶楽部
- ・ 西浦の田楽／西浦田楽保存会／早乙女、水口、弁慶、田楽舞
- ・ 遠州大念仏／貴布祢郷中組、笠井新田巴組



浜松市伝統芸能の集いステージ



浜松市長あいさつ

- ・ 横尾歌舞伎／横尾歌舞伎保存会／菅原伝授手習鑑 車曳きの場
- ・ 川合花の舞／川合花の舞保存会／花の舞、榊鬼
- ・ 川名のひよんどり／川名ひよんどり保存会／順の舞、片剣の舞、両イナムラの舞、獅子の舞

上演された芸能

① 滝沢の放歌踊

滝沢の放歌踊は、北区滝沢町で受け継がれてきた民俗芸能で、先祖の回向(えこう)を目的にしている。主に月8日、14日の2日間で地域の初盆宅を回り、念仏踊りで祖先供養をする。滝沢に伝わる放歌踊は、禅宗系の念仏僧である放下僧(ほうかそう)が関係する念仏踊で、その起源は室町時代にさかのぼるが、滝沢には江戸時代になって、愛知県新城市から引佐町渋川、同町東久留女木を経て伝えられたといわれている。また、かつては、



滝沢放歌踊り上演風景①

先祖の回向目的だけでなく、日照りの際の雨乞いや害虫発生時の虫送りのために行われたとも伝えられている。その後、明治年間と戦中に一時中断しましたが、昭和22年(1947)いち早く復活した。

通常、放歌踊は初盆宅の庭先で行われる。双盤(そうばん)の合図で放歌うたが始まり、放歌うたが終わると笛が輪くずしを吹き、練り拍子に変わる。太鼓打ちはネリボウに持ち替え、左手で太鼓の紐を持って賑やかに打つ。すると大団扇を持ったひよっとこと扇子を持ったおかめが登場し、とぼけた動きで見物人を喜ばせる。警護は輪くずしを聞くとお暇をして退場の隊列を整え、施主のあいさつを受けると道ばやしに切り替えて次の家に向かう。

今回は滝沢放歌踊り保存会の指導を受けた浜松市立都田小学校放歌踊り倶楽部が上演した。

子どもたちを指導する滝沢放歌踊り保存会は、地域の文化遺産を後世に残し伝えるため、地域をあげて後継者養成に取り組んでいる。地元小中学校への指導を通して、滝沢の児童生徒は後継者に、他地区の児童生徒は放歌踊の応援団・理解者として、伝承活動を支えている。

都田小学校放歌踊り倶楽部は、都田中学校と合同で、毎月第2、第4日曜日の午前中を中心に、保存会の指導を受けて活動している。平成23年度は1年生から6年生までの全学年から計27人が参加した。活動の成果を披露するため、運動会ほか年間何度か発表を行っている。



滝沢放歌踊り上演風景②

② 西浦の田楽

西浦の田楽は、水窪町西浦地区観音堂境内で、旧暦1月18日の月の出から、翌19日の日の出まで執り行われる農祭り、五穀豊穡、無病息災、子孫繁栄、水火の難を除く神事である。神事は地能3番、はね能12番、獅子舞、しずめ、火の王、水の王で構成されている。伝説では、養老3年(719)に行基菩薩がこの地に来て、聖観音の仏像と仮面を作り、その年から祭りが始められ、今日に及んでいると伝えられている。



西浦の田楽上演風景①

長い歴史を持つ西浦の田楽は、能衆と呼ばれる世襲の家々によって守り伝えられてきた。しかし、時代の流れとともに、過疎化の波が押し寄せ、高度成長期以降、世襲の一角が崩れ始めた。残った能衆で欠けた役を補い、平成23年時点で、13戸が親子ともども参加することで、何一つ崩すことなく、頑なに原型のままを伝承している。

今回は、能衆の家々から18名が出演し、地能から「水口」、スリササラ・詞章・笛・太鼓が和した調子のよい華やかな舞の「早乙女(花ザサラ、はんこいつき)」、ピンササラを手に口拍子も高らかに躍る「田楽舞」の3番、はね能から赤鬼の面をつけた弁慶と、したいの面をつけた牛若丸の二人舞「弁慶」を1番、計4番が演じられた。

遠い祖先から代々受け継がれてきた田楽を守り、次の世代に伝えるのが務めと、信仰篤く、日々精進しながら伝承活動に取り組んでいる。

西浦の田楽は、本来舞台上で演じるものではない。国の重要無形民俗文化財指定第1号ということで、全国各地から出演の依頼が舞い込むが、原則外部公演は行わない。今回は、浜松市制100周年と東日本大震災被災者支援のため特別に出演した。

浜松市、そして日本全体が幸せであるように、平和であることを祈り、舞が奉納された。



西浦の田楽上演風景②



西浦の田楽上演風景③

③ 遠州大念仏

遠州大念仏の起源は、戦国時代、武田・徳川両軍が戦った三方ヶ原の戦いの戦死者の霊を慰めるため供養したのが始まりと伝えられている。また、農作物の害虫や疫病を避けるため行われたともいわれている。現在では、各地域の初盆供養として、7月13日・14日（一部地域は8月）のお盆に、新盆の家へ向かい約40～50分にわたる念仏の詠唱が行われる。

念仏の列はおおまかに、引手(ひきて)と呼ばれる施主の案内役、先導役の頭先(かしらさき)、灯笼を持った頭(かしら)、幟(のぼり)、双盤(そうばん)、笛、摺鉦(すりしょう)、太鼓、組名入りの提灯持ちである供回り(ともまわり)、行進の調整役の押しという構成になる。

演奏は、笛、太鼓、双盤など器楽による囃子と、声楽による念仏歌の2つに大別できる。双盤の長い余韻が遠州大念仏の特徴のひとつである。新盆の家に向かう時のゆったりとした歩調の「道ばやし」、庭先で霊や遺族を慰める「歌枕」、帰る時のテンポよくリズムカルな「庭ばやし」とも、それぞれの組で独自の節回しや踊りが発達している。現在、浜松市を中心として、磐田市、袋井市にわたる67組が遠州大念仏保存会に所属しているが、今回は浜北区と東区の組が出演した。

「貴布祢郷中組」

明治20年頃まで実施していたが長らく中断後、昭和49年有志により再興された。双盤、太鼓などを新たに揃え、念仏の振付を西美園組から指導を受けた。出ばやしでの頭上高くあがる太鼓は、蛙の立ち跳びと称され、郷中組の特徴となっている。

「笠井新田巴組」

地元出身の幅広い年代層で構成され、大念仏が地域の文化財として3世代にわたって傳承されている。巴組の特色は、躍動感あふれるダイナミックな動きと緩やかな動きがミックスされており、大河の流れがイメージされている。バックに流れる念仏申しは、人々の心に伝わるような大きな声と分かりやすい発声となっている。



上演タイトル



貴布祢郷中組上演風景



笠井新田巴組上演風景

④ 横尾歌舞伎

歌舞伎は江戸時代、江戸、京都、大板などで人気のある大衆芸能であり、これが街道を通り各地に伝えられ村人自身が演じる地芝居となった。横尾歌舞伎の起源は定かではないが、寛政年間の御定書に歌舞伎に関する記載があることから、20年以上前から当地で歌舞伎が行われてきたことが分かっている。今回は、横尾歌舞伎保存会若手の十八番「菅原伝授手習鑑(すがわらでんじゅてならいかのみ)車曳きの場(くるまびきのば)」が上演された。

物語は平安時代、菅丞相(かんしょうじょう)と呼ばれた菅原道真と周囲の人々の生き様を描いたもので「車曳きの場」は全5段のうち3段目にあたる。三つ子の兄弟である松王丸、梅王丸、桜丸はわけあって敵味方になっているが、家族の絆、主従の絆を感じさせる荒事の代表的な一幕。荒事(あらごと)を意味する梅王丸の二本隈(にほんぐま)、和事を意味する桜丸のむきみ、敵役を表す時平公の公卿荒れ(くげあれ)など、主な登場人物は隈取(くまどり)で各役の性格を表現している。また、飛び六法、元禄見得、石投げの見得など、特有の所作をいたるところで見せる、歌舞伎のエッセンスを凝縮した美しい一幕。

横尾歌舞伎は役者、太夫、三味線弾きから、振付、着付、床山、大小道具、舞台係などの裏方を含め、全て地区の人たちの手で賄われている。江戸→明治頃から台本、衣裳、髷、大小道具等を先人たちが買い求め、又は制作、修理しながら残し伝えてきた。顔を作る化粧も、師匠から代々伝えられ、役者自らがやっている。現在、保存会員は20代から80代まで幅広い年齢層で構成されており、役者だけでなく、多くのスタッフと上演舞台の質の高さを誇っている。また、文化財少年団や青少年三味線教室を組織し、積極的な後継者育成活動に取り組み、文化遺産を後世に伝える努力をしている。



横尾歌舞伎上演風景①



横尾歌舞伎上演風景②



梅王丸の見え

⑤ 川合花の舞

川合花の舞は、佐久間町川合に鎮座する八坂神社に伝承されている五穀豊穡、無病息災を祈る湯立神楽である。三遠南信地域に多く分布する霜月神楽で、本来は霜月、旧暦の11月の厳寒の頃の行事だが、現在では10月の最終土曜日に夜を徹して行われる。その起源は、中世の頃、この地に修行の場を求めてやってきた修験者たちによって伝えられた神事が、在地の信仰と習合し、成立、定着したものといわれている。芸能自体が「花の舞」と呼ばれているが、子どもたちがかわいい花笠を被って踊る「花の舞」という演目があることから、この舞が強調され、芸能全体をあらわす名称になったといわれている。花そのものは、神霊の依代でもあり、穀物の豊かな稔りを約束する花穂のシンボルとなっている。川合花の舞保存会は、川合地区の全80戸あまりが会員となり、伝承活動に取り組んでいる。若い世代の参加を促し、後継者育成に力を入れ、地域をあげて活動している。

川合花の舞の、基本的な舞の構成は「地固めの舞」「二ツ舞」「三ツ舞」「山見鬼」「四ツ舞」「神鬼」「おかめの舞」「湯立の舞」の構成となっている。湯釜を中心に据えた舞処(まいど)と呼ばれる舞台装置の中で舞が奉納される。今回は、花笠を被った小学生の児童4人が楽にあわせて五方に舞う「花の四ツ舞」と、赤鬼が舞処いっぱい乱舞する「神鬼」が披露された。



花の舞上演風景①



花の舞上演風景②



神鬼上演風景①



神鬼上演風景②

⑥ 川名のひよんどり

川名のひよんどりは、芸能が奉納される福満寺薬師堂（通称八日堂）本尊の木造薬師如来座像が作られた応永33年（1426）にはすでに行われていたと考えられる。川名の地は井伊家との関わりが強く、本尊も井伊家が願主となって制作されたものである。ひよんどり祭礼は、五穀豊穰などを祈る春祈祷の祭として、昭和30年代までは御堂の名称のとおり正月8日に行われていた。月が山間に入るのを待って行われ、夜空を焦がす大松明と若者の揉み合いが豪壮で印象的であることから「ひよんどり」と呼びならわしている。以前は、シシウチ神事などの諸行事が別々の日に行われていたが、昭和40年（1965）からは正月4日に全てを行っている。堂内では、松明が献納され、歌謡が行われた後、瀬宜の舞ほか9つの舞が奉納される。獅子の舞が終わると堂外に出て伽藍鎮めを行い、再び堂内で田遊び、オブッコ参詣、そして一同で汁掛飯を食して祭礼が終了する。



ひよんどり上演風景①

ひよんどり祭礼には大瀬宜、小瀬宜、松明献納者（タイトボシ）、堂守、僧の供、ヒドリ、若連と諸役が分担されており、ヒドリ役を出す年齢集団である若連以外は世襲されている。また、近年は堂内で行われる舞に子どもたちも参加しており、その保護者のほか、世襲の家々、年齢集団、保存会、自治会の組織が連携、協力して、地域をあげて伝承活動に取り組んでいる。地域の文化遺産である「ひよんどり」を核に地域コミュニティの活性化に努めている。

今回は、堂内で行われる舞から、子どもたちによる「順の舞」と「片剣の舞」、若連による「両イナムラの舞」、保存会による「獅子の舞」が披露された。



ひよんどり上演風景②

4. 第18回全国山城サミット連絡協議会浜松大会

■全国山城サミットについて

浜松は全国有数の「城のまち」であり、その数、100ともそれ以上とも言われている。そう聞いて意外に思うかも知れないが、城と言っても天守を持つ近世の城（平城）ではなく、そのほとんどが南北朝～戦国期に山を切り開き造ったとされる山城である。当時は櫓などの建物が存在していたかもしれないが、そのほとんどが、存在意義を失った江戸時代には廃城となる等、現在では残っていない。

城と言われても「何もない」と思われる山城だが、現地に立つと、堀・土塁・曲輪（くるわ）等、明らかに人の手により造られた構造物やその跡（遺構）が残されており、また、特に浜松の山城は、今川氏、武田氏、徳川氏が争奪を繰り返した城も数多く、歴史上大きな意味を持つ城も少なくない。

全国にもこのような山城はたくさんあるが、やはり近世の城に比べて一般的に知られていない感がある。その山城を持つ全国の市町村や関係団体が情報交換等を通じて交流を深め、山城の保存方法や観光資源としての山城を生かした地域の活性化を図り、潤いある豊かなまちづくりを進めることを目的として、平成6年に兵庫県和田山町で「第1回全国山城サミット（戦国山城サミット）」が開催された。翌平成7年には全国山城サミット連絡協議会が設立され、同サミットの位置づけがより明確化しました。その後は、開催地を変えて毎年開催されている。

※平成23年現在 加盟自治体数：82市町（政令指定都市は浜松市のみ）、加盟山城数：122

サミットでは加盟山城の紹介をはじめ、山城の研究成果や山城を活かしたまちづくりの事例発表、講演・シンポジウム、資料展示、現地見学会等が開催され、いずれも一般公開されているため誰でも参加することができる。加盟自治体の情報交換の場だけではなく、サミット加盟の山城や市町村の魅力や、全国に向けて広く発信できる場や、興味のある一般の方が山城に関する最新情報を収集することができる場となっている。

浜松市は平成17年の12市町村の合併により、全国に誇る山城を多数持ったことを契機に、平成18年度から協議会に加盟している。特に平成21年度からは、市制100周年記念事業としてこの全国山城サミットを浜松市で開催するために、精力的に誘致活動を続けていたが、その努力が実って、平成22年10月30日（土）、31日（日）に岡山県津山市において開催された第17回全国山城サミット連絡協議会津山大会において、次期開催地として決定された。（静岡県としては第2回の三島大会に続いて2回目の開催）



全国山城サミットポスター

<加盟山城>



三岳城



千頭峯城



大居城



二俣城



佐久城



大平城



高根城



鳥羽山城

■浜松大会について

浜松市制100周年記念事業として、平成23年11月19日（土）、20日（日）の二日間、第18回全国山城サミット連絡協議会浜松大会が開催された。また、それに先立ち、11月5日（土）と13日（日）にそれぞれプレイベントを開催した。

【開催状況】

- (1) 事業名 第18回全国山城サミット連絡協議会浜松大会
- (2) テーマ 徳川・武田争奪の城郭群を活かしたまちづくり
- (3) 日 程 平成23年11月19日（土）、20日（日）
・プレイベント
11月5日（土）、13日（日）
- (4) 会 場 11月19日（土）：アクトシティ浜松・中ホール
20日（日）：二侯城・鳥羽山城（参加費必要・事前申込制）
・プレイベント
11月5日（土）：千頭峯城、摩訶那寺、浜名惣社神明宮、三ヶ日宿、三ヶ日駅
13日（日）：なゆたホール（なゆた・浜北）
- (5) 主 催 浜松市・浜松市教育委員会、第18回全国山城サミット連絡協議会浜松大会実行委員会
- (6) 後 援 静岡新聞社・静岡放送、中日新聞東海本社、NHK浜松支局、テレビ静岡、静岡朝日テレビ、静岡第一テレビ、ケーブル・ウィンディ、K-MIX、Fm Haro!、静岡県文化財保存協会、(財)浜松観光コンベンションビューロー、(財)浜松市文化振興財団
- (7) 協 力 NPO法人えんしん地域サポート（11月5日）
- (8) 入場者数（参加者数） 1,370人（プレイベント含む）
- (9) 関連事業 戦国武将ゆかりの北遠「山城歴史旅」、春野山城まつり、高根城戦国祭り

【内容】

- 11月19日（土）（入場無料・事前申込不要）
- | | |
|-------------|--|
| 9:30 | 開場 |
| 10:00～10:20 | オープニングアトラクション
「静岡県無形民俗文化財滝沢の放歌踊」（浜松市立都田中学校放歌踊り倶楽部） |
| 10:25～11:55 | 基調講演「徳川・武田の抗争と遠州の山城」
講師：小和田哲男（静岡大学名誉教授・文学博士） |
| 13:00～14:30 | 協議会
① 全国山城サミット連絡協議会会長（浜松市長）あいさつ
② 規加盟紹介
③ 浜松大会参加自治体（団体）及び山城紹介
④ 次回開催地の決定
⑤ 第18回全国山城サミット宣言 |

14:40～17:10 シンポジウム「徳川・武田争奪の城郭群を活かしたまちづくり」

【事例報告】

- 二侯城・鳥羽山城における近年の調査成果について
発表者：浜松市文化財課
- 徳川・武田・今川氏が競った城郭群を活かしたまちづくり
発表者：中井 均（滋賀県立大学人間文化学部准教授）
- 高根城の復元整備とまちおこし
発表者：加藤理文（織豊期城郭研究会）
- 国民文化祭・城跡フェスティバルの経験
発表者：辰巳 均（元 浜松市文化財課長）

【パネルディスカッション】

- コーディネーター：中井 均
パネリスト：小和田哲男、加藤理文、辰巳 均

11月20日（日）（参加費1,000円・事前申込制）

現地見学会（説明：文化財課職員）

9:00 JR 浜松駅前→10:00～11:00 二侯城・鳥羽山城→11:30→12:30JR 浜松駅

・イベント

- ① 千頭峯城と三ヶ日の文化財めぐり（参加費400円・事前申込制）
日 時 11月5日（土） 9時15分～13時
- ② 春風亭昇太 落語&トーク「山城あるきのススメ」（入場料2,000円 ※当日2,500円）
日 時 11月13日（日） 開場13時30分／開演14時

■事業の様子

【イベント①・11月5日（土）】

11月5日（土）、北区三ヶ日町において「千頭峯城と三ヶ日の文化財めぐり」を開催した。天気は曇りであったが、雨の心配はなく、好条件での実施となった。

参加者の年齢層は幅広く、横浜市をはじめ、市外から参加された方もいた。また、NPO 法人えんしん地域サポートのみなさんが運営の手伝いをしてくださった。



山城についての説明を聞く

コースは、三ヶ日駅（駅舎が国の登録文化財）をスタートして、静岡県指定史跡の千頭峯城、湖北五山のひとつ摩訶耶寺、浜名惣社神明宮、三ヶ日宿をめぐって、三ヶ日駅に戻る内容であった。

千頭峯城は、北区三ヶ日町摩訶耶の通称センドウ山の山頂一帯に広がる山城である。浜松から本坂峠を越えて東三河に至る本坂道と、二俣から宇利峠を越えて新城に至る信州街道が交差する交通の要地に築かれ、



千頭峯城跡にて

街道を押さえる役目を担っていたと考えられ、北区引佐町にある三岳城の支城のひとつとして、南北朝時代に南朝方の拠点として築かれた城であり、古文書などから暦応2年(1339年)、北朝方の攻撃を受け、三岳城とともに落城したと伝えられている。

城は山頂の本曲輪を中心にT字状に伸びる尾根筋を利用して築かれています。本曲輪下段には二の曲輪、西側には堀切を挟んで土塁を伴う西曲輪が築かれています。また、東側には三段の階段状曲輪からなる東曲輪、南側には土塁を伴う南曲輪が配置されています。

昭和56年(1981年)に発掘調査が行われ、出土した土器の年代や、曲輪や土塁、堀切など配置の特徴から、戦国時代に城が大幅に改修されたことが明らかになっている。三河から遠江に侵攻した徳川家康が、浜名湖北岸地域の守りを固めるため、交通の要衝地にあるこの城に注目し、再利したと考えられている。

所要時間2時間30分の内容であったが、参加者は一人も途中棄権されることなく最後まで歩き通された。どなたも満足していただけたようで、「また三ヶ日に出かけたい。」「他の山城にもぜひ行ってみたい。」などの感想をいただいた。

【プレイベント②・11月13日(日)】

11月13日(日)、浜北区のなゆたホール(なゆた・浜北)において、もう一つのプレイベント「春風亭昇太 落語&トーク『山城あるきのススメ』」を開催した。会場は、始まる前から観客の熱気で包まれた。そして、昇太師匠が登場すると、ボルテージは最高潮に。

第1部は、昇太師匠による落語。「何を話すかは、お客さまの顔を見てから決めます」と師匠。

笑い・笑い・笑いの連続で、あっという間に第1部が終了。



トークショーの様子

第2部は、ゲストに山城仲間の中井 均氏（滋賀県立大学人間文化学部准教授）と加藤理文氏（織豊期城郭研究会）をお招きしての3人によるトークショー。

山城にまつわる「こぼれ話」の数々に、観客は大笑いしたかと思うと、「なるほど」と感心したりと、第2部もあっという間に終了。

最後に昇太師匠から全国山城サミット浜松大会に向けての熱いメッセージをいただいた。

<春風亭昇太師匠からの応援メッセージ>

浜松で「全国山城サミット」が開催される。いつかはまた県内のどこかでやるだろうと思っていたが、とうとうそれが現実のものとなった。お城好きとしては嬉しい限りで大歓迎だ。

日本には城跡が3万とも4万ともいわれる程、沢山の城が存在していて、現在でも発見が続いている。

一つの県に1000ちかい城があるという計算だ。えっ、そんなに。とお思いの方はたぶん天守閣を城だと思っている人なのだと思う。天守閣は日本のお城の歴史の最後に登場するお城の一部であって、大雑把な言い方ではあるが、江戸時代の一国一城制の頃のお城のイメージである。日本人が大好きな戦国時代に活躍し、歴史の舞台となったのは、土を削って造り出した中世城郭「山城」なのである。

そして浜松地区は、南北朝の争乱や、徳川 vs 武田の攻防の中で生まれた、歴史的にも城郭研究の上でも、貴重な山城が多数存在している。

しかし...僕の拙著「城あるきのススメ」にも書いたのだが、ある浜松の落語会の会場で、開演前に僕が行ってきた「佐久城」（旧三ヶ日町）の話しを高座でした時、客席の男性から声がかかり「そんな城は無い」と言われた事があった。...先ほど僕が行ってきた城が、無いのだそう。天守閣がお城だと思っている人の認識は大体このようなものだろう。

浜松といえば浜松城しか知らないのは、あまりにももったいないし、山城を「ホラ、皆みないなものだろ」と、一括りにしてしまうのは間違えである。この山城サミットを機会に、是非多くの皆さん、特に地元の皆さんに中世の城郭について知って頂きたいと思う。お城を知る事は、その土地の歴史をより深く、よりリアルに感じる近道だ。

浜松といえば徳川さん...だけではなく幾多の小領主が割拠し、三方原の合戦だけでなく、多くの戦いがあったダイナミックな時代を知る手がかりにして頂き、郷土の歴史を今に伝える小さな城跡にも、大きな理解をいただけたらと思う。

【11月19日（土）】

11月13日（日）のイベントに出演いただいた落語家の春風亭昇太師匠の「熱い」ビデオ応援メッセージが場内に流れた後、開演。まずオープニングアトラクションとして、浜松市立都田中学校放歌踊り倶楽部のみなさんに、静岡県無形民俗文化財「滝沢の放歌踊」を披露していただいた。

つづいて、静岡大学名誉教授・文学博士の小和田哲男氏による基調講演「徳川・武田の抗争と遠州の山城」が行われた。基調講演としてまさにふさしい、ひとつひとつの話題が大変興味深く、90分という時間が短く感じられ、大変充実した講演であった。



オープニングアトラクション



基調講演

昼休みをはさんで、午後の部の最初は協議会を開催。浜松市長のあいさつにつづき、新たに協議会に加盟した自治体と山城の紹介を行った。静岡県から4自治体・6山城、愛知県から5自治体・8山城、そして、浜松市からも新たに鳥羽山城が加盟し、82自治体・122城が加盟する協議会となった。つづいて、浜松大会の参加自治体による山城紹介が行われた。今大会は21自治体（浜松市含む）・1団体が参加し、その内、9自治体に壇上発表をしていただいた。発表者のみなさんの熱の入った発表に来場者の目と耳は釘づけになった。

そして、事務局から次期開催地として「富山県魚津市（松倉城跡）」を提案させていただき、満場一致で承認をいただいた。（第19回全国山城サミット連絡協議会魚津大会は、平成24年10月13日、14日に開催）



次期開催市（富山県魚津市）

最後に、浜松市長が「第18回全国山城サミット宣言」を行い、協議会は終了した。

<第18回全国山城サミット宣言>

本日、全国各地から山城を有する自治体や関係団体が、徳川・武田による山城争奪の舞台・静岡県浜松市に集い、「第18回全国山城サミット連絡協議会浜松大会」を開催しました。

全国山城サミット連絡協議会は、山城を持つ全国の市町村及び関係団体が、情報交換等を通じて親睦と交流を深め、山城を活かした潤いのある豊かなまちづくりを進めることを目的としています。

山城は、そこに住む人々を守り、地域の歴史と文化を育んできました。そして、その役目を終えた後も、豊かな自然の中で山城は深く地域に根づき、私たちの先人たちにより「地域の歴史・文化の証」として守られ、親しまれてきました。

山城は、今も私たちの地域に生き続けています。

私たちは、地域のかげがえのない文化遺産である山城の保存・活用に、地域住民と協働で取り組み、地域の歴史資源である山城を後世に伝え続けることを誓い、「全国山城サミット浜松宣言」とします。

平成23年11月19日 第18回全国山城サミット連絡協議会会長 浜松市長 鈴木康友

休憩をはさんで、本日のメイン、シンポジウム「徳川・武田争奪の城郭群を活かしたまちづくり」を実施した。

まず、4つの事例報告を行った。



- ・ 浜松市文化財課による「二俣城・鳥羽山城における近年の調査成果について」



- ・ 滋賀県立大学人間文化学部准教授の中井 均氏による「徳川・武田・今川氏が競った城郭群を活かしたまちづくり」



- ・ 織豊期城郭研究会の加藤理文氏による「高根城の復元整備とまちおこし」



- ・ 元 浜松市文化財課長の辰巳 均氏による「国民文化祭・城跡フェスティバルの経験」

どの報告も、調査・研究の成果や経験に基づくもので、また、他都市・他地域の事例も交えた内容で、来場者は熱心にメモを取っていた。

つづいて、パネルディスカッション。

事例報告をしていた中井 均氏をコーディネータに、基調講演をいただいた小和田哲男氏、事例報告をいただいた加藤理文氏と辰巳均氏をパネリストに浜松大会のテーマである「徳川・武田争奪の城郭群を活かしたまちづくり」について討論を行った。



パネルディスカッションの様子

パネリストからはそれぞれ「前向き」の課題や意見をいただいたが、「地域資源である山城を、どうまちづくりに活かしていくか」、浜松市だけでなく、他都市から参加していただいたみなさんにとっても大変参考になる充実した内容であった。



【11月20日(日)】

JR 浜松駅前からバスで1時間弱の移動後、鳥羽山城の駐車場に到着。

主催者あいさつと天竜観光協会の会長の歓迎のあいさつ後2班に分かれ、それぞれ二俣城と鳥羽城を見学した。実際に発掘調査を担当した文化財課職員の説明に参加者は真剣に聞き入っていた。



二俣城



鳥羽山城

平成 23 年度 浜松市文化財調査報告

2013 年 3 月 12 日

編集 浜 松 市 文 化 財 課

発行 浜 松 市 教 育 委 員 会

印刷 株式会社 シバプリント